

金沢大学

FD 活動報告書



令和3年度

<目次>

1	令和3年度 全学FD活動概要	1
1-1	本学FD活動の概要	2
1-2	各部局等からの回答をもとにした点検	4
1-3	FD委員会の活動	14
1-4	<ピックアップ>特色あるFD活動	19
1-5	教学マネジメントセンターの活動	28
2	各部局等のFD活動	37
2-1	照会事項1 令和2年度に提案された予定・課題の達成度	38
2-2	照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況	45
2-3	照会事項3 授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況	52
2-4	照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況	65
2-5	照会事項5 FD研修会の実施状況	71
2-6	照会事項6 その他・コース・専攻単位での教育改善活動	76
2-7	照会事項7 自己評価及び総評	79
3	各部局等のBSD活動	85
3-1	照会事項1 BSD研修会の実施状況	86
3-2	照会事項2 その他の活動状況	94
3-3	照会事項3 自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定	95
4	資料編	97
4-1	令和3年度授業評価アンケート	98
4-2	令和3年度卒業・修了者アンケート	101
4-3	令和3年度卒業・修了後アンケート	102
4-4	金沢大学FD委員会規程	105
4-5	金沢大学におけるFD活動指針	107
4-6	金沢大学履修規程	109
4-7	金沢大学シラバス様式	113
4-8	令和3年度金沢大学FD委員会名簿	114

1 令和 3 年度 全学 FD 活動概要

1-1 本学FD活動の概要

本学では平成20年度、「金沢大学FD委員会規程」（後掲：4資料編）に基づき、教育企画会議に全学のFD委員会を設置した。

FD（ファカルティ・ディベロップメント）とは、

授業の内容・方法の改善等による教育の質の向上並びに学生の心身の保護とキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための教員及び部局等の研究、研修等の自発的取り組みをいう。（金沢大学におけるFD活動指針第2）

FD委員会は、平成20年度に「金沢大学におけるFD活動指針」（後掲：4資料編）をまとめた。同指針はFD活動が継続的かつ実質的に改善するために、FD活動をいわゆるPDCAサイクルの中に位置づけている（図1）。その一環としてFD委員会は各部局等が毎年度作成する報告書に基づき、当該年度の全学におけるFD活動に関する報告書（「年度報告書」）を作成することとした。この指針に基づいて作成したものが本報告書である。

本報告書では、各部局等が令和3年度の活動に対して行った自己評価のみならず、令和4年度における改善に向けての取り組み予定についてもまとめている。これらの点について他部局等の状況を相互に確認し、FD活動を相互に促進しあうことで、本学全体のFD活動が継続的かつ実質的に改善することが期待できる。

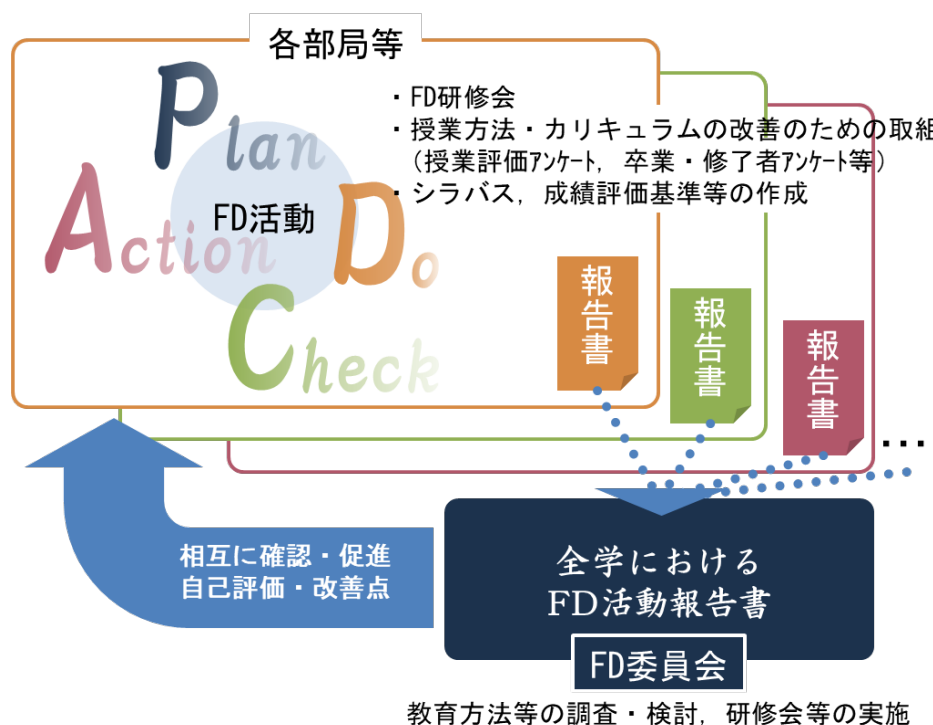


図1 金沢大学におけるFD活動

なお、同指針の特徴の1つとして、授業の内容や方法の改善に関することにとどまらず、学生の心身の保護とキャリア形成を促進する等、学生支援に関する活動をも FD 活動の中に含めている点が挙げられる。この点に関連して、本学では教育企画会議学生生活委員会を中心に「学生支援・学修支援」に資する目的で『教職員必携 学生サポートガイドブック』を毎年度見直し、アカンサスポータルに掲載するとともに、関係教職員にエッセンシャル版パンフレットを配布している（図2）。その内容は学生相談、留学生支援、キャリア支援、障がい学生支援等、多岐にわたっており、教職員は本冊子を有効に活用することにより、学生が抱えた問題を早期に解決し、すべての学生が「充実した学生生活」が送れるように、学生支援に努めている。

また、教員の FD 活動支援や学生支援の分野で、職員の果たすべき役割はより一層大きくなりつつある。こうした現状に鑑み、職員の SD（スタッフ・ディベロップメント）及び BSD（バックアップ・スタッフ・ディベロップメント）活動についての指針を盛り込んでいることも同指針の特徴の1つである。

ところで、同指針では、教学マネジメントセンターが FD 及び BSD 活動に対して必要な支援を行うことを定めている（第8）。教学マネジメントセンターが令和3年度に行った FD・BSD 活動及び他部局等の FD・BSD 活動に対して行った支援の内容については1-5 教学マネジメントセンターの活動において述べる。

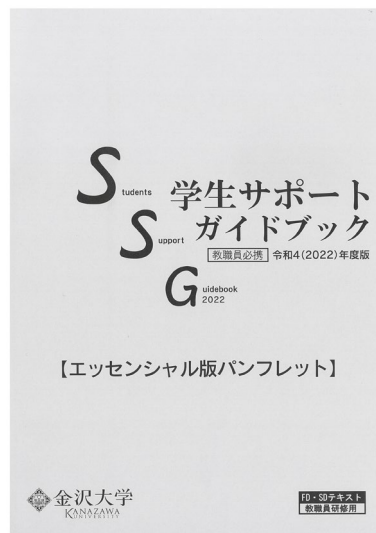


図2 教職員必携学生サポートガイドブック

1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

本学は、学則第3条において、「教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価(以下「自己点検評価」という。)並びに授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を行う」と定めている。また、「金沢大学におけるFD活動指針」(以下、FD活動指針)においては、研修及び研究につけ加えて、「改善に向けての取組みを、計画・実践・評価・改善のサイクルの中に位置づけ、より組織的かつ継続的に行うことにより、実質的な改善へと繋げて」いくとしている。

この指針を受けて、第3期中期計画では、「教育研究の質保証及び適切な大学運営を行うために第2期中期目標期間に構築した自己点検評価を中心とするPDCAサイクルをより効果的に機能させる」ために、「本学の諸活動に関する自己点検・評価について、実施方法等を不断に見直すこと」を目標とした。全学および各部局は、これら学則、「FD活動指針」、第3期中期計画、年度計画等に基づきFD活動を推進している。

計画・実践・評価・改善のサイクルとは、学類、専攻ごとに、①学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を定め、卒業・修了時における到達目標を明確にする、②ディプロマ・ポリシーに沿ってカリキュラムを体系化し、各授業科目の役割をマップ及びツリーという形で可視化する、③各授業科目のカリキュラム上の位置付け、教育内容・方法・到達基準をシラバスで学生に伝達する、④授業科目および教育プログラムの達成状況を、成績分布・授業評価アンケート・学修ポートフォリオ・卒業・修了者アンケートで確認する、⑤それらの分析結果に基づいて、各授業科目の教育内容・方法の改善、教育プログラムの改善を行い、部局におけるカリキュラム(マップ及びツリー)を再検証するというものである。

令和3年度は、各部局のFD活動を事実に基づき確認するため「シラバス改善のための取組みの実施状況」、「授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況」、「成績評価基準等の作成・検証状況」、「FD研修会の実施状況(本学主催)」、「その他・コース・専攻単位での教育改善活動」の5項目、および、自己点検・評価活動に関して「令和2年度に提案された予定・課題の達成度」、「令和3年度FD活動の自己評価及び総評」の2項目について照会した。以下に、それらについての回答を点検した結果について述べる。なお、項目によって回答母数が異なる場合もある。

照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

【検証事項1】令和3年度の実施状況

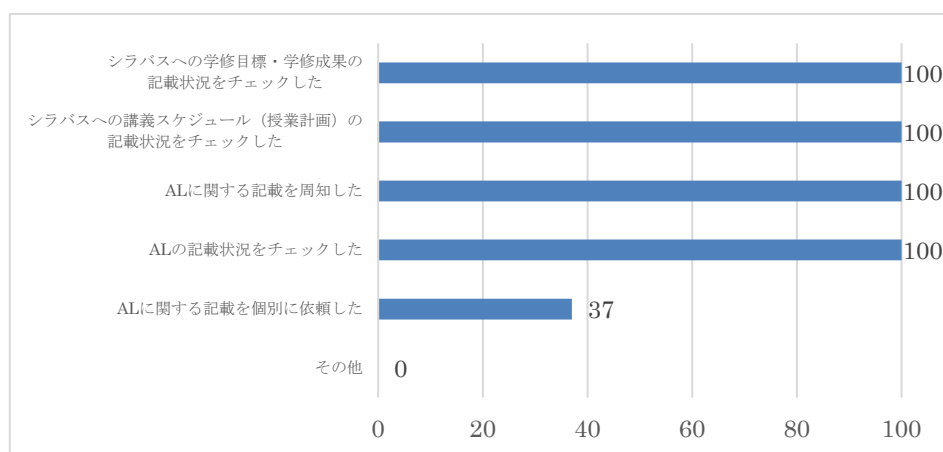
1) シラバスの点検①（教学マネジメント関連）

シラバスの点検については、大きく教学マネジメント関連とSGU関連の2つに分けた設定を設定した。教学マネジメント関連としては、「シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした」、「シラバスへの講義スケジュール（授業計画）の記載状況をチェックした」、「ALに関する記載を周知した」、「ALの記載状況をチェックした」、「ALに関する記載を個別に依頼した」、「その他」のチェック欄を設けた上で、その具体的な内容について記述する形としている。

「シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした」、「シラバスへの講義スケジュール（授業計画）の記載状況をチェックした」、「ALに関する記載を周知した」、「ALの記載状況をチェックした」の4項目については、全ての教育担当部局でチェックが入っており、学修目標・学修成果、講義スケジュール、AL活動についてのシラバス点検は十分実施されていることが確認できた。さらに、先導学類、人文学類、学校教育学類、数物科学類・数物科学専攻、物質化学類・物質化学専攻、電子情報通信学類・電子情報科学専攻、薬学類（創薬科学類）・創薬科学専攻・薬学専攻、保健学類・保健学専攻、国際基幹教育院GS教育部門、同外国語教育部門では「ALに関する記載を個別に依頼した」にもチェックが入っており、ALについてさらに踏み込んで確認している。

一方で、一部の教育担当部局で前年度点検したことにより、カリキュラム変更した科目のみシラバス点検を行ったとの記述や自己点検評価で△との回答があることから、恒常的なシラバス点検体制が不十分であることがうかがえる。

各項目のチェック率（回答母数：27）



「ALに関する記載を個別に依頼した」以外の項目はすべての教育担当部局で実施していることが確認できた。

1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

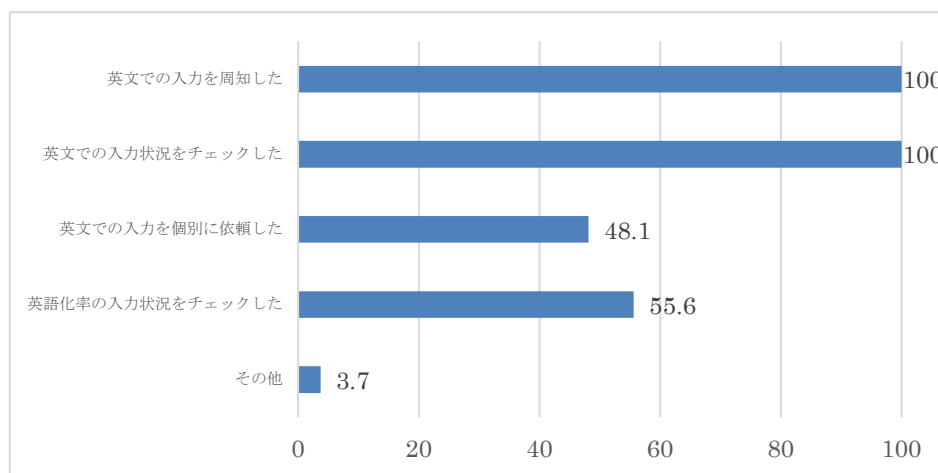
1) シラバスの点検② (SGU 関連)

次に、SGU 関連で求められている授業英語化に関する設問として、「英文での入力を周知した」、「英文での入力状況をチェックした」、「英文での入力を個別に依頼した」、「英語化率の入力状況をチェックした」、「その他」についてのチェック欄および具体的内容について回答する形としている。

先導学類、法学類、学校教育学類、国際学類、数物科学類・数物科学専攻、電子情報通信学類・電子情報科学専攻、薬学類（創薬科学類）・創薬科学専攻・薬学専攻、国際基幹教育院 GS 教育部門、同外国語教育部門では、全ての項目にチェックが入っておりシラバスの点検が十分実施されているとの回答であった。

一方で、一部の学類・専攻では一部の項目にのみチェックが入っていることや、自己点検評価で△と回答している部局もあり、授業英語化関連でのシラバスチェックが不十分であることがうかがえる。

各項目のチェック率（回答母数：27）



「英文での入力を個別に依頼した」、「英語化率の入力状況をチェックした」が半数前後の低い値となっており、授業英語化への取り組みが不十分であることがわかる。

通常のシラバス点検および授業英語化シラバス点検ともに、チェックの入っていない教育担当部局のいくつかで前年度に点検作業を行ったため今年度は行っていないという趣旨の記述が見られるが、義務化されている FD 活動の一環としてのシラバスチェックは例え開講科目、科目体系に変更がなくとも毎年実施すべきものであるという認識共有が求められる。また、多くの学類でシラバス点検について、学類会議、教務・学生委員会などを中心に組織的に確認している一方で、個人レベルでの点検実施や、誰がどこで点検したのかが明記されていないケースがいくつか見られたことは今後の課題であると考ええる。

照会事項3 授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況

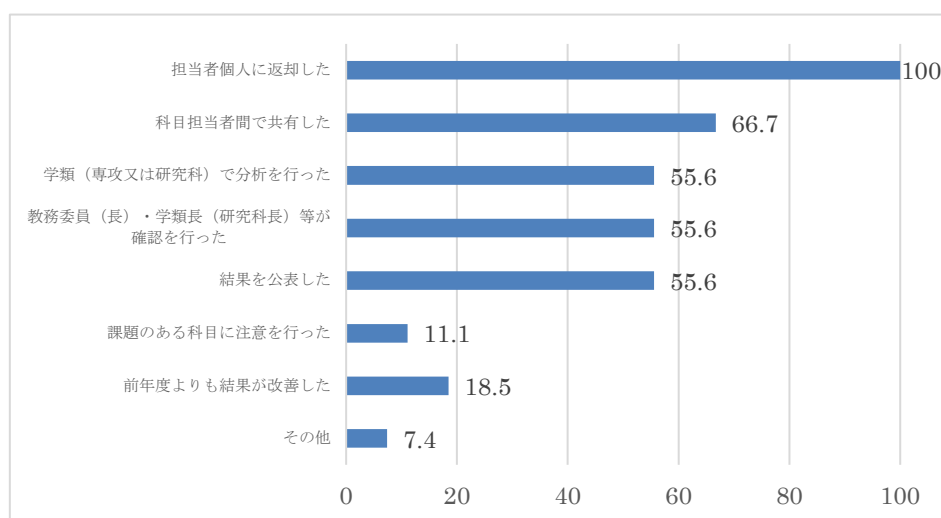
【検証事項1】授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用したか。

1) 授業評価アンケート

授業評価アンケートの結果をどのように授業改善に活用したかでは、「担当者個人に返却した」、「科目担当者間で共有した」、「学類（専攻又は研究科）で分析を行った」、「教務委員（長）・学類長（研究科長）等が確認を行った」、「結果を公表した」、「課題のある科目に注意を行った」、「前年度よりも結果が改善した」、「その他」について回答を求めた。

国際学類のみ全ての項目にチェックが入っており、人文学類で1つを除き、法学類、医学類、医薬科学類、保健学類・保健学専攻、法学研究科（修士課程・専門職学位課程）で2つを除いてチェックが入っており、授業評価アンケートを積極的に活用している教育担当部局があることは確認できたが、一方で、0から3しかチェックが入っていないところも多く存在しており、授業評価アンケートの活用については未だ大きな課題であることがわかる。

各項目のチェック率（回答母数：27）



「学類（専攻又は研究科）で分析を行った」、「結果を公表した」で半数強、「課題のある科目に注意を行った」、「前年度よりも結果が改善した」においては、ほとんどの教育担当部局で実施されておらず、学生の声を十分生かし切れていない残念な結果となっている。

2) 卒業・修了者に対するアンケート

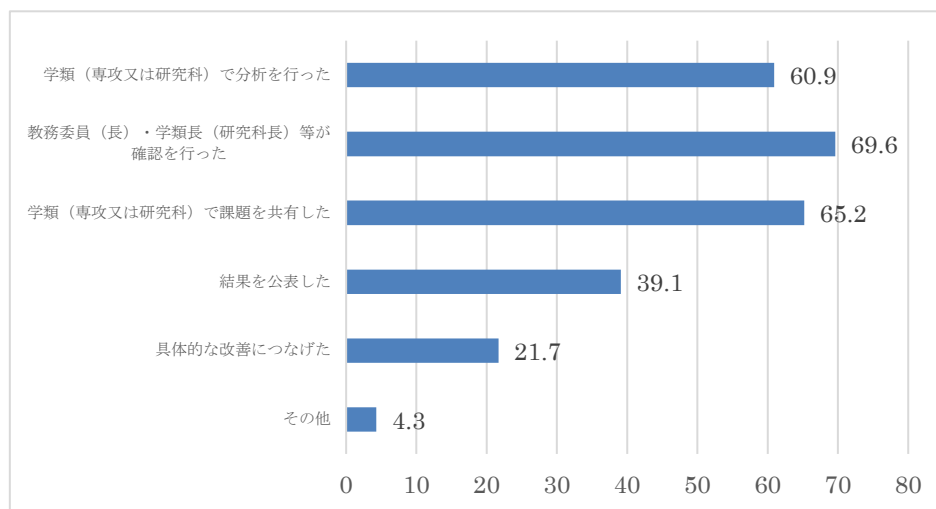
卒業・修了者に対するアンケートに関しては、「学類（専攻又は研究科）で分析を行った」、「教務委員（長）・学類長（研究科長）等が確認を行った」、「学類（専攻又は研究科）で課題を共有した」、「結果を公表した」、「具体的な改善につなげた」、「その他」について回答を求めた。

人文学類、国際学類ですべての項目にチェックが入っており、物質化学類・物質化学専攻、電子情報通信学類・電子情報科学専攻、保健学類・保健学専攻、法学研究科（修士課程・専門職学位課程）、教職実践研究科でも1つを除いてチェックが入っているなど、卒

1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

業・修了者アンケート結果を積極的に活用しているところがある一方で、ほとんどチェックが入っていない、または、自己点検評価で△と回答している教育担当部局も散見され、学内での温度差がうかがえる。

各項目のチェック率（回答母数：23）



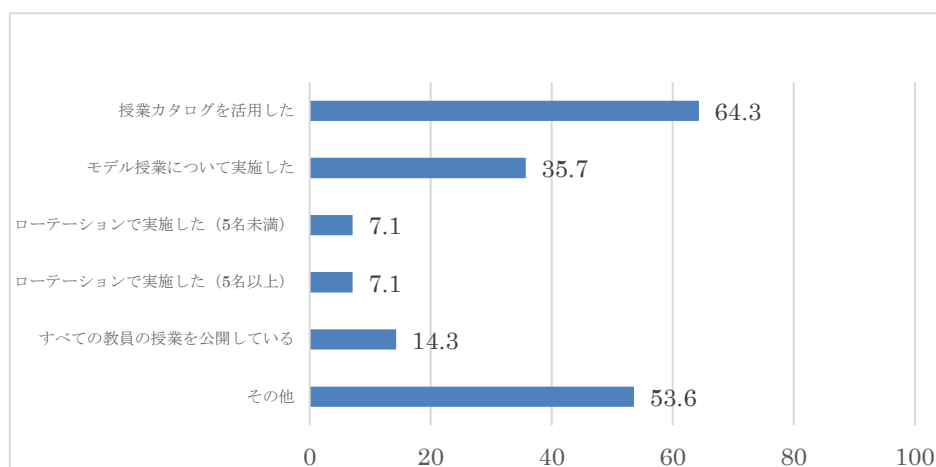
卒業・修了者に対するアンケート結果の確認、共有はなんとかできているが、分析、改善が大きな課題であることがわかる。

【検証事項3】教員相互の授業参観（遠隔授業の参観を含む）

遠隔授業の参観を含む教員相互の授業参観に関しては、「授業カタログを活用した」、「モデル授業について実施した」、「ローテーションで実施した（5名未満）」、「ローテーションで実施した（5名以上）」、「すべての教員の授業を公開している」、「その他」について回答を求めた。

「その他」をのぞく5項目について見ると、10の教育担当部局で2つ以上の項目にチェックはついているが、そのほかは0または1つにしかチェックがついていなかったり、自己点検評価で△と回答した部局が複数あるなど、授業参観という形態でのFDが十分根付いていないことがわかる。一方で、ほかの設問への回答とは大きく異なり、ほぼ半数の教育担当部局が「その他」にチェックをつけ、例えば、（授業参観ではないが）特定の授業を公開した（先導学類）、LMSでの掲示板等での情報交換（経済学類、学術メディア創成センター）、オムニバス講義教材および学生の学修活動のLMS上での共有（機械工学類・機械科学専攻）、オンラインコンテンツの公開および視聴（医薬科学類、医薬保健学総合研究科（修士課程・医学博士課程）、新学術創成研究科など、授業参観に相当する多様な取り組みについての回答がなされている。

各項目のチェック率（回答母数：28）



これらの数字から、AP 事業で全学に浸透を目指した授業カタログ、モデル授業は一定程度活用されていることがわかる。一方、授業参観実施、授業公開としては非常に低い数値にとどまっており、FD として不十分と見なされる可能性があるが、「その他」の回答にあるように多様な形態で情報公開、情報共有は行われているため、今後、FD としての授業参観の目的についての認識共有を進めるとともに、今後は回答選択肢の見直しの検討が必要と考えられる。

照会事項 4 成績評価基準等の作成・検証状況

【検証事項 1】令和 3 年度の実施状況

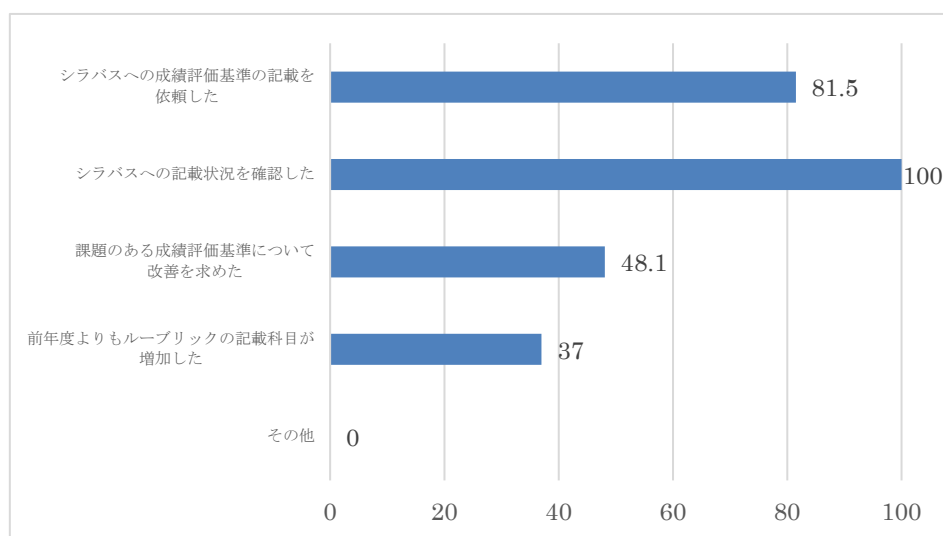
1) 成績評価基準等の作成・検証

成績評価基準等の作成・検証では、「シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した」、「シラバスへの記載状況を確認した」、「課題のある成績評価基準について改善を求めた」、「前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した」、「その他」について回答を求めた。

人文学類、経済学類、数物科学類・数物科学専攻、薬学類（創薬科学類）・創薬科学専攻・薬学専攻、国際基幹教育院外国語教育部門では、全ての項目にチェックがつけられており、成績評価基準に対する積極的な取り組みがうかがえる。一方で、1 項目にしかチェックのつけられていない教育担当部局もいくつか見られることは課題である。

1-2 各部局等からの回答をもとにした点検

各項目のチェック率（回答母数：27）



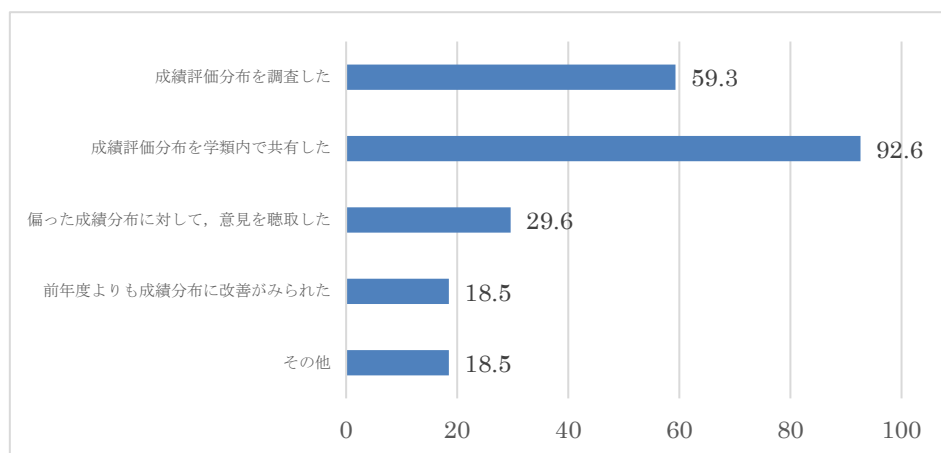
「課題のある成績評価基準について改善を求めた」、「前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した」の数値が低い。ルーブリックについては科目特性の問題、既に多くの科目で記載されている可能性があるためある程度は仕方ないといえるが、課題のある成績評価基準については恒常的なシラバス点検体制の中で可及的速やかに改善されることが望ましく、FDとして大きな課題である。

2) 成績評価方法の検証

成績評価方法の検証に関しては、「成績評価分布を調査した」、「成績評価分布を学類内で共有した」、「偏った成績分布に対して、意見を聴取した」、「前年度よりも成績分布に改善がみられた」、「その他」について回答を求めた。

国際学類、生命理工学類・自然システム学専攻、法学研究科（修士課程・専門職学位課程）からは全てにチェックの入った回答が提出されており、成績分布への関心が高いことがうかがえる。一方、1つしかチェックのない教育担当部局も少数ではあるが存在していることは課題である。成績をつけるのは教員の専権事項ではあるが、あまりに偏りのある成績分布は好ましくないという成績分布に関する認識共有を進める必要性が認められる。

各項目のチェック率（回答母数：27）



「成績評価分布を学類内で共有した」が高い数値を示しており情報共有は浸透していることがわかる。しかし、「成績評価分布を調査した」は6割に満たないこと、「偏った成績分布に対して、意見を聴取した」は3割程度、「前年度よりも成績分布に改善がみられた」は2割程度と低い数値となっており、成績分布に組織的に関与できていない現状が浮き彫りとなっている。「その他」では、主要科目について成績評価エビデンスとして答案のコピーを収集し、試験実施の厳密化を推進している(物質化学類・物質化学専攻)、学類会議において、成績分布を意図的に偏らせないように周知した(機械工学類・機械工学専攻)、シラバスに目標達成度を評価するための指標が適切に設定されているかを確認し、学修成果の獲得に係る判断基準を示した(薬学類(創薬科学類)・創薬科学専攻・薬学専攻)など、回答選択肢とは異なるが成績分布への異なるアプローチが行われていることも確認できた。また、一部の研究科では受講者数が少ないため成績分布調査があまり意味をなさないとの意見も出されているため、各教育担当部局で特性に応じた取り組みも一定程度は認めることが求められる。

照会事項5 FD研修会の実施状況

前年度同様、一部の教育担当部局を除き年に1回以上のFD研修会は実施されている。新設学類である先導学類においては、特徴的な科目、学生募集、学生対応など幅広いテーマで学類に対する認識共有が進められている。オンライン、ハイブリッド等のコロナ禍で変わった授業形態についての研修も継続的に実施されていることが確認できる。一方で、学域GS言語科目の課題について(経済学類)、教員志望学生の意識調査(学校教育学類)、プログラム制移行に関して(国際学類)、講義の進め方について(物質化学類・物質化学専攻)、カリキュラム開発(理工3学類)、アクティブ・ラーニング、カリキュラム、評価などについて定期的に開催(医学類、法学研究科(修士課程・専門職学位課程))、学生のメンタルサポートケア(保健学類・保健学専攻)、TOEIC、EAP、授業テキストなどについて(国際基幹教育院・外国語教育部門)など、各教育担当部局で課題と認識しているテーマについてのFD研修会も行われている。さらに、研究関連として、ハゲタカジャーナル問題(経済学類)、学類教員の研究報告(地域創造学類)なども実施されている。ただし、これらのFD

研修会が教育担当部局内での実施にとどまっている点は残念である。教育、研究に関して共有可能なテーマのFD研修会については全学に公開・広報されることが望まれる。

照会事項6 その他・コース・専攻単位での教育改善活動

その他教育改善活動では、上述の回答ではカバーしきれなかったFD活動確認のため、「教員間で教育についての定期的な意見交換」、「学生からの意見聴取」、「授業評価の経年変化分析」、「自己点検の実施」、「教育賞等教育業績の積極的な評価」、「その他」について回答を求めた。コース・専攻単位でFDに取り組んでいる具体例の回答からは、学類単位だけでなく、コース・専攻単位での積極的なFD活動について確認できた。

「教員間で教育についての定期的な意見交換」が実施されていることから、組織内での教員同士の交流重視の姿勢がうかがえる。また、「学生からの意見聴取」は学修者重視の教育への転換の流れにおいて重要であり、回答した教育担当部局の半数で実施されていることは今後の全学的展開へつながる可能性を示していると考えられる。

一方、「授業評価の経年変化分析」はあまり行われておらず、「照会事項3 授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況【検証事項1】1) 授業評価アンケート」の回答における「課題のある科目に注意を行った」、「前年度よりも結果が改善した」の数値が低いことを裏付けるものとなっている。「自己点検の実施」もあまり行われていないが、本FD活動報告書のための回答を組織としてしっかり行うことが、独自の自己点検の実施につながるとの意識のもと、自らの活動を振り返ることは重要である。「教育賞等教育業績の積極的な評価」への回答数も非常に低い、教員同士での相互評価において、研究業績だけで無く、教育業績の積極的な評価に向けた意識改革は重要であると考えられる。

今後の課題

今回、教学マネジメントの観点から、シラバスにおける学修目標・学修成果の記載状況、講義スケジュール（授業計画）の記載状況を新たに点検することにしたこと、さらには、卒業・修了者アンケート結果等を活用しながら、授業改善だけではなく、学位プログラムレベルのカリキュラム改善に着目するようにしたこと、照会事項の改善充実を図った。それらを踏まえて、照会事項1～6の回答を総括し課題について指摘したい。

シラバス改善のための取組みの実施状況に関して、学修目標・学修成果、講義スケジュール、AL関連の記載および英文での入力状況については全ての教育担当部局で確認が行われていた。一方で、個人レベルでの点検実施や、誰がどこで点検したのかが明記されていないケースがいくつか見られたことなど、シラバスの組織的・恒常的な点検体制が構築されていない教育担当部局があることも判明しており、今後の課題であると考えられる。

次に、授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況では、授業評価アンケートおよび卒業・修了者アンケート結果を積極的に活用している教育担当部局があることが明らかになったが、授業評価アンケート結果で課題のある科目への対応が十分行われていないこと、および、それに関連するが、前年度よりも結果が改善しているケースが少ないこ

と、卒業・修了者アンケート結果の分析、それを反映した改善活動が不十分であること、授業参観が不活発であること、課題のある成績基準改善が十分進んでいないこと、偏った成績分布への対応が不十分であること、などの課題も見えてきた。

教員相互の授業参観については、Web 上で確認できる授業カタログの活用は一定程度進んでいることが確認できたが、具体的な授業参観についてはまだまだ低調であることも判明した。ただし、授業参観以外の多様な形態での教員間での情報共有、情報公開は実施されていることが「その他」への回答から見て取れるため、今後は学類での FD 活動の実態をより把握できるようにするための照会事項の見直し等の検討が必要と考えられる。

成績評価基準等の作成・検証状況に関しては、課題のある成績評価基準について改善を求めたところが半数にとどまっている点、偏った成績分布への対応が不十分な点が明らかになっている。このことは、成績評価について組織的に関与できていないことを示しており改善が求められる。

さらに、学類等教育担当部局単位だけでなく、その下位組織としてのコース・専攻等の単位でも積極的に FD 活動に取り組んでいる状況も把握できたことは本学での教育改善における明るい兆候であると言える。

学修目標・学修成果を明確にしたシラバス作成、それに基づく授業実施および成績評価、授業評価アンケートおよび卒業・修了者アンケート結果による改善がよりよい授業を作る上での PDCA サイクルであるが、まだまだ授業実施本体以外の点についての意識が不十分であり、このサイクルが十全に機能しているとはいいがたいのが現状であることが今回の照会事項への回答から明らかになった。

今後は、各教育担当部局（特にチェックが少なかった部局）において、このサイクルの重要性をしっかりと認識し、学生により力をつけさせることができる教育を提供出来るよう努めることが望まれる。これらの課題については、「2-1 照会事項1 令和2年度に提案された予定・課題の達成度」、「2-7 照会事項7 自己評価及び総評」において認識されている部分もあり、今後の改善につなげられる可能性がうかがえる点は好ましい傾向であると言える。大学教育は生き物であり、毎年のように課題が出てくるが、教育担当部局として学修者重視の姿勢の下、教員間での認識を共有し、課題、解決方法を組織として検討するという体制を構築・維持していくことが、自己評価4（大いに評価出来る）につながると思われる。

1-3 FD委員会の活動

令和3年度における活動		
令和3年4月2日 令和3年4月5日	(金) (月)	令和3年度新任教員説明会<教育・学生編>・令和3年度 第1回全学FD研修会開催
令和3年6月4日	(金)	第1回FD委員会開催
令和3年7月12日	(月)	第2回FD委員会開催
令和3年8月10日	(火)	第2回全学FD研修会「授業評価アンケートについて考える」開催
令和3年9月27日	(月)	第3回FD委員会開催
令和3年9月28日	(火)	第3回全学FD研修会「STEAM教育の意義や価値について考える」開催
令和3年10月29日	(金)	第4回全学FD研修会「FD活動報告書成果発表会」ー学 類等における組織的FDの取組事例ー開催
令和3年11月12日	(金)	第4回FD委員会開催
令和3年12月24日	(金)	教学マネジメントセミナー2021「「学位プログラム」レベ ルのモニタリング・レビューを考える～フィードバック・ ループをどう構築するのか～」開催
令和4年2月21日	(月)	第5回FD委員会開催
令和4年2月28日 ～3月24日	(月) ～ (木)	英語による授業担当者のためのFD研修会開催

- 各委員会の協議・報告事項及び議事要旨については下記にて公開している。
本学トップページ→教職員→学内会議の議事要旨等→FD委員会
<https://www2.adm.kanazawa-u.ac.jp/kaigi/gakusei/02/index.htm> (学内教職員専用)
- 各研修会（英語による授業担当者のためのFD研修会は除く。）の動画又は資料については本学ポータルサイト（アカンサスポータル）にて公開しているので、教職員は随時閲覧可能である。
本学Webサイト「トップ」→「教職員」→「教育力の強化に挑戦」→「FD研修会，新任教員説明会」→「FD研修会 [学内専用]」
https://lms-wc.el.kanazawa-u.ac.jp/webclass/login.php?group_id=e1787465a6cd7c3deae534f482470eae&auth_mode=SHIB (学内教職員専用)

【研修会】

「令和3年度 新任教員説明会<教育・学生編>・令和3年度 第1回全学FD研修会」		
主 催	教育企画会議専門委員会 FD 委員会	
日 時	令和3年4月2日(金) 10時30分～11時30分(第I部) 令和3年4月5日(月) 9時30分～11時45分(第II部)・FD研修会	
開催方法	Webexによるオンライン開催	
対 象	前年度研修会(令和2年4月4日開催)以降に本学に採用された教員を主とし、関心のある教員や学務系職員の参加も可能	
参 加 者	各 39名	
概 要	新任の教員を主な対象とする全学の研修会は、平成20年度から毎年度開催している。従来は、「教養教育担当に関する初任者研修」(共通教育機構が実施、平成16～18年度)、「新任教員等研修会(兼共通教育担当に関する研修会(初任者対象))」(教育担当理事と共通教育機構長の連名で実施、平成19年度)として開催されてきた。 本研修会の目的は、本学の教育及び学生支援等の現状を把握することで、授業内容・方法の改善、教育の質の向上並びに学生の心身の保護とキャリア形成の促進を図ることである。	
プログラム	第I部 新任教員説明会<教育・学生編> アカンサスポータル及び教務システムの活用 (森 祥寛 学術メディア創成センター 助教) 第II部 新任教員説明会<教育・学生編> (2) 本学におけるFD (片岡 邦重 FD委員長) (3) 学生生活の指導と支援 (片岡 邦重 学長補佐(教育改革・学修支援担当)) (4) 学生の心のケア及び相談 (足立 由美 保健管理センター 教授) (5) 学生募集及び入試状況 (山本 茂 学長補佐(学生募集・高大接続担当)) FD研修会 「各種授業支援ツールの使用法およびFD支援体制について」 (堀井 祐介 教学マネジメントセンター 教授)	
アンケート結果 抜 粋	・今後の教育活動に大変役立つ情報だった。 ・いろいろ情報を入手できた。	

「第2回全学FD研修会 授業評価アンケートについて考える」

主 催	教育企画会議専門委員会 FD 委員会、教学マネジメントセンター及び「融合した専門知と鋭敏な飛躍知を持つ社会変革先導人材育成プログラム運営委員会」	
日 時	令和3年8月10日(火) 15時～16時30分	
会 場	Zoomによるオンライン開催	
参 加 者	60名	

1-3 FD 委員会の活動

概 要	本研修会は、本学教職員を対象とし、「お茶の水女子大学 Web 授業アンケートシステム nigala」の開発の経緯やその特徴、さらには、運用実績について学び、本学のシステム改修に資することを目的とする。
プログラム	内容 ・ 基調講演「お茶の水女子大学 Web 授業アンケートシステム nigala 開発と運用実績について」 (講師：半田 智久 お茶の水女子大学 教学 IR・教育開発・学修支援センター 教授) ・ 質疑応答・意見交換 (進行：林 透 教学マネジメントセンター 教授)
アンケート 結果 抜 粋	・ 具体的な事例や表示結果とその解説は参考になった。 ・ 他大学での取り組みを知る良い機会であった

「第3回全学 FD 研修会 STEAM 教育の意義や価値について考える」

主 催	「融合した専門知と鋭敏な飛躍知を持つ社会変革先導人材育成プログラム」運営委員会
共 催	教育企画会議専門委員会 FD 委員会，融合学域
日 時	令和3年9月28日（火） 13時30分～15時30分
会 場	Zoom によるオンライン開催
参 加 者	163名（本学教職員64名，本学学生3名）
概 要	本学は、文部科学省「知的集約型社会を支える人材育成事業」に採択された「融合した専門知と鋭敏な飛躍知を持つ社会変革先導人材育成プログラム」の取組を通して、全学的な STEAM 教育の推進を目指している。大学教育分野での STEAM 教育実践は今まさに発展途上の段階であり、その意義や価値について、各種取組事例を学びながら、具体的な授業設計や学修成果に資することを目的とする。
プログラム	・ 基調講演「学校における STEAM 教育実践～国内外の取組事例に学ぶ～」 (講師：本所 恵 人間社会研究域学校教育系 准教授) ・ 基調講演「STEAM 教育における『A (Art)』の意義と価値～芸術思考の取組事例に学ぶ～」 (講師：有賀 三夏 東北芸術工科大学基盤研究教育研究センター 専任講師) ・ ミニワークショップ「みんなで STEAM について考えてみよう！」 (ファシリテーター：林 透 教学マネジメントセンター 教授)
	
アンケート 結果 抜 粋	・ STEAM 教育全体の理解が進んだ。 ・ Art の役割について、これまでに意識したことがない捉え方を学べた。

「第4回全学FD研修会 FD活動報告書成果発表会」	
主 催	教育企画会議専門委員会FD委員会, 教学マネジメントセンター
日 時	令和3年10月29日(金) 13時30分～16時00分
会 場	Zoomによるオンライン開催
参 加 者	55名
概 要	金沢大学では、毎年部局ごとの組織的なファカルティ・ディベロップメント(FD)活動について「金沢大学FD活動報告書」としてまとめ、公開することで、活動の共有と振り返りを図っている。令和2年度FD活動報告書においては、学問分野の特性に応じた活発な取組みを紹介しており、部局を超えて越えて参考になる事例が多い。今回、法学類、経済学類、数物科学類、物質化学類、機械工学類、生命理工学類及び医学類におけるFD活動を全学的に共有する。
プログラム	「FD活動報告書成果発表会」ー学類等における組織的FDの取組事例ー (ファシリテーター：堀井 祐介 教学マネジメントセンター 教授)
	
アンケート 結 果 抜 粋	・FDへの取組みが多様であることを理解した。 ・コロナ禍での他学類の工夫した取組みを知ることができ、大変学びのある時間だった。

「教学マネジメントセミナー2021 「学位プログラム」レベルのモニタリング・レビューを考える～フィードバック・ループをどう構築するのか～」	
主 催	「融合した専門知と鋭敏な飛躍知を持つ社会変革先導人材育成プログラム」運営委員会
共 催	教育企画会議専門委員会FD委員会, 教務委員会
日 時	令和3年12月24日(金) 13時30分～16時00分
会 場	Zoomによるオンライン開催
参 加 者	143名(本学教職員140名, 学生3名)
概 要	教学マネジメントに携わる教員・職員、さらには教育産業経営者から、現場のリアルな実務経験談を提供いただきつつ、参加者と一緒に、「学位プログラム」レベルのモニタリング・レビューのあり方について考える。
プログラム	・講演「新潟大学の教学マネジメントにかかわる取組み～学位プログラム評価と学修成果の評価を中心に～」 (講師：斎藤 有吾 新潟大学経営戦略本部教育戦略統括室 准教授) ・講演「芝浦工業大学における教学マネジメント～大学職員の立場から見えること、考えること～」

1-3 FD 委員会の活動

	(講師：鈴木 洋 芝浦工業大学学事本部 教育イノベーション推進センター事務課 次長) ・講演「教学マネジメントにおける“あるあるの事例”から見えてくること～「学位プログラム」レベルを中心に～」 (講師：桑木 康宏 株式会社 学びと成長しくみデザイン研究所 代表) ・ワークショップ「学位プログラム」レベルの教学マネジメントについて見つめてみよう！」 (進行：林 透 教学マネジメントセンター 教授)
アンケート 結果 抜 粋	・各大学での事例や学位プログラム単位での教学マネジメント体制を構築するうえで、留意点を確認することができ、とても有意義で、求めている内容であり、極めて満足だった。 ・各大学の事例について触れられたほか、教学マネジメント手法に掛かるプロセスも示されており、改めて本学内での整理・検討を行う上で有意義な参考材料となりました。

「英語による授業担当者のための FD 研修会」			
主 催	授業科目英語化に関する WG, 教育企画会議専門委員会教務委員会, 教育企画会議専門委員会 FD 委員会		
概 要	本研修会は、英語による授業科目の拡充の取組の一環として、英語で教えるために必要な英語表現、スキル、手法を学ぶことに特化した内容を実施する。		
会 場	オンライン開催		
日 時	令和 4 年 2 月 28 日(月) 令和 4 年 3 月 1 日(火) 13 時 15 分～16 時 30 分	令和 4 年 3 月 7 日(月) 令和 4 年 3 月 8 日(火) 9 時 00 分～12 時 15 分	令和 4 年 3 月 10 日(木) 令和 4 年 3 月 11 日(金) 9 時 00 分～12 時 15 分
参 加 者	12 名	14 名	9 名
受講コース	アカデミックライティング (導入)	講義とプレゼンテーション (導入)	発音と Global Englishes
日 時	令和 4 年 3 月 10 日(木) 令和 4 年 3 月 11 日(金) 13 時 15 分～16 時 30 分	令和 4 年 3 月 14 日(月) 令和 4 年 3 月 15 日(火) 13 時 15 分～16 時 30 分	令和 4 年 3 月 16 日(水) 令和 4 年 3 月 17 日(木) 9 時 00 分～12 時 15 分
参 加 者	7 名	8 名	7 名
受講コース	少人数クラスのプランニングとマネジメント	ゼミとディスカッショングループ	講義とプレゼンテーション (発展)
日 時	令和 4 年 3 月 16 日(水) 令和 4 年 3 月 17 日(木) 13 時 15 分～16 時 30 分	令和 4 年 3 月 23 日(水) 令和 4 年 3 月 24 日(木) 13 時 15 分～16 時 30 分	
参 加 者	5 名	6 名	
受講コース	発音と Global Englishes	講義とプレゼンテーション (導入)	
アンケート 結果 抜 粋	・授業をするためのスキルは具体例が多く、すぐにでも取り入れやすいので、スキルが上がったのではないかと思います。 ・自身の英語力を確認できたし、授業に必要な言い回しを確認できた。 ・小さなコースを運営するための仕組みがわかった。		

1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

令和3年度における全学及び各部局等のFD活動は種々実施され、全学のFD研修会(1-3)及び各部局等のFD研修会(後掲:2-5)も多数実施された。

その中で、特色あるFD活動を各々1つピックアップし、照会する。

【学域等及び研究科単位】

学域(人間社会学域、理工学域、医薬保健学域)、研究科(人間社会環境研究科、自然科学研究科、医薬保健学総合研究科)、国際基幹教育院で実施している特色あるFD活動は次のとおり。

部局名	FD活動
人間社会学域	人間社会学域では、他学類のFD活動にも参加し、情報を共有し、他学類の取り組みを参考にすることで、自学類のFD活動の向上につなげることも目的として、令和2年度から、人間社会学域のFD活動を各学類が交代で担当する形で開始した。 今年度は、人文学類が担当で、令和3年9月2日(木)に、対面とWebexを併用するハイブリッド方式で開催した(新型コロナウイルス感染症防止に向けた金沢大学活動指針はレベル2であった)。 教学マネジメントセンター・堀井祐介教授を講師に、学術メディア創成センターの協力を得て、「Teamsその他オンラインツールを活用した授業構築」と題する講演をいただき、オンライン授業でグループワークを行う可能性を高めるために大学ライセンスで利用可能になった、Microsoft Teams等を活用する方法を学んだ。また、当日参加できなかった教職員も視聴できるよう、録画した動画をWeb上にUPした。
理工学域 自然科学研究科	理工学域・自然科学研究科 第13回FDシンポジウム 「ポストコロナにおける大学教育」 主催：金沢大学理工研究域教育方法改善委員会 趣旨：これからの大学教育において、コロナ禍で必要性・重要性が高まったオンライン授業、AI学習の有効利用が望まれる。また、新型コロナウイルス感染拡大が学生にどのような影響を与えてきたかも理解しておく必要がある。さらに、今、学生の「学び」を質保証するために何を求められているかを明確にすることも大切である。このようなポストコロナの大学教育に関して講演者から話題提供を受けて、意見交換や情報共有を行う。 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンライン開催(Webex)を行った。今後の状況を注視しながら、実施時期・実施形式等を検討する。

1-4 <ピックアップ>特色あるFD活動

医薬保健学域 医薬保健学総合 研究科	医薬保健学域医学類及び医薬保健学総合研究科医学系では、医学類FD委員会委員が中心となり、医学系FD研修会を月1回程度開催している。医学系FD研修会の対象は、主に医学系及び附属病院、保健学系の教員である。開催形式は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により昨年度同様に遠隔会議システム（WebEx）を用いて実施した。医学系FD研修会の内容は、講義・臨床実習オンライン化に伴う手法（LMSの使い方、実践例の共有）、アクティブ・ラーニング手法（実践例の紹介、反転授業、ハイフレックス型授業）、カリキュラム、シラバス、学生評価、学生支援といった昨年度のテーマを土台として行った。本年度の医学系FD研修会の特徴として、学外講師を招き、文化人類学と医学教育に関する内容を新たに組み込んだ。また、医学系FD研修会を受講できない医学系及び附属病院の教員に対して、LMS上での医学系FD研修会のオンデマンド配信を本年度より開始した。
人間社会環境研 究科	今年度は2回のFD研修会を行った。第1回FD研修会は令和3年9月17日に「次世代精鋭人材創発プロジェクトについて」というテーマで開催された。本学が国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に応募し採択された「次世代精鋭人材創発プロジェクト」について、事業統括者の中村慎一先生より、プロジェクトの概要や支援の内容についてお話し頂き、これに伴い必要となる大学院の教育内容の改革について意見交換を行った。 第2回FD研修会は、法学研究科法学・政治学専攻との共同開催で令和4年3月9日に実施された。理工研究域フロンティア工学系（留学生担当教員）の岸田由美先生と人間社会研究域経済学経営学系（留学生担当教員）の宮崎悦子先生を講師として、「コロナ禍における本学留学生の経験と困難～アンケート調査の結果から～」というテーマで、本学留学生を対象として実施されたオンラインアンケート調査をもとに、長期化するコロナ禍で留学生がどのような経験をし、今どのような支援を求めているのかなどについてお話し頂き、今後の対応のヒントについて意見交換を行った。
国際基幹教育院	国際基幹教育院では2020年度末に高等教育開発・支援系が廃止され、令和3年度よりGS教育系と外国語教育系の2系となった。この2系は共通教育という大きな枠組みを共有しながら、教養科目と語学教育という個別の枠組みを有している。そこで教育院スキルアップセンターでは各系と共催する形でFDを実施することとし、可能な限り、互いの系に還元できるテーマでFDを実施することを目指した。昨年度までは高等教育開発・支援系が主催してFDを実施していたところ、今年度から言わば「自走式FD」に変更された形であり、試行錯誤しながら実施した一年であったと言える。 GS教育系は医薬保健、理工、社会科学や芸術まで全学術領域にまたがる内容であり、学類と比較すると科目の個別性・特殊性がより強いと言える。ま

た外国語教育系はTOEIC, EAP, 初習言語と分かれ, 特に初習言語は英語学習とは異なる個別性がある。そのようななか2系で共有できるテーマとして, 本年度は3回のスキルアップセンターFDを実施した。

■第1回スキルアップセンターFD (令和3年7月13日)

「Comparing University Practices」と題して, 外国語教育系のJacob Runner先生が講演。2020年度までアメリカで授業実施していた経験等と比較して教員FDの実施例や在り方について講演。

■第2回スキルアップセンターFD (令和3年9月29日)

障がいをもつ学生が授業に参加している場合, どのような配慮が必要かについて障がい学生支援室の委員であるGS教育系の濱田里羽先生が講演。

■第3回スキルアップセンターFD (令和4年3月2日)

「アクティブ・ラーニングからカリキュラム改革へ—STEAM教育とモジュール化の観点から」と題して, 授業やカリキュラム改善の視点として注目されているSTEAMやモジュール化授業の考え方についてGS教育系の吉永 契一郎先生が講演。

特筆する点として, 3回のうち2回(第1回および第2回)は「ランチタイムFD」として実施した。これは昨年度から試みている実施方式で, 授業時限ではなく昼休みの12:10から12:40までの30分間にFDを実施する。12:00から開始せず13:00まで続けないのは, それぞれ2限および3限に授業を持つ教員への配慮である。この方式により, 授業期間中であっても安定的に参加者を得ることができている。

【学類単位】

今回は、先導学類、学校教育学類、地域創造学類、フロンティア工学類、電子情報通信学類及び薬学類・創薬科学類で実施している特色あるFD活動を紹介する。

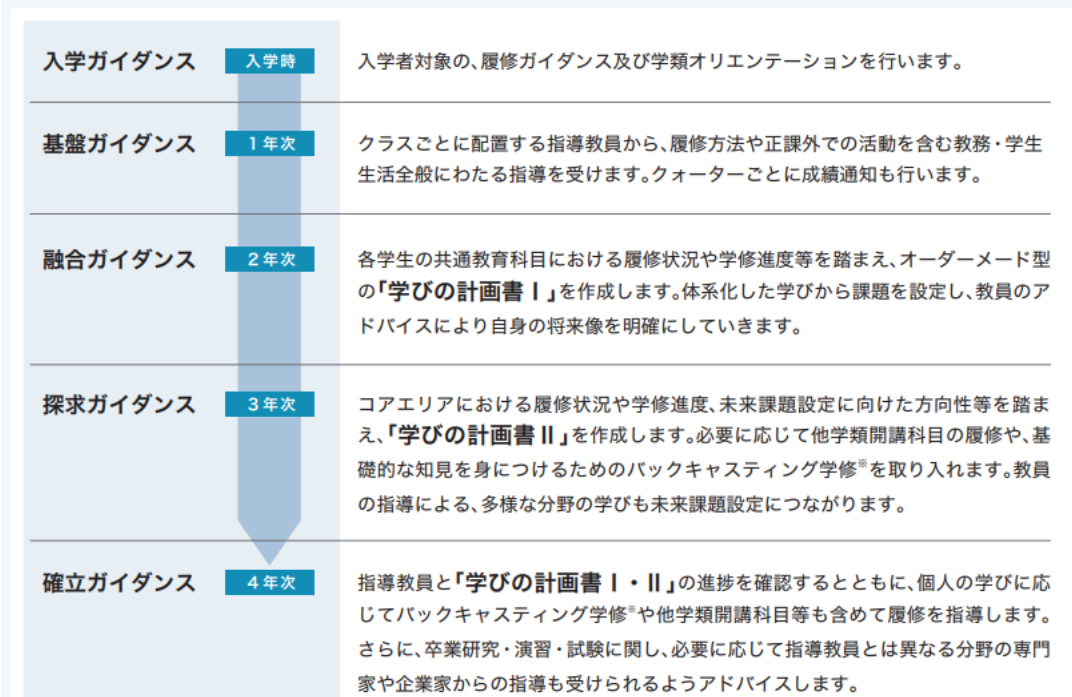
○先導学類

取組名称	「学びの計画書」導入に向けた勉強会
開催日	令和3年9月15日(水)、11月29日(月)、令和4年1月25日(火)
参加人数 (概数)	各回8名程度

融合学域では、オーダーメイド型の教育を行うため「学びの計画書」を導入する。「学びの計画書」は、個々の学生が設定した課題に応じて作成する計画書で、年度末に行うガイダンス・面談を踏まえ、学生は計画書を作成し、学びについて考える機会を得るとともに目標設定と振り返りによる自発的学修モチベーションの向上、将来像の明確化を目指すことができる。また、インターンシップや海外留学を含めた履修計画を立てる機会となり、学生と教員の連携・指導体制の構築も期待される。

本年度は「学びの計画書」の導入に向けて、数回の勉強会を開催し、システムの構築、学生指導方法等について意見交換を行った。

融合学域では、文理融合の多彩な授業科目から、個人に最適な履修科目を選定するため、教員による手厚い履修指導を行います。学生と教員等との協働の場として、毎年次 **ガイダンス** を開催し、未来課題の方向性と課題解決の糸口を結び付けながら、学生の出口志向等を見据えたオーダーメイド型の「**学びの計画書**」を作成していきます。



※バックカスティング学修：未来の社会で活躍する理想の自分を思い描いたとき、学び足りないと感じる分野が出てくる場合もあります。そんな時、本学域では学知フェーズへ進んだ後でも、立ち戻って専門基礎科目を学ぶことができます。

○学校教育学類

取組名称	「教員採用の現在」(FD研修会)
開催日	令和4年3月10日(木)
参加人数 (概数)	55名
【内 容】石川県教育委員会とオンラインにて結び、教員採用といしかわ師範塾について、それぞれ教育次長と師範代からご説明をいただいた。また、金沢大学における教員志望の学生意識の調査について、「教師論」の授業を担当する上森さくら先生(教育基礎専修)が報告を行った。 【プログラム】※対面+オンライン(zoom) 人間社会2号館3階会議室 12:30~12:35 開会のあいさつ 学校教育学類FD・カリキュラム委員長 大村雅章氏 12:35~13:05 話題提供1 「石川県における教員採用の現状」 石川県教育委員会教育次長 杉中達夫氏 いしかわ師範塾師範代 村上徹氏 13:05~13:10 質疑応答 13:10~13:20 話題提供2 「教師論」の授業から 学校教育学類教員 上森さくら氏 13:20~13:25 質疑応答・まとめ・閉会	
 	

○地域創造学類

取組名称	地域創造学研究会
開催日	令和4年1月27日（木）、3月24日（木）
参加人数 （概数）	20名

地域創造学類必修科目のテキストを作成するために、学類会議後に研究会を開催している。地域課題解決のために、再帰的近代＝リスク社会に対応可能な地域コミュニティづくりが現代社会の喫緊の課題である。それへの対応として、地域社会システムを意図的に変動するための一連のプロセス（地域診断、政策立案、政策実行、政策評価）に焦点を当てた独自の科学としての「地域創造学」が要請される。

研究会では、各人の最新の地域創造に関する研究が紹介され、それに基づいて、学類メンバーの各専門分野の視点から地域創造の方法を検討し、それを教育に結びつける技法を開発することを目指している。

（研究会の様子）



○フロンティア工学類

取組名称	フロンティアコロキウム（講演会・研究室見学会）
開催日	令和3年7月9日（金）、7月16日（金）
参加人数 （概数）	講演会約110名（対面20名，オンライン90名） 見学会13名（1年次）

フロンティア工学類は、工学系における異分野融合的な学類であり、構成員間の交流を目的として、学類創設2年目からフロンティア工学類コロキウムと銘打って、研究発表会を実施してきた。一方で、総合教育部から約20名（他学類のほぼ2倍）の学生を受け入れていることから、総合教育学部1年次に対する広報の必要性も指摘されており、今年度からは、若手教員を中心とする研究発表と、研究室見学の二部構成として、第3回フロンティア工学類コロキウムを実施した。

研究講演会は、対面とオンラインのハイブリッドにて実施し、フロンティア工学類生や教員を含めて、100名以上（対面20名＋オンライン90名）の参加者があった。教員による研究紹介4件の他に、1年次（総合教育部および理系三学類一括）に対する広報を目的として、担当教員によるプログラム（カリキュラム）紹介や4年次（フロンティア工学類一期生）による学類紹介を新たに実施した。同時に実施したアンケートからも、4年次の学生発表が好評であり、先輩たちの活躍を身近に感じて、良い刺激を得られたと思われる。

研究室見学会には、総合教育部（理系）と理工三学類の1年次から13名の参加があり、4班に分かれて、それぞれ、ロボティクス・デザイン、バイオイノベーションデザイン、高分子材料物性、ナノ計測工学の4つの研究室を見学し、教員や在学生から研究内容についての説明を受けた。FD委員（比江嶋）も引率として参加し、普段見ることのできない研究成果に強い関心を持った。総合教育部の学生にとっては、自然研に来る機会もほとんどないとのことで、フロンティア工学類を様々な角度から知るよい機会になったと思われる。

第3回（2021年度） フロンティア工学類コロキウム	
2021年 7月9日（金）	開始 16:30 / 終了 18:30 自然科学本館大講義室 B (オンライン同時配信)
16:30 開会の挨拶	
16:35 ロボットの触覚技術とホムボット	鈴木 陽介 助教
17:00 (タイトル)	西村 齊寛 助教
17:30 フロンティア工学類 現役4年生からの発表	
17:45 (タイトル)	平野 晃宏 講師
18:05 生体内ナノ小胞エクソソーム	吉田 孟史 助教
18:30 閉会	

○電子情報通信学類

取組名称	FD講演会「New Education Normal 時代の教育展開～数学をシンキングツールとして活用するクリティカルシンキングのカリキュラム開発～」
開催日	令和4年3月17日（木）
参加人数 (概数)	81名（電子情報通信学類関係者は13名）

金沢大学理工3学類（機械工・フロンティア工・電子情報通信）のFD研修会、及び文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開」の「数理・データサイエンス教育の全学必修化と北陸地区の大学連携による地域への普及」事業に関わる講演会を実施した。

アクティブ・ラーニング型の授業やデータサイエンスに関わるPBLの授業を、今後実際に実施する際に、学生に高校数学レベルの数学を活用することで対象をモデル化し考察させる教育方法は、分野の関係なく広く共通の方法である。

そこで、本講演会では、新たな時代の課題解決法について教育の立場から実践し、関西大学において「数学を活用した、課題解決を行うアクティブ・ラーニング型の授業」を試行されている専門家である、山本敏幸先生（現 関西国際大学 教授）と濱本久二雄先生（関西大学非常勤講師）を招待し、講演、議論して頂いた。

共通の目的達成のために、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開」「数理・データサイエンス教育の全学必修化と北陸地区の大学

The image shows two promotional posters for a symposium titled "New Education Normal 時代の教育展開". The left poster is a larger, more detailed one, featuring a blue and white color scheme with a globe graphic. It includes the date "2022.3.17" and the venue "金沢大学南キャンパス 自然科学本館 AV 講義室". It also lists the speakers: 山本敏幸 (Toshiyuki Yamamoto) and 濱本久二雄 (Kunio Hamamoto). The right poster is a smaller, more concise one, featuring a portrait of Toshiyuki Yamamoto and text about the event's goals and speakers.

連携による地域への普及」事業にも協力を頂いた。

第一部では、社会問題を含む様々な問題を解決する手法としての数学活用とその標準の理解について、各40分程度ご講演頂いた。また、第二部では、座談会として約1時間、フランクに議論を行った。これらにより当初予定した目的は達成したと考える。

○薬学類・創薬科学類

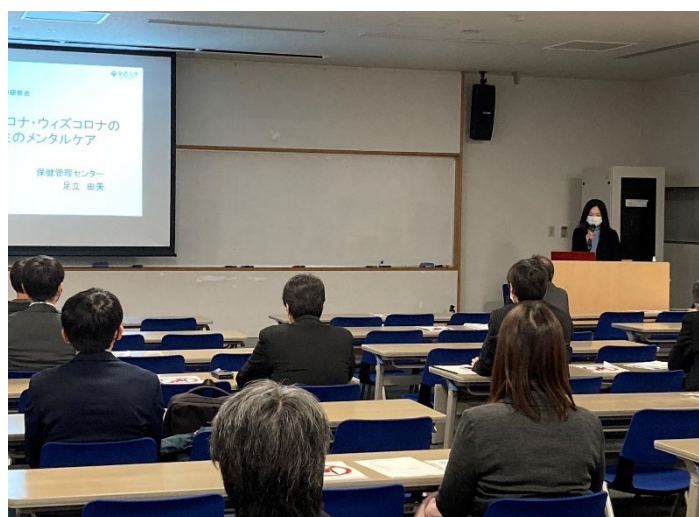
取組名称	薬学系（学類・大学院研究教育）FD 研修会
開催日	令和3年12月12日
参加人数 (概数)	48名（出張者を除く薬学系全教員）

薬学類・創薬科学類では毎年、全教員の教育能力向上と新しい教育手法の紹介として、薬学FD研修会を開催しており、今回で23回目を迎えた。前年度同様、薬学系教員のほぼ全員が出席し研修を実施した。本研修会では、「ポストコロナ・ウィズコロナの学生のメンタルケア」を題材に取り上げた。

コロナ禍によって学生の不登校、退学が増えることが心配されている。保護者や学生自身がアルバイトを失ったり、待遇が悪化したりして、家計が厳しくなった学生のほか、オンライン授業が続いて友人が作れなかったり、学習意欲が低下したりした学生もいる。大学、教員は不登校や退学を防ぐことができるよう、次のステップに進めるように支える環境が必要となる。

研修会では、コロナ禍が学生のメンタルヘルスになぜ影響を及ぼすのか、どのような対応やケアができるのかについて、金沢大学保健管理センター 足立由美先生に講演していただいた。続いてテーマに関する薬学の統計と薬学教員の対応を、吉田栄人薬学系・教育方法改善委員長から説明をした。

コロナ時代における教員としての今後の学生対応のあり方や、学内における支援体制を考える上で、多くの示唆を得られた。講演等の内容は「令和3年度薬学FD報告書」にまとめられている。



1-5 教学マネジメントセンターの活動

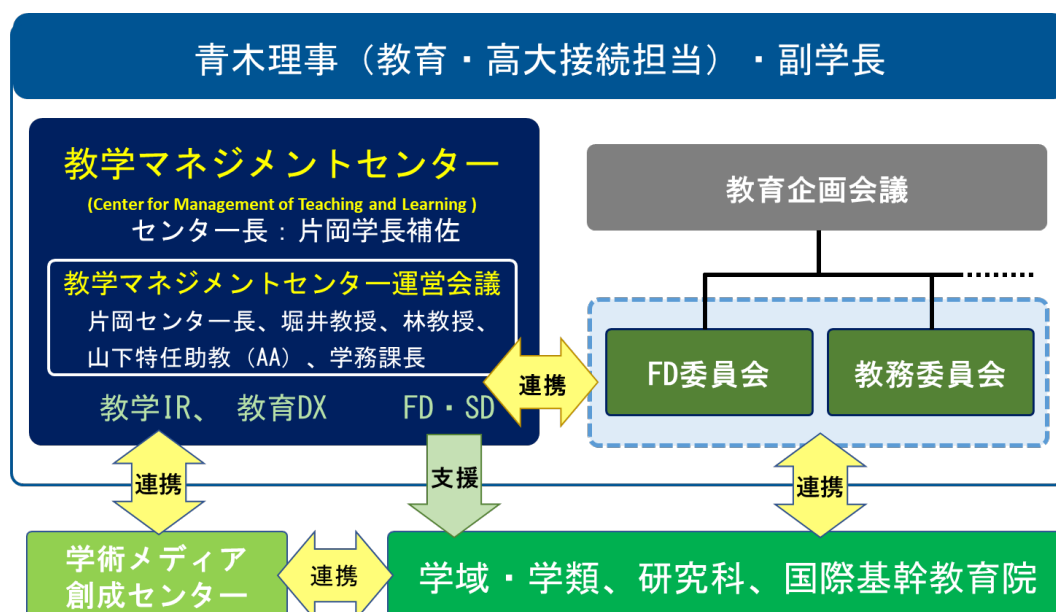
1-5-1 教学マネジメントセンターの業務概要

学長のリーダーシップの下、本学のFD支援、教学マネジメントを担ってきた国際基幹教育院高等教育開発・支援系及びICT教育支援を担ってきた総合メディア基盤センターを発展的に解消し、新たに令和3年4月に教学マネジメントセンター及び学術メディア創成センターを設置し、両センター連携によりFD、教学IR、教育DXを一体として推進する体制を構築した（図表1参照）。

学内のマネジメント体制強化のため、教育担当理事の下に置く組織として位置付け、学内の連絡・調整を円滑にするため、全学の教務委員長・FD委員長を務める学長補佐をセンター長に据え、センターの業務を掌理する体制とした。本事業で雇用する特任助教に加え、管理体制の強化、持続可能な体制構築のため、学長戦略ポストを用意し、他大学でプログラムコーディネーター、教学マネジメントで豊富な実績を有する常勤の専任教授1名を新たに雇用し、センターの専任とした。

教学マネジメントセンターの具体的な所掌業務は、以下のとおりである。

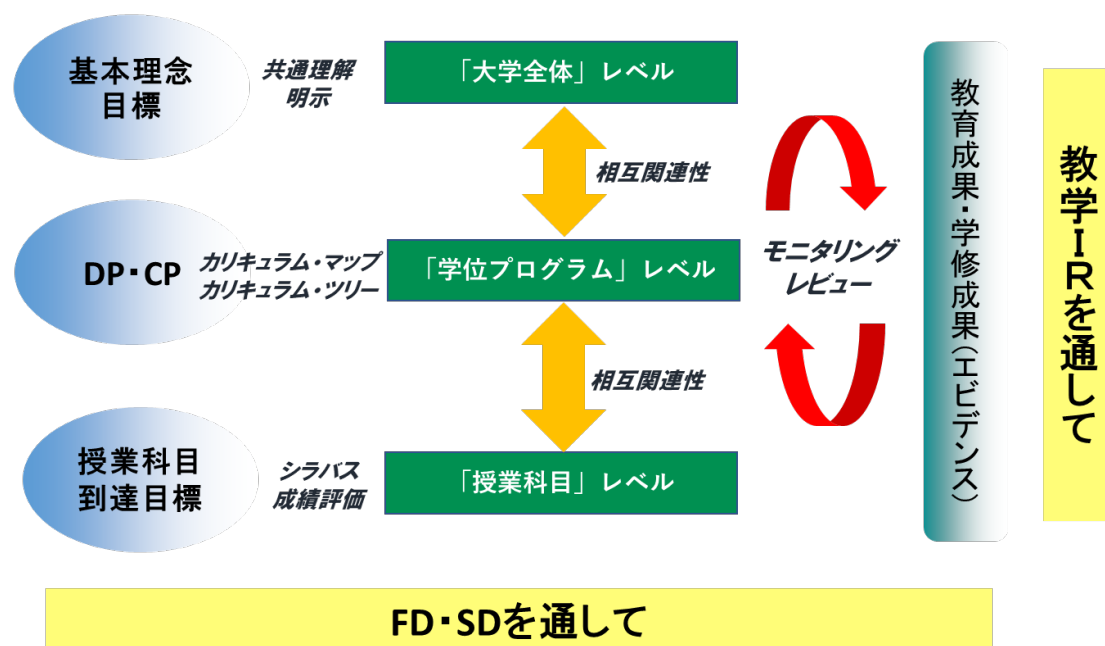
- ① 全学の教学マネジメントの確立、学位プログラム等における教育の質保証及び質向上に関すること。
- ② 教育方法、教育システム及び教育支援等に関する研究開発並びに教育に係る質保証システムの研究開発に関すること。
- ③ 全学的に取り組む教育事業及び分野横断的学位プログラムの企画立案、運営及び評価に関すること。
- ④ 教育スキルの向上に資する支援に関すること。
- ⑤ 全学のFD・SDの企画・実施及び学域・研究科等のFD・SD活動の支援に関すること。



図表1 教学マネジメントセンターの設置及び関係組織との連携体制

教学マネジメントセンターの諸活動を始めるにあたり、『教学マネジメント指針』（中央教育審議会大学分科会 2020）に示された「大学全体」「学位プログラム」「授業科目」レベルに応じた教学マネジメントの枠組を図表VI-2 のとおり体系づけながら、各レベルに応じた FD・SD、教学 IR の環境整備と具体的取組を進めている。

教学マネジメントセンターの所掌業務①



教学マネジメントセンターの所掌業務②

項 目 レベル	教育理念 学修目標	FD・SD （教育改善・組織 開発・学生支援）	教学IR （学修成果測定・ 分析・情報公表）	支援業務
大学全体 （マクロ）	金沢大学憲章 KUGS	全学FD研修会 新任教員説明会 など	学生生活実態調査 など	中期計画（教学） 認証評価（教学） 大学間連携事業 など
学位プログラム （ミドル）	学位授与方針 (DP) 教育課程編成方針 (CP)	全学FD研修会 学域・学類FD など	卒業時調査 など	分野横断型学位プロ グラムの企画運営 など
授業科目 （ミクロ）	到達目標 ルーブリック評価	FDワークショップ FDランチョン CLA研修 など	学生授業評価 など	コンテンツ作成 学修アドバイジング など

図表 2 教学マネジメントセンターの所掌業務の概要図

1-5-2 FD・SD 活動の枠組と実績

令和3年4月に、教学マネジメントセンターが設置されたことに伴い、教育担当理事及び学長補佐（教育改革・学修支援担当）の指示のもと、全学的視点に立ったFD・SD活動を行いながら、部局FDとの協働・連携・支援を行っていく必要がある。このため、「全学FD・SD」と「部局FD」の関係性について事項整理しながら、「全学FD・SD」で担うべきこと、「部局FD」で担うべきことを明確化することとした。

【「全学FD・SD」の役割と基本メニュー】

①「全学FD・SD」の役割

- ◆大学の理念や基本方針の理解と共有
- ◆教職員として知っておくべき事項、遵守すべき事項の理解と共有
- ◆各年度における教学関連の全学的課題の理解と共有
- ◆教職協働、教職学協働のための場づくり

②「全学FD・SD」の年間メニュー（基本セット）

時期	内容
4月	新任教員説明会
4月	CLA（クラス・ラーニング・アドバイザー）研修会
9月	全学FD研修会
10月	FD活動報告書成果発表会
12月	教学マネジメントセミナー（全学FD・SD）
2月	CLA（クラス・ラーニング・アドバイザー）実施報告会
2月または3月	教員向け英語研修会
3月	全学FD研修会（当該年度成果報告会）

図表3 全学FD・SDの年間メニュー（基本セット）

【「部局FD」の役割と基本メニュー】

①「部局FD」の役割

- ◆各部局における主要事項の理解と共有
- ◆各部局における各年度での諸課題の理解と共有
- ◆各部局における授業・カリキュラム、学修状況・成果の把握・検証
- ◆各部局における全学的課題の理解と共有

②「部局FD」の基本メニュー

各部局に応じた組織単位での実施を尊重しつつ、部局主催でのFD活動について、以下の二つの区分に整理する。

1-5 教学マネジメントセンターの活動

- ア) 個別テーマ型 FD・・・各部局における主要事項の理解と共有、各部局における各年度での諸課題の理解と共有を目的として、当該部局が独自のテーマ設定により実施する FD
- イ) 統一テーマ型 FD・・・全学的課題の理解と共有などを目的として、教学マネジメントセンター等が連携・支援しながら実施する FD
(授業評価アンケートや卒業・修了者アンケート等の結果報告、機関別認証評価で求められる学位プログラム単位の DP・CP、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーに関する点検・見直しなど)

令和 3 年度においては、教学マネジメントセンターが稼働したばかりではあるが、各学域学類へのセンターの紹介、知識集約事業の協力依頼も含め、全学域及び国際基幹教育院に対し、対話型の FD を令和 3 年 5 月から計 6 回実施し、154 名の参加があった。また、「知識集約型社会を支える人材育成事業」とも連携し、同センターが主導する形で全学 FD 研修会及び教学マネジメントセミナーを企画した。いずれもオンライン開催であり、一部、「知識集約型社会を支える人材育成事業」幹事校企画として学外にも広く公開し、多くの参加者を得るとともに、録画データ及び配布資料を学内ポータルにて公開・配信している。

令和 3 年度全体の FD・SD 実績は以下のとおりである。

- (1) 全学域、国際基幹教育院を対象に対話型 FDを実施(計 6 回、154 名の参加)
- (2) センター主催(事業実施分含む)による FD 研修会をこれまで 6 回開催
- (3) 教学マネジメントを通じた教育成果・学修成果の把握・可視化の強化に向けた各種学生調査デザインの再構築
- (4) 教員・職員・学生が対話・協働するアクティブ・ラーニング型 FD・SD

回 数	内 容	開催月日	参加者数
第1回	新任教員説明会	4月2日(金) 4月5日(月)	133名
第2回	「知識集約型社会を支える人材育成事業」 メニューⅠ・メニューⅡ採択校シンポジウム	6月3日(木)	224名 (学外公開)
第3回	授業評価アンケートについて考える	8月10日(火)	60名
第4回	STEAM教育の意義と価値を考える	9月28日(火)	163名 (学外公開)
第5回	FD活動報告書成果発表会	10月29日(金)	55名
第6回	「学位プログラム」レベルのモニタリング・レビューを考える	12月24日(火)	154名 (学外公開)
第7回	「知識集約型社会を支える人材育成事業」 令和3年度成果発信シンポジウム	3月1日(火)	206名 (学外公開)

図表 4 令和 3 年度 FD・SD 実績の概要

1-5-3 学生調査を中心とした教学 IR 体制の基盤整備

教学マネジメントセンターでは、令和 3 年度において、教育担当理事の指示のもと、全学的な教学 IR 体制の基盤整備を行った。その軸としたのが、各種学生調査の設問、実施方法及び分析体制の見直しである。

具体的には、授業科目レベルにおける「学生授業評価アンケートの見直し」、学位プログラムレベルにおける「卒業・修了者アンケートの見直し」、大学全体レベルにおける「卒業・修了後アンケートの実施」である。

1-5-3-1 学生授業評価アンケートの見直し

(1) 新・授業評価アンケートの共通設問化

全学での授業アンケート設問を可能な限り、共通項目化し、学生の回答負担を軽減したいと考えている。このような観点から、以下の 7 項目を共通設問とした。

【共通設問項目】※授業評価アンケート回答画面にてシラバス検索画面を参照できるように措置。

① 授業内容の適切性

設問「この授業は、あらかじめシラバスに示された学修目標や授業計画に沿って行われましたか？」

② 担当教員の説明の仕方

設問「この授業における教員の説明の仕方は、分かりやすいものでしたか？」

③ 授業外学修時間

設問「この授業について、授業外学修（授業の予習・復習、レポート作成、試験勉強などを含む）をどれくらい行いましたか？ 総時間を平均し、授業 1 回あたりの時間に換算してお答えください。」

④ 授業理解度

設問「この授業の内容を、よく理解できましたか？」

⑤ 学修目標達成度

設問「この授業であなたは、シラバスに記載された学修目標を達成できましたか？」

⑥ 授業満足度

設問「この授業の内容は、満足できるものでしたか？」

⑦ 授業全般に関する自由記述

設問「この授業に関する感想や要望等があれば、具体的に記述してください。」

なお、上記の 7 設問以外に、やむを得ず、部局独自で設問したい場合には、学生が回答する際の煩雑さを極力避けたいため、部局独自設問は最小限となるように努めることとした。

(2) 各学年 Q4 期における DP（ディプロマ・ポリシー）達成度に関する設問設定

今回の授業評価アンケートシステム改修に伴い、各学生は該当する履修時期に受講した授業科目に関する授業評価アンケートを一括して回答することとなる。このような回答方式のメリットを活かして、教学マネジメントの観点から、各学年 Q4 期の授業評価アンケ

1-5 教学マネジメントセンターの活動

ートにおいて、別途、所属学類・専攻の DP 達成度を自己評価する設問を設定することとした。このことにより、各学類・専攻の DP 達成度の経年変化を把握することが可能となり、DP・CP（カリキュラム・ポリシー）の検証など、学位プログラムレベルの教学マネジメントに役立てることができる。

なお、学士課程・大学院における最終学年 Q4 期における DP 達成度自己評価の取り扱いについては、卒業・修了者アンケート内容との相互調整を踏まえながら、運用方法を検討することとした。

(3) 新・授業評価アンケート導入に伴うシステム改修作業

教育担当理事の指示に基づき、「お茶の水女子大学の授業アンケートシステム（nigala）」（図表 5 参照）に関する情報収集を図るとともに、第 2 回全学 FD 研修会（8 月 10 日開催）でも、このテーマを取り扱い、具体的検討を続けてきた。

教学マネジメントセンター、
学術メディア創成センター、学務課が連携した検討の結果、

「お茶の水女子大学の授業アンケートシステム（nigala）」を参考にしながら、本学独自の授業評価アンケート回答画面改修を行い、学務情報システムにて運用できるような措置をとることとし、具体的な改修作業に着手した。

Web授業アンケートシステム nigala

Web授業アンケートの方法

-50～50までの101段階反応抽出・事実上の連続量アナログ尺度
設問ごとに各自の履修授業全体を相対比較

残り7問：この授業は学生の理解度を把握しながら進み、全体の内容は質、量ともに適切でよく理解できた。



連続量アナログ・自由評定尺度での回答抽出により

① 微妙に差異化された反応の相違が読み取れる

② 回答者に特有な反応傾性による差異を標準化できる

図表 5 お茶の水女子大学の授業アンケートシステム（nigala）

<https://crdeg5.cf.ocha.ac.jp/crdeSite/enquete.html>

1-5-3-2 卒業・修了者アンケートの見直し

(1) 「卒業・修了者アンケート」における DP 達成度の自己評価

従来、すべての学類・専攻において、最終学年の学生を対象とする DP 達成度の自己評価が行われているが、入学時以降の成長度合を測定するという観点から、新・授業評価アンケートシステムにおいて、毎年度 Q4 期に当該年度の DP 達成度の自己評価を行うこととした。なお、最終学年の学生による DP 達成度の自己評価については、当面の間、現状の「卒業・修了者アンケート」において従来通り行うこととする。

(2)「卒業・修了者アンケート」における共通設問項目の追加

本学では、DP 達成度を自己評価することのみを共通項目としているが、『教学マネジメント指針』において「学生の成長実感・満足度」を測定することが求められていることから、大学生活の満足度に関する項目を新たに共通設問化して追加することとした。

大学生活の満足度に関する項目を設問化していない学類・専攻については、以下の設問例・選択肢例を参照の上、新たに設問項目の追加することとした。

なお、既に設問化している学類・専攻においても、共通設問化の趣旨から、選択肢を 4 択に統一することとした。

(設問例)「あなたは、金沢大学●●●学類で学んだことに、満足していますか。」

(選択肢例)「満足している、やや満足している、あまり満足していない、満足していない」

(3)「卒業・修了者アンケート」結果の経年比較等の分析

大学全体において、「卒業・修了者アンケート」結果の経年比較等を集計し、学位プログラムレベルでの教育成果・学修成果を把握することは、教学マネジメントの観点から必要不可欠である。平成 3 年度以降、教学マネジメントセンターにおいて、共通設問項目（DP 達成度および大学生活満足度）に関する集計を総合的に実施し、各部局にフィードバックする体制とした。併せて、他大学の事例にあるように、大学全体の学修成果に関する情報公表に資することとした。

(4)回答率の向上策

卒業・修了者アンケート回答率の低下傾向は、過去 2 年間に於いて顕著に表れている。コロナ禍の影響もあると考えられるが、大学全体として、「卒業・修了者アンケート」回答率向上のために、執行部および各部局による学生への周知徹底を改めて働きかけることとした。

1-5-3-3 卒業・修了後アンケートの実施

(1) アンケート実施体制

『教学マネジメント指針』において「卒業生に対する評価」「卒業生からの評価」が求められているほか、令和 3 年度運営費交付金「成果を中心とする実績状況に基づく配分」における「カリキュラム編成上の工夫の状況」で「卒業生に対する追跡調査や雇用主等に対する卒業生の評価に関する調査を行い、その結果を教育改善につなげる組織的取組を実施している」が指標となっている。「卒業・修了後アンケート」及び「就業先アンケート」の組織的実施が、大学の教育成果や学修成果を検証するための必要不可欠なものとなっている。

「卒業・修了後アンケート」の企画実施は、教学マネジメントセンターが行う。「就業先アンケート」については、そのあり方を含め、就職支援室と共に検討することとした。

(2) アンケート対象者と実施方法

卒業・修了後アンケートは、「卒業・修了後1年・3年・5年・10年」といった区分での実施も想定されるが、試行的に、「金沢大学ID」（卒業・修了後でも継続して使用できるID）を活用して、令和2年度卒業・修了者までの登録卒業・修了者を対象にメッセージ送信により照会し、回答者の属性に応じた分類・分析を試みることにした。

(3) アンケートの設問内容

卒業・修了後アンケートは、卒業・修了後に、大学（大学院）で学んだことの有効性や満足度を測定することが主目的であり、当該アンケートでは、DP（ディプロマ・ポリシー）ではなく、社会人基礎力等の汎用的能力に関し設問することとした。また、令和4年度運営費交付金「成果を中心とする実績状況に基づく配分」における「大学教育改革に向けた取組の実施状況」で「卒業生・修了生に対する追跡調査において、給与（あるいは収入）額の状況（※）も含めた実態把握（※○○百万円以上～○○百万円未満といったような把握をイメージ）」することが指標となっており、卒業・修了者の給与（収入）額に関し設問することとした。

2 各部局等のFD活動

2-1 照会事項1 令和2年度に提案された予定・課題の達成度

【検証事項1】令和2年度に提案された予定・課題の達成度

昨年度実施した検証事項2の予定・課題の達成度について、取りまとめる。

「令和2年度金沢大学FD活動報告書」（抜粋）

照会事項3 授業方法改善のための取組み等の実施状況

【検証事項2】：検証事項1の授業評価アンケート及び令和2年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和3年度に行われる教育方法の改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画。

○人文学類

【検証事項2 (令和2年度)】 予定・課題	令和2年度の授業評価アンケートから、学生の授業時間外学修について改善傾向にあることがわかったので、学生の時間外学修をさらに向上させるために、オンライン授業の実施によって培われたノウハウを活かす。このためにFD研修会を開催し、学類教員の教育能力向上を図る。また、令和2年度の授業評価アンケートからは、「今後の活動に必要な専門知識や技術の基礎を身につける」点での評価向上が課題であることが確認されたので、FD委員会で対応策を検討し、FD研修会等で学類教員に提案を行う。
達成度	授業評価アンケート、卒業者アンケート、教員相互の授業参観・授業評価、成績評価基準等の作成・検証、FD研修会については、前年度同様コロナ禍の影響があったために当初計画を縮小した部分もあるが、ほぼ着実に実施している。FD研修会を9月に開催し、オンライン授業ツールを用いた学類教員の教育能力向上を図った。また、「今後の活動に必要な専門知識や技術の基礎を身につける」点での評価向上についてFD委員会で対応策を検討し、FD研修会やFD委員会のLMSコース（公開授業の報告資料の提示）等によって学類教員に提案を行った。

○法学類

【検証事項2 (令和2年度)】 予定・課題	高評価を得ていることから、現在遂行中の法学研究科との連携強化等の着実な遂行を図る。
達成度	授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえながら、各教員が担当する演習や面談などの機会に、各学生に自分の関心にあった進路を早期に見つけ、実務家の担当する授業や公務員講座等の受講を通じて、計画的に準備を進めるよう指導し、取り組みを着実に遂行している。

○経済学類

【検証事項2 (令和2年度)】 予定・課題	今年度はコロナ禍のため、オンライン授業が基本となった。その影響や問題点をFD研修会などで洗い出し、改善に向けて検討していく。
達成度	教務委員会と合同で、オンライン授業に伴う学生側の問題点を知るために、学生と教員との懇談会をオンラインで実施した。この懇談会を設けたことにより、学生側の問題点が明らかになり、教員側からの適切な指導が可能になった。

	また、2回のFD研修会により、コロナ禍のなかで適切な授業運営ができるような体制を整え、さまざまな遠隔授業の方法について情報交換ができるようになった。以上のように、オンライン授業に伴う問題点を浮き彫りにし、その技術の習得と改善に積極的に取り組んだので、十分に達成できていると判断した。
--	---

○学校教育学類

【検証事項2 (令和2年度)】 予定・課題	令和2年度の卒業者アンケートは、新型コロナウイルス感染症感染防止のために学類毎の学位記伝達式が短縮開催となったことから、アカンサスポータルから事前に回答することを予告し、学位記授与式当日のその場にてアンケートを実施した。例年を大きく上回る回収率により本アンケート結果の解釈としては、学類の学修成果に基づく学習状況についての自己評価において全ての項目で十分に達成しており、教員養成という本学類のミッションを達成できたのではないかと考えられる。なるためノートについては、コロナ渦における実施の模索があったことから、次年度以降更なる対策を講じる必要性が感じられた。
達成度	令和2年度の卒業者アンケートは、グーグルサイトを利用して実施することを学位記授与式以前より周知し、式当日にもQRコードを配布することで学生から100%の回答を得ることができ、目標を達成した。アンケート結果から、なるためノートの内容、指導教員の指導への評価及び積極的に取り組む意識が高いことから、引き続き令和3年度の学生アンケートから、実施2年目の学校インターンシップに関して、更なる改善を期待している。但し、昨年同様、4月当初からの新型コロナウイルス感染拡大の影響により、受け入れ先の諸学校との関係で授業規模を縮小せざるを得なくなり、課題の達成度はやや不十分であった。なるためノートの実施についても今後、富山大学との共同教育課程において、その整合性を検討しなければならない。

○地域創造学類

【検証事項2 (令和2年度)】 予定・課題	令和3年度は、授業評価アンケートの結果の公表を行うとともに、学類での分析を行い、授業評価アンケートを踏まえた授業改善の検討会を実施する。また、卒業者アンケートのデータ分析を行い、現在検討中である学類新カリキュラムに活かすこととする。
達成度	卒業者アンケートの分析と結果の報告を行った。それを参考にして、学類新カリキュラムを作成した。授業評価アンケートの結果の公表は行ったが、分析はさらに深く行う必要がある。また、検討会は今年度中には実施できなかった。そのため、予定・課題の達成度としては60%程度と評価する。

○国際学類

【検証事項2 (令和2年度)】 予定・課題	昨年度充分に取り組むことのできなかった「〈英語〔外国語〕を学ぶ〉から〈英語〔外国語〕で学ぶ〉へ」の学生の意識変化を促すことを狙いとした、授業変革についてFD研修会における議論等を通じ教員の意識変革を図る。加えてまだ限定的なものにとどまっている、教員間の授業の相互参観の制度化と、それに基づく相互批評の場の設定を実施したい。
達成度	本学類は来年度より従来のコース制からプログラム制へと大きくシステム転換するところであるが、そうしたシステム転換の青写真づくりを担った学類再編WGの議論において、学生からの各種アンケートの結果は、極めて重要な検討材料となった。今回の学類システム再編の目玉となった、2年次からのゼミ所属や、学年進行途中でのプログラム所属やゼミ所属の変更の柔軟な運用(こうした組み

	換えを通じて、「他の教員が何をどのように教育しているか」についての、相互意識が高まり、授業参観と同等の成果が期待される)、各学年末のAL型の成果発表会の実施(外国語による発表等も含まれており、「外国語を学ぶ」から「外国語で学ぶ」への学生・教員の意識変革も期待される)等は正に、各種学生アンケートにおける学生の意見を出発点に策定されたものである。このような点を踏まえて、令和2年度の検証事項2については十分な程度に、十分な速度を以て達成がなされていると自己評価する。
--	---

○数物科学類、数物科学専攻

【検証事項2 (令和2年度)】 予定・課題	授業評価アンケートおよび卒業・修了者アンケート結果から、学類の重要な基礎的科目の理解度に対する自己評価の改善がさらに必要と考えられたので、これらの科目に対するTAおよびALAの採用計画策定に取り入れるとともに、学生の基礎力向上のための教育方法の検討を行っている。
達成度	講義のノウハウなどの情報交換を行い、学生の理解度・習熟度を向上させる取り組みを行えた。 対面授業とオンライン授業を共用する形態になり、新たな教材開発がおこなわれ、講義の質にも改善が見られた。 TA採用計画も基礎的科目の理解度を上げることを重点に行えた。CLAの活用がなかったことが課題である。

○物質化学類、物質化学専攻

【検証事項2 (令和2年度)】 予定・課題	授業評価アンケート結果について、理工学域Webサイトにて公表している。 授業評価アンケートに対する教員の対応策の文書化については、各教員にリフレクションペーパーの作成及び保管を義務付けている。 これらの内容をもとに、学類内において毎年FD研修会を開催し、アンケート結果を踏まえた教育方法の改善について議論している。
達成度	学類内におけるFD研修会において、各種アンケート結果の共有を行い、アクティブ・ラーニングの導入、授業の英語化を含む授業設計について継続して検討している。また、昨年度学類内で独自に行ったオンライン講義に関するアンケート結果の共有を通し、オンライン利用を前提とした教育方針について十分な確認ができた。

○機械工学類、機械科学専攻

【検証事項2 (令和2年度)】 予定・課題	Q1ではオンライン講義に対する授業評価アンケート結果は概ね良好であったが、後期になるにつれて授業評価アンケート結果は少しスコアを落としている傾向もあった。そのため、授業評価アンケートが良好な講義の取り組みを学類FD研究会で紹介するなどして、令和3年度に再びオンライン講義をする必要になったときに教育方法が改善できるように組織的に取り組んでいく。
達成度	令和3年度も引き続きオンライン講義を実施する状況となり、昨年度と同様にQ2終了後に個々の教員が習得したオンライン講義に関するテクニックの共有を実施したが、令和2年度の取組に比べてその数は減少しており、令和2年度のオンライン講義に関するテクニックの供給により多くの所属教員のスキルが既に備わっていることがわかり、組織的に教育能力の向上が実現されていることが確認できた。そのため、達成度は概ね評価できると判断できる。

○フロンティア工学類

【検証事項2 (令和2年度)】 予定・課題	令和3年度、第1期生が卒業となるので、卒業者アンケートを新たに作成する予定である。また、学年進行の完了に伴い、カリキュラムの見直しが予定されているので、授業評価アンケート結果も含めて、学類全体で議論を開始する。
達成度	今年度第一期生が卒業するので、新たに卒業者アンケートを作成し、実施した。今年度でカリキュラムが一巡したが、引き続き新しい試みも実施している。例えば、総合教育部や理工三学類の1年次へ向けたフロンティア工学類の紹介のために、フロンティアコロキウムとして、教員や4年次による研究紹介（オンラインと対面のハイブリッド）や研究室見学を新たに実施し、教員を含めて100名程度が参加した。

○電子情報通信学類、電子情報科学専攻

【検証事項2 (令和2年度)】 予定・課題	コロナ禍におけるオンライン授業の影響のため、アンケートの回答者数が十分取れていない問題が発覚した。アンケートの回答者数を確保するための対策（アンケート項目の変更、回答率向上の声かけ）を実施したが、集計結果の分析に従った学類内で統一した指針を提示できるレベルとはならなかった。 令和3年度は、アンケートの回答者数の十分な確保と、アンケート結果の分析結果の学類内での共有を行うことを目指す。また、それらの分析結果や授業評価アンケートの結果を受け、各教員が改善目標の設定とその実施状況を評価する仕組みを、LMSコースを活用し用意し、教育方法の改善など教員の教育能力の向上につなげることを目指す。
達成度	授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を共有できるよう、LMS上にサイトを立ち上げた。FDに関わる情報を共有し意見交換もできる場が構築できた。 また、授業評価アンケートの結果を基に、各教員が各自の目標を設定し、その結果を翌年評価するシステムもLMS上に構築し、初年度の運用を行った。

○地球社会基盤学類、環境デザイン学専攻

【検証事項2 (令和2年度)】 予定・課題	地球社会基盤学類4年次科目のシラバスの確認。授業参観の実施。
達成度	シラバス記載内容の確認を行った。共同担当科目については、オンデマンド教材がLMSを通じて相互閲覧・視聴が可能になった。

○生命理工学類、自然システム学専攻

【検証事項2 (令和2年度)】 予定・課題	授業評価アンケートと卒業・修了者アンケート、ともに集計結果は概ね良好であった。しかし、回答率が50%に達しておらず、学生全体の意見を反映しているとは言えない。令和3年度では、回答率を上げることが求められる。学類内で改善方法を検討したい。 令和3年度は、生命理工学類1期生が4年次となり、初めての卒業者を送り出す年である。卒業者アンケートでは、学生からの回答を適切に評価でき、結果を今後活かせるような質問項目を設定しなければならない。この点も、令和3年度の課題である。
達成度	授業評価アンケートと卒業・修了者アンケートの回答率の向上を目指した。特に授業評価アンケートにおいては、学類会議で繰り返し周知し、さらに各学期

2-1 照会事項1 令和2年度に提案された予定・課題の達成度

	終了前に教育方法改善委員からメールでアナウンスした。その結果、多くの科目でかなり改善が見られた。 令和3年度は、生命理工学類において初めての卒業生を送り出す。卒業生アンケートには、卒業生からの回答を適切に評価でき、結果を今後活かせるような質問項目を設定した。
--	---

○医学類

【検証事項2 (令和2年度)】 予定・課題	令和2年度に各種アンケートにより集められた医学類カリキュラムに対する学生の意見等を参考に教育方法の改善に努めるとともに、同じく令和2年度に実施したフォーカス・グループ・インタビューにおいての3～4年次の講義・実習の過密さについての意見に関して、対象学年を絞ったアンケートを実施する予定であり、その結果も合わせカリキュラムの改善を検討する予定。
達成度	令和2年度末に実施したフォーカス・グループ・インタビューを受け、医学類4-6年次に対してアンケート調査を実施したところ、臨床系講義の過密化や試験の負担が明らかになった。その後、学生も参画しているカリキュラム委員会において教育カリキュラムの改善案が審議された。令和3年度末には、教学マネジメントセンターの指導の下で、フォーカス・グループ・インタビューを実施した。今後も引き続き、カリキュラム委員会及び教育委員会を中心に教育カリキュラムの改善に取り組む。

○薬学類（創薬科学類）、創薬科学専攻、薬学専攻

【検証事項2 (令和2年度)】 予定・課題	令和3年度から薬学・創薬科学類が改組し、薬学類の規模の拡大、医薬科学類の新設に伴い、令和2年度に引き続き、専門知識と課題探求能力、さらに国際感覚と倫理観を有する学生を育成する。令和3年度もFD研修会を継続実施し、授業評価アンケート結果を踏まえた教員の教育能力向上に向けた取り組みを行う。
達成度	将来の進路が明確で意欲のある優秀な人材を発掘し、進路に特化した高度な教育を早期から行うため、平成30年度入試から導入した新たなAO入試合格者を対象とした「早期ラボ・ローテーション」を実施している。さらには、一部の一般入試合格者も博士一貫プログラム生として「早期ラボ・ローテーション」に参加し、早期からの研究力の涵養を促している。これらの博士一貫プログラム生に対して行った「早期ラボ・ローテーション」に関するアンケート結果を教員間で共有し、他の学生にも効果が出つつあることを確認した。

○保健学類、保健学専攻

【検証事項2 (令和2年度)】 予定・課題	今年度は、COVID-19感染症による影響もあり、アンケートの回答協力が十分にいきわたらなかった可能性が高く、低い回答率となった。今後の回答率向上のための対策としては、ミニツツペーパー等の代替方法やオンラインを利用した学生の理解度の確認などの提案を含め、今後さらに個々の対応・学習ニーズの把握に努め、国家試験合格率向上を目指していく。
達成度	令和3年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で、学士課程、博士課程（前期・後期）のアンケートをWeb回答にしたことから回答率が低かった。そのため担任、副担任、指導教員からアンケートの協力依頼も実施し、学士課程においては回答期間を1週間延長するなどの配慮を行った結果、回答率は昨年度よりもわずかに向上したものの、効果は十分であったとはいえず、回答率の向上は今後の課題である。授業評価アンケートの結果

2-1 照会事項1 令和2年度に提案された予定・課題の達成度

	を参考に学生の理解度の把握に努め、アンケート結果を各教員が講義内容の改善のために活用した。その結果、令和3年度も例年どおり高い国家試験合格率达到することができた。今後も学生の専門職者としての意識・知識向上、さらにチーム医療を実践できる医療従事者の育成に努めていきたい。
--	--

○人間社会環境研究科

【検証事項2 (令和2年度)】 予定・課題	授業評価アンケート等における学生の評価は各項目について概ね好評で喫緊の改善点は見いだせなかった。授業評価のアンケート実施対象が受講生5名以上の授業となっているため、少人数の授業の受講者の声を、プライバシーを尊重しながらいかに吸い上げるか、また改善につなげていくか、今後の課題であるが、令和3年度は、具体的な回答を引き出せるようアンケートの質問を変更し、反省点を担当教員同士で共有できるように改善していく。
達成度	令和3年度も、2年度に引き続きCOVID-19感染拡大の影響によって、授業を遠隔で実施せざるを得ない期間が多かったため、遠隔授業に伴う問題に焦点をあてることになった。具体的には、令和2年度に実施した「大学院における遠隔授業と研究指導についてのアンケート調査」の結果に基づき、特に留学生への対応が喫緊の課題とされ、FD研修会においてコロナ禍における留学生の経験や支援の必要性について問題点の共有と改善の方法についての理解が促進された。したがって【検証事項2】の課題については概ね達成できていると考えられる。

○医薬保健学総合研究科（修士課程・医学博士課程）

【検証事項2 (令和2年度)】 予定・課題	コロナ禍への対応により、オンラインで授業が行われたことで、渡日ができない外国人留学生が受講することができたり、これまで対面授業の際に受講が難しい社会人学生の受講が可能となったりするなど、有用性がみられた。今後、オンラインコンテンツを増やし、充実させ、有効活用することを目指す。
達成度	令和3年度においても、新型コロナウイルス対策が求められ、LMSコース、オンデマンドによる授業が継続して行われた。Web会議システムを活用し、オンライン講義も開講された。オンラインによる授業が行われたことで、渡日ができない外国人留学生が受講することができ、対面授業の際に受講が難しい社会人学生の受講が可能となる有用性は、引き続き確認された。

○先進予防医学研究科

【検証事項2 (令和2年度)】 予定・課題	新型コロナウイルス感染症対応によりオンライン授業（遠隔対面など）の割合が増加したことで、渡日できない外国人留学生が受講することができたり、これまで対面授業の際に受講が難しい社会人学生の受講が可能となったりするなどの教育効果を認めた。 効果的なオンラインコンテンツ（講義ならびに実習）を増やし、有効に活用するために、今後もFD講習会を継続実施し、シラバス記載内容ならびに教育方法の改善に取り組む。
達成度	令和3年度においても、新型コロナウイルス対策が求められ、LMSコース、オンデマンドによる授業が継続して行われた。Web会議システムを活用し、オンライン講義も開講された。オンラインによる授業が行われたことで、渡日できない外国人留学生が受講することができ、対面授業の際に受講が難しい社会人学生の受講が可能となる有用性は、引き続き確認された。

○新学術創成研究科

【検証事項 2 (令和 2 年度)】 予定・課題	アンケート結果を専攻会議・研究科代議員会等で共有し、評価の芳しくない結果となった項目について鋭意対策を検討すると共に、アンケートの分析結果から、令和 2 年度の FD の課題を設定し、FD 研修会の実施を通して授業内容や方法についての検討を行い、教員の教育能力の向上に向けた対応を行うこととする。
達成度	教員の一層の教育能力の向上を目的とし、融合科学共同専攻及びナノ生命科学専攻において FD 研修会を開催した。融合科学共同専攻では昨年度に引き続き、北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科融合科学共同専攻との合同開催となった。いずれの研修会においても、各専攻で懸案となっていた事項について教員同士でブレインストーミングを行ったり、あるいは、講師からレクチャーを受けることを通じ、教育能力の向上に資することができた。

○法学研究科（修士課程・専門職学位課程）

【検証事項 2 (令和 2 年度)】 予定・課題	教員相互の授業参観、弁護士による授業参観、FD 研修会、意見交換会、合同 FD（照会事項 3, 5, 6 に記載）
達成度	教員相互の授業参観、弁護士による授業参観、FD 研修会、意見交換会、合同 FD を予定通りすべて実施した。これらにより各教員が各教員の授業のよい点、そうでない点を認識でき、各教員の教育能力がよりいっそう向上した。

○教職実践研究科

【検証事項 2 (令和 2 年度)】 予定・課題	昨年度の授業評価アンケート等をもとにして、教職実践研究科における FD 活動を年 3 回計画している（公開授業とそれをもとにした授業研究会（7～12 月）、及び実践研究報告会における大学院学生の発表に関する検討会（1～2 月））。このほか、必要に応じてミニ FD を実施する予定である。
達成度	本研究科の改組も視野に入れた将来構想委員会を令和 3 年 11 月に立ち上げ、継続的に開催した。そこで探究学習や共生教育を多面的・多角的に展開することができ、さらに特別支援教育の専修免許取得が可能なカリキュラム開発に取り組んだ。FD 活動においては、2 回の公開授業を行い、探究学習について議論を深め、M1 の中間報告、M2 の実践報告の振り返りも行った。

2-2 照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

2-2 照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

金沢大学では、全学統一の様式(後掲:4 資料編「金沢大学シラバス様式」参照)を用いて、シラバスを作成している。

【検証事項1】令和3年度の実施状況

1)シラバスの点検①(教学マネジメント関連)

【令和3年度の自己点検評価】 シラバスの改善を行った(◎), 点検が完了した(○), 一部点検した(△), 点検を計画していない(×)

部局名	自己点検評価	「◎」または「○」の場合、活動内容及び達成状況について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」または「×」の場合、その理由、点検完了に向けた目標及び達成時期等
先導学類	◎	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	教務・学生生活委員長が点検を行い、不備があったものについて各担当教員に修正を指示した。
人文学類	◎	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	シラバスに関する周知と点検作業そのものはAL関係も含めて教務委員会によって実施され完了している。ただ、FD委員会との協働が必ずしも十分とは言えない状況にある。
法学類	◎	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	ほぼ毎回の学類会議で、シラバスの表記について相互確認した。
経済学類	◎	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	FD委員会委員3名が分担して、全員のシラバス記載内容のチェックを実施し、ALの記載状況を確認し、改善を求めた。
学校教育学類	◎	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	令和2年度と同様、富山大学との共同教員養成課程申請のため、シラバスの作成は学類長、副学類長、教務・学生生活委員会が中心となり、特にアクティブ・ラーニング型授業の実施に関し、シラバス上に具体的に反映されているかを確認した。シラバス全体も不十分なものについては、11専修単位や各教員個別に修正を行った。
地域創造学類	○	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	シラバスに関しては、昨年度徹底的にチェックし、個別依頼も行って、「学修目標・学修成果」、「講義スケジュール」、「AL」の記載はほぼできている。今年度も、それらの記載の周知と、確認を依頼したうえで、チェックを行った。
国際学類	○	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	従来に引き続き教務・学生生活委員会が主管となり、シラバス原稿提出時に記載事項の入念なチェックを行うよう努めている。ALの記載については、AL活動を本学類のFDの重要な一環とは認識しているが、まだ一部の先導的教員の個別実践を随時共有する段階にとどまっており、シラバスへのいっそう詳細な記載等の全教員が積極的に取り組む段階に十分に至っていない。来年度は今回チェックを入れられなかった記載状況の詳細なチェックやALについての記載の個別の依頼等、全学類的なAL活動推進意識の共有を図りたい。
数物科学類 数物科学専攻	○	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	新たにアクティブ・ラーニングを導入する科目について重点的に点検を行った。

2-2 照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」または「○」の場合、活動内容及び達成状況について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」または「×」の場合、その理由、点検完了に向けた目標及び達成時期等
物質化学類 物質化学専攻	◎	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	各教員がシラバスを確認し、改善に努めた。
機械工学類 機械科学専攻	△	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	令和2年度に学類長をトップとするシラバス点検ワーキンググループ(副学類長、コース長、FD委員、教務委員)を構築し、学類の全教科についてシラバス点検を徹底に行ったため、今年度はシラバス変更のあった科目について点検を実施した。
フロンティア 工学類	○	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	AL科目について、ALに関する記載を確認した。
電子情報通信学類 電子情報科学専攻	◎	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	昨年度までは複数回記載状況のチェックを行い、改善依頼を行ったので、本年度はサンプリング調査を行いチェックを行った。チェックした範囲では問題は見当たらなかった。ALに関しては学類会議で周知し、記載状況はサンプリング調査の際にチェックを行い、問題があるものに関しては個別に依頼した。
地球社会基盤学類 環境デザイン学専攻	◎	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	AL記載については昨年度重点的に点検しており、本年度はランダムな点検を行った。また、CLAの積極的導入について学類全体に周知を行い、多くの科目でCLAを導入し、アクティブ・ラーニングの実践ができています。
生命理工学類 自然システム学専攻	○	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	昨年度、教務委員がシラバスの内容を点検し、不十分な場合には修正を依頼して完成度を高めた。今年度についてもシラバスを再点検し、ALに関する記載も再度チェックした。
医学類	◎	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	シラバスへの学修目標・学修成果、講義スケジュール(授業計画)、ALの記載状況を医学教育研究センターで確認した。確認した内容を科目責任者に対してメールで周知を行うとともに、第7回医学系FD研修会の「シラバスの作成方法」の中で説明した。その結果、シラバス記載に改善を認めた。
薬学類 (創薬科学類) 創薬科学専攻 薬学専攻	◎	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	記載方法を示し、各自点検を行った。アクティブ・ラーニングを取り入れた授業については、「授業の内容」及びフィードバックの方法(具体的な学修目標、評価の割合等)の中でその旨を記載した。
医薬科学類	○	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	他学類と共通で開講される科目も含めて、シラバスにおける左記項目について、各自で点検を行っている。また、アクティブラーニング対象科目については、その内容についての記載を確認している。なお、学類初年度のため点検の制度化の実施が課題であり、次年度以降、シラバスのチェック体制を教務・学生生活委員会内に構築し、より確実な周知・確認体制がとれるよう改善を行う。
保健学類 保健学専攻	◎	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	シラバス入力期間での周知のほか、科目担当教員によりセルフチェックを行い、実施している。

2-2 照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」または「○」の場合、活動内容及び達成状況について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」または「×」の場合、その理由、点検完了に向けた目標及び達成時期等
人間社会環境研究科	◎	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	令和2年度に実施した、すべての授業のシラバス記載状況のチェックによって改善した点を今年度も確認し、ALの記載状況についても確認を行った。
医薬保健学総合研究科 (修士課程・医学博士課程)	○	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	令和2年度に実施したシラバス点検の際に、各教員へ依頼した内容が令和3年のシラバスに踏襲されているか、確認を行った。
先進予防医学研究科	○	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	令和2年度に実施したシラバス点検の際に、各教員へ依頼した内容が踏襲されているか、確認を行った。
新学術創成研究科	◎	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	専攻長または教務委員長から各教員へ自己点検するよう周知した。
法学研究科 (修士課程・専門職学位課程)	◎	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	【法学・政治学専攻】ALや学修目標について学生の視点から解りやすく記入することを教員に促している。令和3年度から新たに法学研究科共通科目群と非常勤講師担当の科目について履修登録期間前に履修希望を学生に聞き取る調査(履修希望アンケート)を開始したが、学生の履修計画の助けとなることを目的として、アンケート本文に学生に対して履修についての説明文を置くとともにシラバスの点検を同時に行っている。 【法務専攻】分野毎の教員間でのチェック、教務・学生委員会によるチェック。そもそも法科大学院ではソクラテス・メソッドによる双方向授業を従来から行っているため、特にアクティブ・ラーニングという言葉は使わないが、実態として記載した。
教職実践研究科	◎	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	教務・FD委員会と教職実践研究科会議にて、シラバスへの学修目標・学修成果及び講義スケジュールの記載を依頼し確認した。また、本研究科の授業は、既に全科目がALを基軸としており、シラバスでもその旨が記載されていることを教務・FD委員会で確認した。
国際基幹教育院 GS教育部門	○	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	GS科目企画部会委員が各群の科目(自身の科目は他の教員に依頼)を点検し、点検結果を企画部会長あてに報告した。昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症問題への対応が求められたが、昨年度の蓄積を活かし、学期途中でのレギュレーション変更(第4クォータなど)でも大きな混乱なく対応ができ、学生からのクレームも生じなかった。しかし明確に改善できたとは言えないので評価は「○」に留めた。
国際基幹教育院 外国語教育部門	◎	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	EAP教育企画部・国際試験教育企画部・初習言語教育企画部においてシラバスをチェックした。

2-2 照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」または「○」の場合、活動内容及び達成状況について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」または「×」の場合、その理由、点検完了に向けた目標及び達成時期等
国際機構	◎	☒ シラバスへの学修目標・学修成果の記載状況をチェックした。 ☒ シラバスへの講義スケジュール(授業計画)の記載状況をチェックした。 ☒ ALに関する記載を周知した。 ☒ ALの記載状況をチェックした。 ☐ ALに関する記載を個別に依頼した。 ☐ その他	プログラムコーディネータがシラバス入力の際にこれらの点を周知し、入力後チェックした。

2-2 照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

1)シラバスの点検②(SGU関連)

【令和3年度の自己点検評価】 シラバスの改善を行った(◎), 点検が完了した(○), 一部点検した(△), 点検を計画していない(×)

部局名	自己点検評価	「◎」または「○」の場合、活動内容及び達成状況について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」または「×」の場合、その理由、点検完了に向けた目標及び達成時期等
先導学類	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	教務・学生生活委員長が点検を行い、不備があったものについて各担当教員に修正を指示した。
人文学類	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	シラバスに関する周知と点検作業そのものはSGU関係も含めて教務委員会によって実施され完了している。ただ、FD委員会との協働が必ずしも十分とは言えない状況にある。英文での記入も含め、記載が不十分な場合は個別に依頼し、シラバス記載を徹底した。
法学類	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	数回の学類会議の席で、英語化について相互確認した。
経済学類	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	FD委員が分担して、全教員のシラバスをチェックし、英文入力状況を確認した。記載のない場合は、個別に対応を求めた。
学校教育学類	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	令和元年度に、FD・カリキュラム委員会が作成したシラバス点検マニュアルに基づき、教務・学生生活委員会が中心となり、学校教育学類に11専修に対して、チェックおよび入力の周知を行い、さらに英語化率の向上化を図った。
地域創造学類	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	英文入力については、昨年度徹底的にチェックし、個別依頼も行い、ほぼ実現している。今年度も、英文入力の周知を行い、英文入力の確認を依頼した。
国際学類	○	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	本事項についても教務・学生生活委員会が主管となり入念なチェックを行っている。また英文シラバスに関しても、不十分・不適切な記載に関しては、同委員会により個別に修正依頼を行っているところである。ただ英文シラバスについては未だ、形式面での過不足を吟味する段階にとどまり、表現や内容の適切性を精査する段階には達していない。もちろん英文の精査となれば、これにかかわる知識経験を備える教員に、吟味の負担が片寄ることは避けられず、そうした負担を軽減しつつ、チェックの厳密化をどう行うか、来年度の課題としたい。
数物科学類 数物科学専攻	○	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	いくつかの科目で重点的にシラバスの点検を行った。
物質化学類 物質化学専攻	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	教務委員主導のもと、「授業概要」への授業ごとの概要の記載をはじめとしたシラバスの記載内容の点検を行なった。
機械工学類 機械科学専攻	△	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	令和2年度に学類長をトップとするシラバス点検ワーキンググループ(副学類長、コース長、FD委員、教務委員)を構築し、学類の全教科についてシラバス点検を徹底的に行なったため、今年度はシラバス変更のあった科目について点検を実施した。

2-2 照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」または「○」の場合、活動内容及び達成状況について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」または「×」の場合、その理由、点検完了に向けた目標及び達成時期等
フロンティア工学類	○	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	教務委員が中心となって、全てのシラバスで英語の記載がされていることを確認した。
電子情報通信学類 電子情報科学専攻	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	学類会議で周知し、記載状況はサンプリング調査の際にチェックを行い、問題があるものに関しては個別に依頼した。
地球社会基盤学類 環境デザイン学専攻	○	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	学類開講科目のすべてでシラバスの英文入力が完了していることを確認済みである。また、英語化率向上の一環として例えばオンデマンド教材のナレーション・字幕の英語化依頼を構成員に実施済みである。
生命理工学類 自然システム学専攻	○	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	昨年度、教務委員がシラバスの内容を点検し、不十分な場合には修正を依頼して完成度を高めた。今年度についてもシラバスを再点検し、英語化に関する記載も再度チェックした。
医学類	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	英文入力の記載状況を医学教育研究センターで確認した。確認した内容を科目責任者に対してメールで周知を行うとともに、第7回医学系FD研修会の「シラバスの作成方法」の中で説明した。その結果、シラバス記載に改善を認めた。
薬学類 (創薬科学類) 創薬科学専攻 薬学専攻	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	シラバスの記載内容について確認を行い、英文での入力状況を各自チェックした。入力が不完全な授業科目については、担当教員に入力を依頼した。
医薬科学類	○	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	シラバスの英文記載について確認を行い、記載されていることを点検した。上記と同様、シラバスの確認体制を整え、英文での入力に関しても周知・確認体制を整える。
保健学類 保健学専攻	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	和英併記を周知し、シラバス入力期間での周知に加え、科目担当教員によりセルフチェックを実施している。今後はさらに英語化率の入力等の改善を進めていきたい。
人間社会環境研究科	○	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	令和2年度に実施した、すべての授業のシラバス記載状況のチェックによって改善した点を今年度も確認した。
医薬保健学総合研究科 (修士課程・医学博士課程)	○	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	令和2年度に実施したシラバス点検の際に、各教員へ依頼した内容が令和3年のシラバスに踏襲されているか、確認を行った。
先進予防医学研究科	○	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	令和2年度に実施したシラバス点検の際に、各教員へ依頼した内容が踏襲されているか、確認を行った。
新学術創成研究科	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	英語化できていない科目の点検を行った。

2-2 照会事項2 シラバス改善のための取組みの実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」または「○」の場合、活動内容及び達成状況について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」または「×」の場合、その理由、点検完了に向けた目標及び達成時期等
法学研究科 (修士課程・専門職学位課程)	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	【法学・政治学専攻】科目別の英語化について再度確認するとともに、英語化についてシラバスに記入を忘れずに行うよう教員に促した。 【法務専攻】法務専攻はシラバスの和英併記には該当しないため、英語シラバスは義務づけていない(司法試験は日本語で論じることが求められているため)が、入力状況はチェックしている。
教職実践研究科	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☐ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	英文入力はなされていることを教務・FD委員会にて確認した。
国際基幹教育院 GS教育部門	○	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	GS科目企画部会委員が各群の科目(自身の科目は他の教員に依頼)を点検し、点検結果を企画部会長あてに報告した。新型コロナウイルス感染症問題に対応したシラバスも、各科目とも、基盤的な記載内容は昨年度に固まっていたので、英語表記についても充実させることができた。シラバス英語表記に関する学生からのクレームも生じていない。しかし明確に改善できたとは言えないので評価は「○」に留めた。
国際基幹教育院 外国語教育部門	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☒ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	EAP教育企画部・国際試験教育企画部・初習言語教育企画部においてシラバスの英文入力をチェックした。
国際機構	◎	☒ 英文での入力を周知した。 ☒ 英文での入力状況をチェックした。 ☐ 英文での入力を個別に依頼した。 ☒ 英語化率の入力状況をチェックした。 ☐ その他	プログラムコーディネータがシラバス入力の際にこれらの点を周知し、入力後チェックした。英語化率については入力状況はチェックしたが、開講した多くの科目が「日本語技能を向上させる」という授業の性質上、なじまない。

2-3 照会事項3 授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況

【検証事項1】授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を、授業方法・カリキュラムの改善のために、どのように活用したか。

1) 授業評価アンケート

【令和3年度の自己点検評価】 授業・カリキュラムの改善を行った(◎), 分析・共有を行った(○), アンケートの実施のみ(△), アンケートを計画していない(×)

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活用内容について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、分析・共有に向けた目標及び達成時期等
先導学類	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	科目ごとの集計結果を授業担当者へ開示し、全体の集計結果をWebサイトで公表した。
人文学類	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☒ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	データを整理し、学類長、教務委員長が確認し、FD委員会が分析した。科目全体でのアンケート結果を、前々年度および前年度と比較し、FD委員会で報告書を作成し、公表した。過去との比較から、シラバスの評価や授業への興味関心、授業のスピード、参考資料の適切さなど、複数の項目で向上がみられた。令和3年度も、オンライン授業の増加によるマイナスの影響はなかったと考えられることが確認できた。このことに、令和2年度のデータ分析と、それに基づく令和3年度のFD活動が貢献したと判断することができる。
法学類	○	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☒ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	アンケート結果について、学類会議で報告し、改善が見られた授業実践の実例をもとに意見交換した。
経済学類	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☒ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	授業アンケート結果は、各教員のアカンサスポータルに集計結果として適宜報告されるため、FD委員会としては、各教員に対し、その結果を参考にして次年度に向けた授業改善を呼びかけている。例えば、予習復習の時間が1時間以上2時間未満と回答した割合が2020年度は29%であったが、予習復習の具体的な事項を各回で示し、自分の意見をもって授業に臨むよう指示するなどの工夫を行った結果、2021年度は33%に増加させることができた。また、それに伴い、授業内容理解についても、ほぼ理解できたが52%から63%へと大幅に向上した。このように、分析結果を授業改善に役立てている。
学校教育学類	○	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	各授業担当教員に、授業評価アンケートの結果を自己点検し、今後の授業改善にどのように役立てるかを検討する「リフレクション・ペーパー」への記載を依頼した。また、授業評価アンケート結果は、人間社会学域で一括してWeb公開する予定である。
地域創造学類	△	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☒ その他	授業評価アンケートについて、学類会議において報告を行ない、授業評価アンケートの結果に基づいて、授業の見直し、改善等を行うように学類教員に要請した。

2-3 照会事項3 授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活用内容について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、分析・共有に向けた目標及び達成時期等
国際学類	○	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☒ 課題のある科目に注意を行った。 ☒ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	学類会議やその下部機関である学類再編WGにおいて、アンケート結果については随時分析・考察を行ってきた。アンケート回収率は年とともに改善傾向にあり、また回答結果も概してポジティブなものが多く、本学類の教育が学生の一定の支持を得ているものと自負している。但し、アンケート内容につき、分析・考察により状況を把握することはあっても、それを踏まえ何らかの学類としての改善策を策定したり、教員個々人に改善の助言を与えるような、より踏み込んだ活動には至っていない。こうした面の具体化が、来年度に向けての課題である。
数物科学類 数物科学専攻	○	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	学類メーリングリストで報告を行い、授業評価アンケートの結果に基づいて講義内容の改善を要請した。
物質化学類 物質化学専攻	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	学類・専攻の科目を対象に、出席状況、目標・ポイントの明示、説明の仕方、授業理解度および満足度等の質問項目で実施した。結果については学類内FD研修会の議題として取り上げ、特にアクティブ・ラーニングを促す授業設計における指針として活用した。
機械工学類 機械科学専攻	○	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	授業評価アンケート結果に対して、機械工学類、機械科学専攻と理工学域、自然科学研究科の集計結果を比較した結果を、今後の授業の改善に活用してもらうように機械工学類の教職員に連絡した。
フロンティア工学類	△	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	オンライン化の影響で、アンケート回収率が下がっているため、アンケート期間中に教員にリマインドして、協力を呼びかけた。
電子情報通信学類 電子情報科学専攻	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	理工学域共通のLMS上の授業評価アンケートを活用した。アンケートの回収率などを学類内で確認し、各担当教員内で次年度の改善目標をたてて改善を行う仕組みを構築し、初年度の運用をした。
地球社会基盤学類 環境デザイン学専攻	○	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	授業評価アンケートは各担当教員に返却し、各自授業改善に取り組んでもらっている。また、本年度は、全学共通化に向けた授業評価アンケートの内容について学類全体で議論・意見集約を行った。次年度から本格化する全学共通アンケートおよび教学マネジメントセンターによる分析結果を元にした授業改善に取り組みたい。
生命理工学類 自然システム学専攻	○	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	アンケート内容・アンケートの回収率などを学類長、教務委員、学生委員も含め、学類内で情報を共有し内容を確認した。各担当教員内で次年度の改善についての方針を決めた。

2-3 照会事項3 授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活用内容について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、分析・共有に向けた目標及び達成時期等
医学類	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 結果を公表した。 ☒ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	カリキュラム評価委員会が、授業評価アンケート等を踏まえて科目評価を行い、科目担当者に対して評価の結果をフィードバックしている。
薬学類 (創薬科学類) 創薬科学専攻 薬学専攻	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	各授業担当教員が授業評価アンケート結果を確認し、受講者からの要望があったものについては、要望に対応して行った授業改善も含めて、回答を薬学Webサイトにて公表した。
医薬科学類	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	集計された結果のフィードバックを行ったことに加えて、アンケート結果(自由記載も含む)を学類会議で共有し、その内容について協議した。また、自由記載にある要望内容について科目担当教員へフィードバックし、その回答内容を公開するというサイクルで授業内容の改善に資するような仕組みをとっている。
保健学類 保健学専攻	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	COVID-19感染症の影響で昨年の回答率は14.0%であったが、今年度も12.8%と低い傾向を示した。さらに各教員に周知したい。 また、アンケート結果においては、各科目の担当教員に伝えており、各教員が現状を把握し、必要に応じて改善に取り組んでいる。
人間社会環境 研究科	○	☐ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	クォーター毎にアカンサスポータルを通じて実施した。
医薬保健学総合 研究科 (修士課程・医学博士課程)	△	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	アカンサスポータルのアンケート機能を利用し、授業評価アンケートを実施した。その結果については、担当教員に共有を行った。
先進予防医学 研究科	○	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	アカンサスポータルのアンケート機能を利用し、5科目について授業評価アンケートを実施し、研究科長が確認した。その結果については、担当教員に共有を行った。
新学術創成 研究科	○	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	個々の教員が現状を把握し、必要に応じて改善に取り組んでいる。

2-3 照会事項3 授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活用内容について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、分析・共有に向けた目標及び達成時期等
法学研究科 (修士課程・専門職学位課程)	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☒ その他	【法学政治学専攻】人間社会環境研究科と同様に一定数以上の受講者がいる科目について授業評価アンケートを実施している。また、法学研究科共通科目群については履修登録期間前に学生の履修希望有無についてアンケート調査を実施することを令和3年度から開始した。このアンケートと学生指導とを連携させ、より学生にプログラム全体を解りやすく、かつ履修前に授業内容の把握と準備を行えるようにした。 【法務専攻】前期・後期とも、授業の中盤および終期にアカンサスポータル上でアンケートを行った。中間アンケートについては、各教員に対し、授業科目についての学生からのコメントへの返答と対応を求め、各委員会に対しては学生から寄せられた意見への対応を依頼し結果を文書で通知している。期末アンケートについては、結果を専任教員にはすべて共有し、各教員にアンケート結果を踏まえた報告書を作成してもらい、FD研修会の検討資料としている。選択科目でも任意回答でアンケートを実施している。また、連携科目について提供先の大学でもアンケートを実施してもらっている。期末アンケートの結果は法務専攻のウェブサイトで公表している。
教職実践研究科	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	結果については、各講義担当者へデータを送付するとともに、各自でも確認可能な状態である。また、結果については、教務・FD委員会及び、教職実践研究科会議にて共有し、分析を行っている。
国際基幹教育院 GS教育部門	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	授業評価アンケートの結果については各科目担当者(コーディネータ)に返却した。多くの科目では科目担当者間で結果を共有した(必ずそうするよう指示を出した訳ではないのでチェックは入っていない)。結果は各科目の授業内容改善に役立てた。
国際基幹教育院 外国語教育部門	◎	☒ 担当者個人に返却した。 ☐ 科目担当者間で共有した。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 結果を公表した。 ☒ 課題のある科目に注意を行った。 ☒ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	EAP教育企画部・国際試験教育企画部・初習言語教育企画部において、コースリーダー或は各言語コーディネーターが課題のある科目に注意を行い、結果が改善した。
国際機構	○	☒ 担当者個人に返却した。 ☒ 科目担当者間で共有した。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 課題のある科目に注意を行った。 ☐ 前年度よりも結果が改善した。 ☐ その他	担当者のミーティングにおいて、担当者には結果を確認するよう依頼した。教務委員長とプログラムコーディネーターが結果について確認した。

2-3 照会事項3 授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況

2)卒業・修了者に対するアンケート

【令和3年度の自己点検評価】 授業・カリキュラムの改善を行った(◎), 分析・共有を行った(○), アンケートの実施のみ(△), アンケートを計画していない(×)

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活用内容について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、分析・共有に向けた目標及び達成時期等
先導学類	—	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	該当なし
人文学類	◎	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☒ 結果を公表した。 ☒ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	アンケートデータを整理し、令和3年度データの特徴をFD委員会が分析し、学類教員が確認した。集計結果を前年度と比較し、FD委員会が報告書を作成し、公表した。総合的な満足度は100%に達しており、また学修成果への評価が向上していた。令和2年度の分析と、それに基づく令和3年度のFD活動が貢献したと判断することができる。ただしプレゼンテーション能力の向上についてのみ、評価が低下しており、何らかの対応が必要であると考えられる。
法学類	○	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	アンケート結果について、学類会議で報告し、改善が見られた授業実践の実例をもとに意見交換した。
経済学類	◎	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	経済学類学位記伝達式開始前に実施した。結果は学類会議で共有し、改善に役立てている。
学校教育学類	◎	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☒ 結果を公表した。 ☒ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	令和元年度・令和2年度の卒業生アンケートの「なるためノート」に関する項目を整理・分析したものと及び、令和3年度の卒業生アンケートの結果の報告を、令和3年度学校教育学類FD・カリキュラム委員会活動報告書に掲載した。なお、令和3年度学校教育学類FD・カリキュラム委員会活動報告書は、令和4年7月末頃までを目途に学類のWebサイトにおいて学内公開する予定である。
地域創造学類	○	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	学類会議において、アンケートの結果について報告を行い、アンケート結果から見られる学類の課題を共有した。
国際学類	○	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☒ 結果を公表した。 ☒ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	学類会議やその下部機関である学類再編WGにおいて、アンケート結果については随時分析・考察を行ってきた。ただ昨年に引き続き、コロナによる学生への対面指導の機会が減ったことも合いまって、アンケート回収率は決して高くない(昨年度に比べて改善は見られた)。従来必要に応じ断続的に実施したアンケート結果の分析を、恒常的に実施できるよう、学類内の体制を整えることが来年に向けての課題である。
数物科学類 数物科学専攻	○	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	学類メーリングリストで報告を行った。アンケートの参加人数が少なかったため、次回からアンケート記入を学位記伝達式のスケジュールに組み込むことにする。

2-3 照会事項3 授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活用内容について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、分析・共有に向けた目標及び達成時期等
物質化学類 物質化学専攻	◎	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☒ 結果を公表した。 ☒ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	アカンサスポータルを利用した卒業生・修了者学修到達度アンケートを実施し、課題点の抽出を行なった。結果および改善内容に関する議論は令和4年度開催予定の学類内FD研修会の議題として行う予定である。
機械工学類 機械科学専攻	△	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☒ その他	新カリキュラムの第一期生が卒業するので、卒業生アンケートの内容を修正して実施した。修了者アンケートとともに令和4年度7月以降に開催するカリキュラム検討委員会で情報を共有する。
フロンティア工学類	△	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	今年度第一期生が卒業するので、新たに卒業生アンケートを作成し、実施した。
電子情報通信学類 電子情報科学専攻	◎	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	LMS上で、昨年のアンケート結果を学類内で共有できるようにし、この結果に対して意見を発信できるサイトをLMS上に用意をした。 具体的な改善案もいくつか提案された。また、次年度以降活用がさらに進むよう学類会議で共有した。
地球社会基盤学類 環境デザイン学専攻	○	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	卒業・修了者に対するアンケートを実施し、FD委員を中心に分析を進めている。
生命理工学類 自然システム学専攻	○	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	アンケート内容について学類長、教務委員、学生委員も含め、学類内で情報を共有し内容を確認した。概ね良好な達成度、結果であったが、特にQ1で注意が必要ながわかったので今後の改善に生かすこととした。
医学類	○	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	卒業・修了者に対するアンケートを実施し、医学IR室で分析を進めている。
薬学類 (創薬科学類) 創薬科学専攻 薬学専攻	◎	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	学類長・専攻長、学類・大学院の教務・学生生活委員長、就職担当教員、FD委員会委員長が卒業・修了者に対するアンケート結果を確認した。学習の達成度は89.8%が「できた」又は「どちらかといえばできた」と回答しており、現行の授業内容・方法が学生にとって概ね適切であると分析している。
医薬科学類	—	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☐ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	学類1年目で卒業者が不在のため、実施しなかった。
保健学類 保健学専攻	◎	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☒ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	今年度の回答率は14.8%で昨年(52.4%)よりも大きく下回った。次年度はさらに各教員に周知したい。 また学類生の大学生活における満足度では、「満足している」「やや満足している」という回答が計96.8%で高い傾向を示した。今後もアフターコロナを見据えて、オンライン講義等の活用も含めた授業・カリキュラムの改善に努める必要がある。

2-3 照会事項3 授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」又は「○」の場合、活用内容について該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」又は「×」の場合、その理由、分析・共有に向けた目標及び達成時期等
人間社会環境研究科	○	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	学位記伝達式の日を実施し、博士前期課程41名中27名(回答率82.9%)、博士後期課程7名中7名(回答率100%)から回答を得た。
医薬保健学総合研究科 (修士課程・医学博士課程)	○	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	アカンサスポータルのアンケート機能を利用し、修了者アンケートを実施した。その結果については、関係教員に分析を行った。
先進予防医学研究科	○	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☐ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	アカンサスポータルにて修了者アンケートを実施した。研究科長が確認し、研究科内で課題を共有した。
新学術創成研究科	○	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	結果については、専攻会議にて共有し、個々の教員が必要に応じて改善に取り組んでいる。
法学研究科 (修士課程・専門職学位課程)	◎	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	【法学・政治学専攻】人間社会環境研究科法学・政治学専攻の9月修了者に対して人間社会環境研究科と同様にアンケートを実施し、結果を人間社会環境研究科と共有するとともに、法学・政治学専攻運営委員会で検討した。 【法務専攻】修了者アンケート(学習成果自己評価アンケート)を実施した。修了者の数が少なく、かつ、回答は良好であったため、特に対応の必要がなかった。司法試験の勉強中の修了者に対しては、SAとして在学生の学習を援助する代わりに自習室や図書室の利用を認めており、在学中のアドバイス教員が引き続き定期的に面談を行って状況を把握し、不満があれば情報を共有し改善を図っている。
教職実践研究科	◎	☒ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☒ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	結果については、教務・FD委員会及び、教職実践研究科会議にて共有し、分析を行っている。
国際機構	○	☐ 学類(専攻又は研究科)で分析を行った。 ☒ 教務委員(長)・学類長(研究科長)等が確認を行った。 ☒ 学類(専攻又は研究科)で課題を共有した。 ☐ 結果を公表した。 ☐ 具体的な改善につなげた。 ☐ その他	プログラムコーディネータがアンケートを行い、授業担当者で課題を共有した。結果の公表はしていない。

【検証事項2】検証事項1の授業評価アンケート及び令和3年度卒業・修了者に対するアンケートといった各種アンケートの集計結果等を踏まえ、令和4年度に行われる教育方法の改善など教員の教育能力の向上のための組織的取組の計画

部局名	組織的取組の計画
先導学類	FD研修会の開催を検討している。例えば、様々なオンラインツールを活用した授業方法や、ALと組み合わせた効果的な教育手法の共有など。
人文学類	令和3年度の授業評価アンケートから、学生の授業時間外学修について若干の減少傾向がみられた。これを踏まえ、時間外学修を向上させるための方策を学類のFD活動として行う。教員内で蓄積されたノウハウを活かすためにFD研修会を開催し、学類教員の教育能力向上を図る。また、令和3年度の卒業生アンケートからは、プレゼンテーション能力の向上についての評価にやや低下があったので、FD委員会で対応策を検討・考案して、FD研修会等で学類教員に提案を行う。
法学類	高評価を得ていることから、法学研究科との連携強化等の着実な遂行を図る。
経済学類	ここ数年、学域GS言語科目について、学生への効果の点で授業運用や評価方法などの試行錯誤を行っている。この点で、学習方針や授業担当者ごとの運用の影響をFD研修会などで洗い出し、改善に向けて検討していく。
学校教育学類	令和3年度の卒業生アンケートは、新型コロナウイルス感染症感染防止のために学位記伝達式が短縮開催となったことから、アカンサスポータルから事前に回答することを予告し、学位記伝達式当日のその場にてアンケートを実施した。ほぼ昨年同様の回収率により本アンケート結果の解釈としては、学類の学修成果に基づく学習状況についての自己評価において、全ての項目で十分に達成しており、教員養成という本学類のミッションを達成できたのではないかと考えられる。なるためノートについては、コロナ渦における実施の模索があったことから、次年度以降は更なる対策を講じる必要があると感じたと同時に、富山大学との共同教育課程にマッチした内容が求められる。
地域創造学類	学類再編にともない、カリキュラムも大幅に変わったので、授業評価アンケート等の分析に基づいて、これらについての検証を行う。授業参観と絡めて、授業改善のためのFD研修会を実施する。
国際学類	教員の授業参観の制度化(ないしはそれに代わる他の教員の教育内容な教育手法の相互認知を通じた連携体制の強化)については、本年度の研修会等における検討によりその実現の第一歩が記された。次年度は学類システム改革と連動させつつ、こうした試みをより具体的な次元で実践することが必要となろう。また上に触れた各学年末のゼミ学習の「学類発表会」を「英語で学ぶ」という課題を含む、AL活動の濃密化の仕掛けとしてより具体的に設計していくことも求められる。
数物科学類 数物科学専攻	授業評価アンケートや卒業・修了生アンケートの結果から、学類・専攻の重要な基礎的科目の理解度に対する自己評価の改善が必要と考えられる。それらの科目に対するTA・ALAの採用計画策定に取り入れるとともに、学生の基礎力向上のための教育方法の検討を行う。
物質化学類 物質化学専攻	授業評価アンケート結果について、理工学域Webサイトにて公表している。授業評価アンケートに対する教員の対応策の文書化については、各教員にリフレクションペーパーの作成および保管を義務付けている。これらの内容をもとに、学類内において毎年FD研修会を開催し、アンケート結果を踏まえた教育方法の改善について継続的に議論している。
機械工学類 機械科学専攻	機械工学類(機械科学専攻)と理工学域(自然科学研究科)の授業評価アンケート結果の比較を行い、機械の担当講義の良い点、悪い点を把握し組織的に更なる改善を図っていく。また、新カリキュラムの卒業生アンケートの初めての結果を得たので、今後のカリキュラムの修正に活かしていく。

2-3 照会事項3 授業方法・カリキュラム改善のための取り組み等の実施状況

部局名	組織的取組の計画
フロンティア工学類	今年度カリキュラムが一巡して、いくつかの課題が見られており、カリキュラムの修正を含めて検討が始まっている。そのための参考資料として今後本格的に活用する予定である。
電子情報通信学類 電子情報科学専攻	今年度は授業評価及び卒業・修了者に対するアンケートの結果を共有できるよう、LMS上にサイトを立ち上げ、FDに関わる情報を共有し意見交換できるようにした。更に、各教員が各自の目標を授業評価アンケートの結果を基に設定し、その結果を翌年評価するシステムをLMS上に構築し運用を開始した。来年度も引き続き理工学域共通の授業アンケートを活用して、各自の目標に従って授業改善を行うことが求めてゆく。LMSを活用し組織的にその活用を推進する。
地球社会基盤学類 環境デザイン学専攻	カリキュラム改善の取り組みとして、昨年度まで、カリキュラム再編WGにて、新学類一巡目のカリキュラムについての検証、および新専攻のカリキュラムについて議論してきた。今年度からは、学類、専攻ともに改善された新しいカリキュラムがスタートしたことから、今後、学類・専攻内にて検証を行っていく予定である。 また、授業方法改善の取り組みとして、学類・専攻内にてFDを開催し、教育方法改善のための情報共有と意見交換を行う計画である。
生命理工学類 自然システム学専攻	アンケート結果と内容を学類会議等で検討し、コース別の次年度の改善についての方針を決めた。特に回収率の向上やアンケート項目の見直し、アンケート情報の共有、また授業内容で注意すべき時期などに改善点があることが分析から示唆されたため、これらの点についての改善に取り組んでいくこととした。
医学類	カリキュラム委員会及び教育委員会を中心に、教育カリキュラムの改善に取り組む。FD委員会委員に学生支援委員会委員、基礎系教員、臨床系WG委員、サブスペシャリティローテーション委員を参画させ、医学系FD研修会の内容の充実を図る。
薬学類 (創薬科学類) 創薬科学専攻 薬学専攻	令和3年度から薬学・創薬科学類が改組し、薬学類の規模の拡大、医薬科学類の新設に伴い、前年度に引き続き、専門知識と課題探求能力、さらに国際感覚と倫理観を有する学生を育成する。令和4年度もFD研修会を継続実施し、授業アンケート結果を踏まえた教員の教育能力向上に向けた取り組みを行う。
医薬科学類	既にアンケート結果の共有や分析、フィードバックについては学類会議で実施しているところであり、学類会議内あるいは教務・学生生活委員会内に仕組みを導入する形で制度を定着させる。
保健学類 保健学専攻	回答率の改善においては、今後もクラス担任や指導教員を通して学生に周知していきたい。また教育方法の改善等においては、アフターコロナの講義を見据えて従来の対面講義に加え、オンライン講義を積極的に取り入れたブレンド型講義に関する研修会等を実施して、今後の授業・カリキュラム等の改善に努めていきたい。
人間社会環境研究科	授業評価アンケート及び修了者アンケートの結果について情報共有し、改善について検討するとともに、これらのデータを参考に新設の大学院GS科目等の内容や実施方法の検討を行う。
医薬保健学総合 研究科 (修士課程・ 医学博士課程)	修了者アンケートの結果から、医学博士課程、修士課程ともに概ね学修等に満足している結果が得られた。 医学博士課程においては、課題が2つ明らかとなった。①複数指導体制について、3分の1の学生が十分に認識していない結果であった。今後は本人に周知するなど、指導体制を充実させることを検討する。②単位の修得方法、時期が分かりにくかったという意見が複数みられた。そのため、履修スケジュールを新たに手引きに記載することとした。さらに、履修案内を密に行う方法を検討する。 修士課程においては、在学期間中すべてコロナ禍の影響を受けた学生が修了した。在学期間中はWebによる授業がメインとなったため、ポストコロナに向

2-3 照会事項3 授業方法・カリキュラム改善のための取り組み等の実施状況

部局名	組織的取組の計画
	けて、対面授業や交流を促進することとした。
先進予防医学研究科	千葉大学・金沢大学・長崎大学先進予防医学共同専攻として実施した自己点検・評価ならびに外部評価結果に基づき、授業アンケートおよび修了者に対するアンケートを教育活動改善に活用するための3大学共同のシステム作りに取り組む。効果的なオンラインコンテンツ（講義ならびに実習）を増やし、有効に活用するために、今後も3大学合同FD講習会を継続実施し、シラバス記載内容ならびに教育方法の改善に取り組む。
新学術創成研究科 （博士前期・後期課程）	アンケート結果を元に専攻毎の教務・学生生活委員会において次回FD研修会のトピックスを精査の上、研修会を開催する予定。
法学研究科 （修士課程・専門職学位課程）	【法務専攻】アンケート結果及び、各教員によるアンケートに対する所感・意見をとりまとめて共有し、FD研修会において検討する。
教職実践研究科	昨年度の授業評価アンケート等をもとにして、教職実践研究科におけるFD活動を年3回計画している（公開授業とそれをもとにした授業研究会（7～12月）、及び実践研究報告会における大学院学生の発表に関する検討会（1～2月））。また、将来構想委員会において、探究学習や共生教育を多面的・多角的に展開することができ、さらに特別支援教育の専修免許取得が可能なカリキュラム開発を行っていく予定である。

2-3 照会事項3 授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況

【検証事項3】教員相互の授業参観(遠隔授業の参観を含む)

【令和3年度の自己点検評価】 授業改善を行った(◎), 授業参観を実施した(○), 授業参観を計画している(△), 授業参観を計画していない(×)

部局名	自己点検評価	「◎」または「○」の場合、活動内容及び達成状況について該当するものに☑	左欄の具体的実施方法、科目数 「△」または「×」の場合、その理由、授業参観の実施に向けた目標及び達成時期等
先導学類	◎	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	関係教員に「アントレプレナー基礎」(Q1)を公開し、この授業内容及び学生の活動を、各教員が担当する専門教育科目の学修に活かすこととした。
人文学類	◎	☒ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	3科目で実施した。「ドイツ文学史A2」(対面)、「地誌学演習2」(リアルタイムオンライン)、「感情・人格心理学B」(リアルタイムオンライン)。オンライン授業は録画をし、FD委員会LMSコースでオンデマンド視聴を可能にした。参観教員からのコメントに、授業担当教員がリプライをした感想票を学類教員で共有した。
法学類	○	☒ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	学類共通科目を中心に、相互参観し、それぞれの授業改善の役立てた。(6科目以上)
経済学類	◎	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	新型コロナ禍の教員相互の授業参観は実質的に不可能であった。しかしながら、昨年度と同様に、遠隔授業の方法などをFD用の掲示板を用いて情報交換ができたので、相互に適切な遠隔授業の運営方法を検討することができた。
学校教育学類	◎	☒ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☒ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	令和2年度は、新型コロナ・ウィルスの感染拡大の影響により、学校教育学類FD研究公開授業を実施できなかった。令和3年度は、Q2において教育基礎専修、Q4においては保健体育専修の授業をFD研究授業として公開し、改善に向けた取り組みを2回行った。学校教育学類FD・カリキュラム委員会にて企画し、ローテーションで決められた各当番専修で運営を行い、授業後には全体整理会を行った。
地域創造学類	○	☒ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	前期にモデル授業(英語による授業)を選定して授業参観を行うとともに、後期から授業参観システムを構築し、全教員参加を原則としてスタートさせた。
国際学類	◎	☒ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	実際の授業の相互参観に代わるものとして、学類所属教員の授業ビデオを教員各自が視聴し、それを踏まえ本年度第二回FD研修会にて、本学類における教員の相互授業参観の今後の体制について検討を行った。その結果遠隔授業(ビデオ動画)を参観するという手法は、大変有効であるとポジティブな評価を得たので、今後この方向を制度化すること課題としたい。一部の教員の授業は、既にWEB上に公開されており、広くアクセス可能である。
数物科学類 数物科学専攻	○	☒ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	集中講義および特別講義では教員相互の授業参観ができる体制になっている。その他の講義については実施に関する検討を行っているが結論は出していない。
物質化学類 物質化学専攻	△	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	学類FD研修会においてモデル授業の紹介および改善点に関する議論を行っている。オンライン・ハイブッド型など講義形態がまちまちであるため、組織だった相互参観は現実的ではないと考えられる。一方で、授業カタログの公開や研修会において講義内容の講演を通し、教員間相互の講義内容について理解を深める機会は十分に取れている。

2-3 照会事項3 授業方法・カリキュラム改善のための取り組み等の実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」または「○」の場合、活動内容及び達成状況について該当するものに☑	左欄の具体的実施方法、科目数「△」または「×」の場合、その理由、授業参観の実施に向けた目標及び達成時期等
機械工学類 機械科学専攻	○	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	オンライン講義だったので、複数人で分担する科目については、担当教員は全てのコンテンツをLMSで見ることが可能となり、担当教員間で各講義動画を参観した。具体的な科目は、「工業力学、数学物理基礎リテラシー、材料力学2、機械工学基礎実験、機械工学特別演習A」などである。
フロンティア 工学類	△	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	今年度カリキュラムが一巡して、いくつかの課題が見られており、カリキュラムの修正を含めて検討が始まっている。そのための情報収集手段として実施を検討する。
電子情報通信学類 電子情報科学専攻	○	☒ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☒ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☒ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	モデル授業のビデオデータ(本年度は1科目)をLMS上に挙げ、学類内で共有した。また、授業カタログを共有できるようURLを共有し、授業カタログの内容や、授業ビデオに関する議論を行うために、LMS上にサイトを用意した。
地球社会基盤学類 環境デザイン学 専攻	○	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	共同担当科目におけるオンデマンド教材はLMSを通じた相互閲覧・視聴が可能になっている。
生命理工学類 自然システム学 専攻	○	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	共同担当の授業において、オンライン授業を相互に視聴できるようにした。
医学類	△	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	教員相互の授業参観は、今後計画していく予定である。
薬学類 (創薬科学類) 創薬科学専攻 薬学専攻	△	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	授業改善を図るための制度的な取り組みの一環として、「授業評価アンケート」を実施し、効果的な授業方法を図ることを目的に「授業カタログ」を作成している。授業改善や効果的な履修指導につながることを目指している。
医薬科学類	○	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	複数の教員が担当する科目(医薬保健学基礎、医薬科学研究者入門)において、オンライン講義とした場合、その講義を相互に視聴できるようにした。今後専門科目が開始されていくため、状況が落ち着き次第、授業参観の導入について計画していく。
保健学類 保健学専攻	◎	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	昨年度のFD研修会では、オンラインにおける高大接続プログラム・講義、さらに双方向性によるオンライン講義の方法を紹介し、今年度においては各専攻での実践状況を確認した。また今後は、優秀教員による講義等の工夫の紹介をFD研修会で実施することを考えている。
人間社会環境 研究科	△	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	令和3年度も引き続きcovid-19感染拡大による、オンライン授業や登学禁止期間の影響もあり、授業参観を行うことが出来なかった。次年度以降、感染症の状況もみながら、実施すべく計画を行っている。
医薬保健学総合研究科 (修士課程・医学博士課程)	△	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	オンラインによる授業LMSコースにおいて、同じ授業科目を担当している他の教員の講義内容を、相互に自由に閲覧する体制を構築した。今後は、関係教員にこれらのコンテンツの視聴を勧め、有効活用する。

2-3 照会事項3 授業方法・カリキュラム改善のための取組み等の実施状況

部局名	自己点検評価	「◎」または「○」の場合、活動内容及び達成状況について該当するものに☑	左欄の具体的実施方法、科目数「△」または「×」の場合、その理由、授業参観の実施に向けた目標及び達成時期等
先進予防医学研究科	○	☐ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	3大学の担当教員による同日開催の複数の遠隔対面授業をモデルとして、教員相互の授業参観を行った。また、一部のオンデマンド授業(オムニバス形式)では、科目担当教員間での相互の授業内容確認を可能とした。
新学術創成研究科	◎	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	融合科学共同専攻において、「異分野『超』体験セッションⅠ(博士前期課程)・Ⅱ(博士後期課程)」の授業を、専任教員に遠隔配信(web EX)にて公開した。
法学研究科(修士課程・専門職学位課程)	◎	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	【法務専攻】専任教員は、前期・後期それぞれ2科目以上の授業を参観し、報告書を提出している。報告書は教員間で共有し、FD研修会の資料としている。教員のほかに、弁護士による授業参観も実施しており、意見交換会において実際に参観をした弁護士からの意見を聴取し授業の改善につなげている。
教職実践研究科	◎	☐ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☒ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	本研究科の授業は全て研究者教員と実務家教員双方が複数人入り展開しているため、日常的に相互の授業参観機能は持ち合わせている。今年度は学習デザインコース「学習デザイン研究Ⅱ」の中の2回を研究授業として位置づけ、本研究科教員・他コース大学院学生に公開し、後日授業検討会を実施した。
国際基幹教育院GS教育部門	○	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	全GS科目において授業開催の情報をメール通知等で共有した。新型コロナウイルス感染症問題のために昨年度に引き続いて対面での授業や机間巡視等に制限があり、授業参観であるという自覚を伴った活動はほとんど実施できていない。系・部門会議も大半がオンライン開催であったため会議後の情報交換会は年度末に近い数回に留まり、通常はそこで実施する授業ノウハウ等の交換も実施できていない。しかし遠隔授業のビデオを視聴するといった活動は個別にあり、それは授業参観の一形態と捉えられるので実施状況を「○」とした。
国際基幹教育院外国語教育部門	◎	☐ 授業カタログを活用した。 ☒ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☒ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☐ すべての教員の授業を公開している。 ☐ その他	外国教育系FD授業参観[Class observation]を2021年12月14日から12月23日まで実施した。以下の6名の教員が担当授業を公開した。参観者から授業改善に役に立った声が多数寄せられた。 12月14日佐藤朋子【フランス語A4-2】参観者6名 12月15日小熊猛【TOEIC準備IV】参観者6名 12月16日Mark Hammond【TOEIC準備IV】参観者4名 12月20日Lewis Murray【EAP IV】参観者7名 12月21日Dale Brown【EAP IV】参観者7名 12月23日趙 菁【中国語A4-2】参観者5名
学術メディア創成センター	◎	☐ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	「データサイエンス基礎」の学術メディア創成センター担当部分、全学類および総合教育部の3回分について、授業内容および授業方法の打ち合わせを全教員で行った。また、授業期間中は、メールやSlackなどを利用して、日々の授業状況を情報共有して、即時の改善に努めた。
国際機構	○	☒ 授業カタログを活用した。 ☐ モデル授業について実施した。 ☐ ローテーションで実施した(5名未満)。 ☐ ローテーションで実施した(5名以上)。 ☒ すべての教員の授業を公開している。 ☒ その他	国際機構の授業は令和3年度すべて遠隔で行ったため、対面での授業参観は行わなかった。ただし、総合日本語プログラムの授業はすべて担当者が互いに、教材や授業の進め方などについての報告および問題点の指摘などを行えるように定期的なミーティングを行っている。

2-4 照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

【検証事項1】令和3年度の実施状況

1)成績評価基準等の作成・検証

【令和3年度の自己点検評価】 成績評価基準・方法を改善した(◎), 検証・共有を行なった(○), 一部検証した(△), 検証を計画していない(×)

部局名	自己点検評価	「◎」または「○」の場合、該当するものに☑	左欄の具体的な内容を記載 「△」または「×」の場合、その理由、検証・共有に向けた目標及び達成時期等
先導学類	○	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	シラバスにはルーブリックの記載を必須としており、来年度以降、学年進行により増加する開講科目すべてに対し、同様の対応を求めることとしている。
人文学類	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	シラバスへの成績評価基準の記載依頼とその点検は教務委員会が実施し完了している。FD委員会としてより積極的な関与の余地がある。シラバスの点検と修正依頼を通し、各科目の成績評価基準・方法がカリキュラムポリシーと学修成果に対応するよう改善した。
法学類	○	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	学類会議を中心に、シラバスへの表記方法について周知し、意見交換した。
経済学類	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	FD委員が分担して、全教員のシラバスの記載内容を確認し、個別に改善を求めた。
学校教育学類	○	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	FD・カリキュラム委員会において、カリキュラムマップなどを踏まえ、成績評価基準の記載方法が記載されたシラバス点検マニュアルを令和元年度作成し周知した。
地域創造学類	○	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	昨年度、シラバスへの記載状況を確認し、成績評価基準の改善を求めることを徹底して行った。本年度は、学類教員に成績評価基準の記載の見直しを依頼したうえで、シラバス記載状況を確認した。
国際学類	○	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	本事項も教務・学生生活委員会が主管となって実施している。シラバスへの評価基準の記載の依頼やその委員会によるチェック体制、不十分な場合は是正の勧告について、体制が固まってきたが、未だルーブリック記載については十分浸透していない。記載科目数を着実に増やしていくことが、次年度に向けての課題となる。
数物科学類 数物科学専攻	○	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	各コースの教務委員と協力をしてルーブリックに関するものの理解を深めてもらうようにした。
物質化学類 物質化学専攻	○	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	全ての科目について、出席点を成績評価に含めず、60点以上を合格とする内容であることを確認した。 また、教務委員主導のもと、シラバスへの記載状況の点検を行った。
機械工学類 機械科学専攻	△	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	令和2年度に学類長をトップとするシラバス点検ワーキンググループ(副学類長、コース長、FD委員、教務委員)を構築し、学類の全教科についてシラバス点検を徹底的に行い、成績評価基準関連の記載について確認したため今年度はシラバス変更のあった科目について点検を実施した。
フロンティア 工学類	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	教務委員が中心となって、全てのシラバスの成績評価基準を適正化した。

2-4 照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

部局名	自己点検評価	「◎」または「○」の場合、該当するものに☑	左欄の具体的な内容を記載 「△」または「×」の場合、その理由、検証・共有に向けた目標及び達成時期等
電子情報通信学類 電子情報科学専攻	○	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	昨年度までは複数回記載の状況をチェックし、課題のある点は改善を求めた。本年度は、サンプリング調査を行い、チェックを行った。チェックした範囲では問題は見当たらなかった。
地球社会基盤学類 環境デザイン学専攻	△	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	昨年度、成績評価基準の記載について周知・依頼したが、未入力の科目が相当数ある。今後改めて依頼をするなど改善策を模索していく。
生命理工学類 自然システム学専攻	◎	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	昨年度、教務委員がシラバスの内容を点検したが、今年度もカリキュラム内容を再度チェックし、併せてルーブリック掲載科目を1科目増加した。
医学類	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	シラバスへの成績評価基準の記載状況を医学教育研究センターで確認した。確認した内容を科目責任者に対してメールで周知を行うとともに、第7回医学系FD研修会の「シラバスの作成方法」の中で説明した。その結果、シラバス記載に改善を認めた。
薬学類 (創薬科学類) 創薬科学専攻 薬学専攻	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	成績評価基準についてすべての授業のシラバス記載状況を確認し、評価方法及び評価の割合について不備がある科目は、修正を求めるなど改善を図った。
医薬科学類	△	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	他学類と共通で開講される科目も含めて、シラバスにおける成績評価基準についての記載を確認した。一方、各自の点検によつての記載であったため、照会事項2に記したとおり、今後シラバスの確認・点検体制を整える。
保健学類 保健学専攻	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	成績評価基準はシラバスに記入している。またメール配信にて全教員に周知し、科目担当教員によりセルフチェックを実施している。
人間社会環境 研究科	○	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	令和3年に実施した、すべての科目の成績評価基準についてのシラバス記載状況確認で改善された点が、維持されているかチェックを行った。
医薬保健学総合研究科 (修士課程・医学博士課程)	○	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	令和2年度に実施したシラバス点検の際に、各教員へ依頼した内容が令和3年のシラバスに踏襲されているか、確認を行った。
先進予防医学 研究科	○	☐ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	令和2年度に実施したシラバス点検の際に、各教員へ依頼した内容が踏襲されているか、確認を行った。
新学術創成 研究科	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	学務課教務係作成の「シラバス入稿要領」を研究科の教員に送付並びに各専攻会議の議題(報告事項)として取り上げ、依頼を行った。
法学研究科 (修士課程・専門職学位課程)	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	【法学・政治学専攻】成績評価基準において出席点を基準とすることを廃止し、議論への参加態様やプレゼンテーションの完成度など、院生のパフォーマンスを評価基準とすることをシラバスで明記することを徹底するよう教員に促した。 【法務専攻】以前より成績評価基準が定められている。S、Aについては相対評価を採用している。
教職実践 研究科	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☐ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	ルーブリック作成には至っていないが各科目シラバスに明確な評価基準が記載されている。

2-4 照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

部局名	自己 点検 評価	「◎」または「○」の場合、該当するものに☑	左欄の具体的な内容を記載 「△」または「×」の場合、その理由、検証・共有 に向けた目標及び達成時期等
国際基幹教育院 GS教育部門	○	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	厳格・公正な成績評価記述の策定方針に従った成績評価の基準となるルーブリックは各科目において作成済みではあるが、新型コロナウイルス感染症問題に対応したアクティブ・ラーニング授業の実施等、各科目で模索しつつ進めているところであり、ルーブリックも調整の途上にある。「改善」の段階にあるといえるが「改善した」と断定する根拠を欠くので実施状況は「○」とした。
国際基幹教育院 外国語教育部門	◎	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☒ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	新型コロナ感染症対策を講じたことに伴う授業形態(オンデマンド授業等)の変更に応じ、成績評価基準の適正化を行った。EAPコースではワークショップを開催し、授業担当者間の成績評価の揺らぎを検証し、それを低減する採点方法について検討した。
国際機構	○	☒ シラバスへの成績評価基準の記載を依頼した。 ☒ シラバスへの記載状況を確認した。 ☒ 課題のある成績評価基準について改善を求めた。 ☐ 前年度よりもルーブリックの記載科目が増加した。 ☐ その他	令和2年度同様、遠隔での授業となったため、令和2年度とほぼ同様の成績評価基準を用いたが、その妥当性の議論を行った。

2) 成績評価方法の検証

【令和3年度の自己点検評価】 成績評価基準・方法を改善した(◎), 検証・共有を行なった(○), 一部検証した(△), 検証を計画していない(×)

部局名	自己点検評価	「◎」または「○」の場合、該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」または「×」の場合、その理由、検証・共有に向けた目標及び達成時期等
先導学類	○	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	成績評価分布を調査し、成績分布が偏らないことを確認した。また開講科目数が少ないため、来年度以降、検証を行う予定。
人文学類	○	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	例年、自己点検評価(教育)に合わせて、専門科目の成績分布について学類として調査しているおり、令和3年度分の教務データをFD委員会で調査した。
法学類	○	☐ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☒ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	学類会議を中心に、成績評価に関する問題点を指摘し、改善のために意見交換した。
経済学類	◎	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	成績分布については教務委員会が調査を行い、偏った成績分布が見られた場合は、確認をしている。
学校教育学類	○	☐ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	FD・カリキュラム委員会において、カリキュラムマップなどを踏まえ、成績評価基準の記載方法が記載されたシラバス点検マニュアルを令和元年度に作成し周知した。
地域創造学類	△	☐ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	本年度は、他のこと(FD研修会、授業参観)に注力したため、成績評価方法の検証を行うことはできなかった。成績評価分布を確認するよう、学類教員に求めた。学生からの成績評価に関する問い合わせも以前よりは増えているため、成績評価方法の検証は次年度の大きな課題として残されている。
国際学類	○	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☒ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	本学類は定員70名で少人数開講科目も少なくなく、統計的な成績分布処理の適用が困難な部分が少なくないが、そうした前提から見ても成績分布調査結果は、全体として決して不適切なものではないと思われる。今後もこうした結果が提示されるごとに、FD委員会、教務学生生活委員会、学類会議等で分析考察の場を持ちたい。
数物科学類 数物科学専攻	○	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	ルーブリックを作成した科目についてはその妥当性を検証した。それ以外の科目についてはシラバスの公開により、教員相互の検証が実質的に行われている。
物質化学類 物質化学専攻	○	☐ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☒ その他	主要科目について成績評価エビデンスとして答案のコピーを収集し、試験実施の厳密化を推進している。パイロット科目を選定し、授業カタログの作成・公開を通じて成績評価の基準や分布、問題点を検証した。
機械工学類 機械科学専攻	△	☐ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☒ その他	学類会議において、成績分布を意図的に偏らせないように周知した。
フロンティア 工学類	△	☐ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	今年度カリキュラムが一巡して、いくつかの課題が見られており、カリキュラムの修正を含めて検討が始まっている。そのための参考資料として今後本格的に活用する予定である。

2-4 照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

部局名	自己点検評価	「◎」または「○」の場合、該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」または「×」の場合、その理由、検証・共有に向けた目標及び達成時期等
電子情報通信学類 電子情報科学専攻	△	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	成績評価分布に関しては、その重要性に関して学類会議でとりあげ学類内で共有した。 本年度は、サンプリング調査を行い、チェックを行った。チェックした範囲では問題は見当たらなかった。 成績評価分布の学類内での共有に関しては、次年度以降検討する。
地球社会基盤学類 環境デザイン学専攻	△	☒ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☒ その他	偏った成績分布にならないように周知した。今年度は成績評価方法の検証ができなかったため、次年度以降に検証を行いたい。
生命理工学類 自然システム学専攻	○	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☒ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	教育方法改善委員が成績評価分布を調査した。
医学類	△	☐ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	成績評価方法の検証は、医学IR室を中心に今後検証を行う予定である。
薬学類 (創薬科学類) 創薬科学専攻 薬学専攻	△	☐ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☒ その他	シラバスに目標達成度を評価するための指標が適切に設定されているかを確認し、学修成果の獲得に係る判断基準を示した。
医薬科学類	○	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	本学類での科目は複数教員での担当のため、各教員が成績を共有できる体制となっている。今後、学類会議において成績分布を共有する体制を整え、全教員での検証を行えるような制度を整える。
保健学類 保健学専攻	◎	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	科目担当者により実施している。
人間社会環境 研究科	—	☐ 成績評価分布を調査した。 ☐ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	大学院の場合、大部分の科目の受講生が5名以下であり、分布の偏りについて検証できるだけのデータを得られていないことから現状では、成績評価分布については調査を計画していない。
医薬保健学総合 研究科 (修士課程・ 医学博士課程)	△	☐ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☒ その他	オンライン講義によって実施された一部科目において、複数の担当教員によって協議を行い、アクティブラーニングの視点を含めた評価方法を取り入れた。
先進予防医学 研究科	△	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	一部の授業科目(オムニバス形式)において、複数の科目担当教員によって評価方法を共有した。併せて、成績評価分布を調査・確認し、成績分布の改善に向けた協議を行った。今後は、全科目の成績評価分布を研究科内で共有し、課題がある科目については評価基準・方法の改善を図る。
新学術創成 研究科	◎	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	成績評価分布表を抽出し、研究科長が調査した。
法学研究科 (修士課程・ 専門職学位課程)	◎	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☒ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	【法務専攻】 成績評価分布は研究科内で共有している。成績評価分布が成績評価基準に定めた割合を逸脱するものについては、教務・学生委員会から担当教員に対し、修正を要求している。

2-4 照会事項4 成績評価基準等の作成・検証状況

部局名	自己点検評価	「◎」または「○」の場合、該当するものに☑	左欄の具体的な内容 「△」または「×」の場合、その理由、検証・共有に向けた目標及び達成時期等
教職実践研究科	◎	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	本研究科の授業は全て研究者教員と実務家教員双方が複数人入り展開しているため、成績評価についても複数人で共有、検討している。教員全員で担当する科目においては研究科全体での分析、検討を行っている。
国際基幹教育院 GS教育部門	○	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	新型コロナウイルス感染症問題に対応した授業実施方法の変更・制約により成績評価方法の変更を余儀なくされているケースがある（遠隔授業でのテスト実施が難しいため別の方法にした、等）。昨年度と同様に、同一科目であってもクラスにより実施形態が完全オンデマンド型、一部対面授業型など分岐したケースについて、成績判定基準をどのように揃えるか、前述の項目（成績評価基準等の作成・検証）と重なるが模索段階にある。ただし評価方法について学生からのクレームが多発するといった大きな混乱はない。改善したといえる状況ではないので実施状況は「○」とした。
国際基幹教育院 外国語教育部門	◎	☐ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☒ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☒ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	成績分布のガイドラインから外れている事案については、コースコーディネーターが個別に授業担当者より事情を聞き取り、必要に応じて成績評価の見直しについて協議した。
国際機構	○	☒ 成績評価分布を調査した。 ☒ 成績評価分布を学類内で共有した。 ☐ 偏った成績分布に対して、意見を聴取した。 ☐ 前年度よりも成績分布に改善がみられた。 ☐ その他	成績評価分布についての調査を行い、成績評価の公平公正に努めるよう担当者に周知した。

2-5 照会事項5 FD研修会の実施状況

2-5 照会事項5 FD研修会の実施状況

FD研修会のうち、スーパーグローバル大学創成支援（SGU）事業に関する内容が含まれる場合は、「SGU」欄に○を記載する。

学類等	実施回数	名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
先導学類	13	第3回全学FD研修会 「STEAM教育の意義や価値について考える」	9月28日	STEAM教育の意義や価値について、各種取組事例を学びながら、具体的な授業設計や学修成果に資する。	融合学域長 先導学類長 ほか9名	全学FD委員会共催	
		融合FD研修会「ダイバーシティに関するFD研修会」	12月2日	育児休業取得推進、インクルージョン等、ダイバーシティに対する理解を深める。	融合学域長 先導学類長 ほか21名		
		第1回融合学域先導学類 教員意見交換会	4月9日	インターンシップについて、先導学類教員が幅広く議論し、教育内容・方法の理解・向上を図る。	先導学類長 ほか約10名		
		第2回融合学域先導学類 教員意見交換会	4月15日	アントレプレナー、アントレプレナーシップについて、先導学類教員が幅広く議論し、教育内容・方法の理解・向上を図る。	先導学類長 ほか約8名		
		第3回融合学域先導学類 教員意見交換会	5月8日	「アントレプレナー基礎」への各教員の関わり方等について、先導学類教員が幅広く議論し、教育内容・方法の理解・向上を図る。	先導学類長 ほか約10名		
		第4回融合学域先導学類 教員意見交換会	5月10日	学生の実践の場、学びの支援方法等について、先導学類教員が幅広く議論し、教育内容・方法の理解・向上を図る。	先導学類長 ほか約11名		
		第5回融合学域先導学類 教員意見交換会	6月22日	「アントレプレナー演習Ⅰ」、「アントレプレナーインターンシップ」の実施方法等について、先導学類教員が幅広く議論し、教育内容・方法の理解・向上を図る。	先導学類長 ほか約7名		
		第6回融合学域先導学類 教員意見交換会	9月1日	学生の履修指導、「学びの計画書」等について、先導学類教員が幅広く議論し、教育内容・方法の理解・向上を図る。	約8名		
		第7回融合学域先導学類 教員意見交換会	9月8日	高校生へのアプローチの体制、カリキュラムツリー等について、先導学類教員が幅広く議論し、教育内容・方法の理解・向上を図る。	先導学類長 ほか約7名		
		第8回融合学域先導学類 教員意見交換会	9月28日	広報、アドバイス教員等について、先導学類教員が幅広く議論し、広報、学生指導等の理解・向上を図る。	先導学類長 ほか約10名		
		第9回融合学域先導学類 教員意見交換会	9月30日	ボトムアップの研究グループ等について、先導学類教員が幅広く議論し、研究内容・方法の理解・向上を図る。	先導学類長 ほか約9名		
		第10回融合学域先導学類 教員意見交換会	10月29日	「先導プロジェクト演習」、「海外実践留学」等について、先導学類教員が幅広く議論し、教育内容・方法の理解・向上を図る。	先導学類長 ほか約12名		
		融合学域観光デザイン学 類教学FD	7月28日	文理融合教育、インターンシップ等について、観光デザイン学類関係教員が幅広く議論し、教育内容・方法の理解・向上を図る。	約13名		
人文学類	1	人文学類FD研修会	9月2日	「Teamsその他オンラインツールを活用した授業構築」教学マネジメントセンター・堀井祐介教授（協力：学術メディア創成センター）の講演と質疑	人文学類長、 人文学類FD委 員を含む学類 専任教員32名	人文学類および人間社会学域内での開催。録画し、動画を学類内で公開	
法学類	2	法学類・法務研究科合同 FD研修会	5月18日	ハイブリッド授業における各種機器の活用方法の実演・意見交換	学類長、FD委員 他、25名		○
		法学初学者教育担当者FD 研修会	3月15日	初学者ゼミなどの一年次教育に関する意見交換	初ゼミ担当教 員等10名		
経済学類	2	学域GS言語科目の問題点 の洗い出しと改善	8月5日	令和元年度に導入された学域GS言語科目の指導上の問題点を検討し、改善に向けた話し合いをした。	10名程度		
		ハゲタカジャーナルに関 する研修会	11月11日	国際機構によるハゲタカジャーナルの問題点の共有	経済学類長ほ か20名程度		
学校教育学類	1	教員採用の現在	3月11日	石川県教育委員会とオンラインで結び、教員採用といしかわ師範塾について説明していただいた。また、金沢大学における教員志望学生の意識調査について報告を行った。	学校教育学類 長、教学マ ネジメント センター委員 ほか55名	対面+オンライン (zoom)	
地域創造学類	2	地域創造学研究会	1月27日 3月24日	地域創造に関する研究・実践を行っている教員の報告	学類全教員 22名	学類会議後に 実施、来年度 も継続予定。	○

2 - 5 照会事項 5 FD研修会の実施状況

学類等	実施回数	名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
国際学類	2	第1回FD研修会	9月14日	プログラム制導入に向けた新しいカリキュラム作り（特に「ゼミ（研究指導）」科目について）	学類長、学類長無学生生活委員長、FD委員長、国際学専攻長 ほか15名		○
		第2回FD研修会	3月2日	古畑徹教員の授業の遠隔教材（ビデオ録画）参観を踏まえた、授業参観システムについての討論	学類長、学類長無学生生活委員長、FD委員長、国際学専攻長 ほか15名		○
数物科学類 数物科学専攻	0						
物質化学類 物質化学専攻	1	物質化学類応用化学コースFD研修会	9月14日	講義の進め方とその工夫、問題点について講演等	20名		○
機械工学類 機械科学専攻	1	New Education Normal時代の教育展開～数学をシンキングツールとして活用するクリティカルシンキングのカリキュラム開発～	3月17日	本講演会では、新たな時代の課題解決法について教育の立場から実践し、関西大学において「数学を活用した、課題解決を行うアクティブ・ラーニング型の授業」を試行されている専門家を招待し、講演して頂いた。社会問題を含む様々な問題を解決する手法としての数学活用とその標準の理解について取り上げていただいた。	約80名	金沢大学データサイエンス教育推進WGと共催で、理工3学類（機械工学類、フロンティア工学類、電子情報通信学類）のFD講演会として実施した	○
フロンティア工学類	1	理工3学類FD研修会／文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開」「数理・データサイエンス教育の全学必修化と北陸地区の大学連携による地域への普及」事業 New Education Normal時代の教育展開～数学をシンキングツールとして活用するクリティカルシンキングのカリキュラム開発～	3月17日	「教育DX」、「ポストコロナ」、そして感染症や地球温暖化等の「現代社会の諸問題」を題材に、これからの未来社会の教育シナリオや、数理モデルを活用する授業例を紹介した	フロンティア工学類教員約10名を含む約80名	理工3学類の共催	
電子情報通信学類 電子情報科学専攻	2	令和3年度電子情報第1回オンラインFD研修会 ハイフレックス講義テクニックの共有	7月13日	本研修会では、昨年度に引き続き、ハルイフレックス・オンラインの講義テクニックを学類内で共有することを目的としたオンラインの研修会である。 学類内で蓄積したノウハウを収集し、それらを共有した。	学類長、教務委員、FD委員 ほか12名	理工3学類（機械工学類、フロンティア工学類、電子情報通信学類）のFD講演会として共有した	
		理工3学類FD研修会／文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開」「数理・データサイエンス教育の全学必修化と北陸地区の大学連携による地域への普及」事業 New Education Normal時代の教育展開～数学をシンキングツールとして活用するクリティカルシンキングのカリキュラム開発～	3月17日	本講演会では、新たな時代の課題解決法について教育の立場から実践し、関西大学において「数学を活用した、課題解決を行うアクティブ・ラーニング型の授業」を試行されている専門家を招待し、講演していただいた。社会問題を含む様々な問題を解決する手法としての数学活用とその標準の理解について取り上げていただいた。	学類長、教務委員、FD委員 約80名	金沢大学データサイエンス教育推進WGと共催で、理工3学類（機械工学類、フロンティア工学類、電子情報通信学類）のFD講演会として実施した	
地球社会基盤学類 環境デザイン学専攻	1	地球社会基盤学類 土木防災コース・環境都市コース 令和3年度FDシンポジウム	3月15日	本シンポジウムでは、(1)卒業生（OB、OG）による外部評価アンケート（集計途中経過）、(2)新カリキュラム、学生の履修に関わる変更点と留意点、(3)次回JABEE受審に向けての準備活動に関する報告に基づいて、学類内の情報共有・議論を行った。	学類長、教務委員、FD委員 ほか31名		
生命理工学類 自然システム学専攻	0	学類での独自のFDは今年度は実施していないが、学類会議で教育改善に関する議論も行い、今後は委員会開催なども検討している。					

2-5 照会事項5 FD研修会の実施状況

学類等	実施回数	名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
医学類	10	第1回医学系FD研修会	4月5日	LMSコース（WebClass）の使い方	FD委員ほか31名	医薬保健学総合研究	○
		第2回医学系FD研修会	5月10日	講義・臨床実習オンライン化の実践例	FD委員ほか27名	医薬保健学総合研究	○
		第3回医学系FD研修会	6月7日	アクティブ・ラーニング入門	FD委員ほか27名	医薬保健学総合研究	○
		第4回医学系FD研修会	7月5日	反転授業の実践	FD委員ほか27名	医薬保健学総合研究	○
		第5回医学系FD研修会	9月13日	ハイフレックス型授業	FD委員ほか34名	医薬保健学総合研究	○
		第6回医学系FD研修会	10月11日	医学類のカリキュラム	FD委員ほか22名	医薬保健学総合研究	○
		第7回医学系FD研修会	11月8日	シラバスの作成方法	FD委員ほか20名	医薬保健学総合研究	○
		第8回医学系FD研修会	12月13日	学生の評価	FD委員ほか23名	医薬保健学総合研究	○
		第9回医学系FD研修会	2月14日	人類学からみた医学教育	FD委員ほか29名	医薬保健学総合研究	○
		第10回医学系FD研修会	3月14日	アンプロフェッショナルな学生への対応	FD委員ほか34名	医薬保健学総合研究	○
薬学類（創薬科学類） 創薬科学専攻 薬学専攻	2	令和3年度薬学系新任教員 教務関連研修会	5月27日	教務全般の説明（カリキュラム、履修、成績判定、アカンサスポータルの運用、授業アンケート、アドバイザー制度）	薬学学類長、FD委員長、他5名	国際基幹教育院の協力を得た。	○
		令和3年度 薬学系（学類・大学院研究教育）FD研修会	12月12日	研修テーマ「ポストコロナ・ウィズコロナの学生のメンタルケア」について、保健管理センター 教授 足立由美先生より講演と、それに基づく意見交換	薬学教員49名	全教員に参加義務を課している	○
医薬科学類	0	（学類での独自のFDは今年度は実施していないが、各教員は兼任の学類があるため、その学類でのFD活動に各々参加している。今後、各系で実施されるFDに共同で参加するなどの形で、FD活動を充実させる予定である。）					
保健学類 保健学専攻	2	保健学系 令和3年度第1回FD研修会	11月10日	足立由美教授（保健管理センター）による、自死の予防を含めた学生のメンタルサポートケアに関する講演	学類長、FD委員長ほか71名	オンライン開催で実施	
		保健学系 令和3年度第2回FD研修会	3月2日	吉川一義教授（ハラスメント防止担当学長補佐）による、ハラスメント防止に関する講演	学類長、FD委員長ほか60名	オンライン開催で実施	
人間社会環境研究科	2	令和3年度第1回人間社会環境研究科FD研修会	9月17日	次世代精鋭人材創発プロジェクトについて	新田研究科長、小林委員ほか34名		○
		令和3年度第2回人間社会環境研究科FD研修会	3月9日	コロナ禍における本学留学生の経験と困難について	新田研究科長、小林委員ほか44名	法学研究科と合同開催	○
医薬保健学総合研究科 （修士課程・医学博士課程）	14	医学系FD研修会	原則、毎月1回第2月曜日	アクティブラーニング（特に授業のオンライン化に伴う手法）、カリキュラムとポリシー、シラバス、学生支援（メンタルヘルス、留学生対応）等	20名～50名	医学類	○
		石川県がん診療連携拠点病院研修会	7月1日、8月29日、10月27日、3月17日（計4）	北信がんプロが関与して開催されている、主に研究に関する研修会で、臨床に関わる教員が受講した。	70名～100名		
先進予防医学研究科	1	先進予防医学共同専攻（共同大学院）3大学合同FD講演会	3月3日	令和3年度は長崎大学が世話役となり、医療情報データベースを用いた臨床疫学研究と授業への対応について、長崎大学教授による講演が行われた。（Webによる講演会）	11名（本学）	参加者：研究科長、FD委員会委員ほか	

2-5 照会事項5 FD研修会の実施状況

学類等	実施回数	名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
新学術創成研究科	2	融合科学共同専攻FD研修会	3月10日	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、対面で実施していた各種イベントがオンライン化したことで教員同士の交流が希薄化していること、また、近年新たに専任教員が増えたことから、相互の研究内容について理解を深めるとともに、異分野融合を促進させる指導方法について検討する	融合科学共同専攻長ほか23名		
		ナノ生命科学専攻FD研修会	3月3日	国際機構 南コニー准教授を講師に、外国人研究者・外国人留学生を受け入れるに際しての心構えを講師自身の経験を基に講義する	ナノ生命科学専攻長ほか17名		○
法学研究科 (修士課程・専門職学位課程)	7	【法学・政治学専攻】第1回FD研修会	5月18日	「ハイブリッド型授業における新しい機材の活用方法について」と題して授業方法改善のための実践報告と意見交換を実施	35名	法学類と法学研究科の合同開催	○
		【法学・政治学専攻】第2回FD研修会	3月9日	「コロナ禍における本学留学生の経験と困難～アンケート調査の結果から～」と題して留学生担当教員2名から留学生の指導について実践報告と意見交換を実施	45名	法学研究科法学・政治学専攻と人間社会環境研究科の共同開催	○
		【法務専攻】第1回意見交換会	7月31日	自習支援・チューターの内容について、授業参観について、答案の書き方指導について	教員11名(専攻長含む)、弁護士6名		
		【法務専攻】第1回FD研修会	9月7日	ハイフレックス授業方法について、共通到達度確認試験への対応、答案の返却方法について、学生の学力向上に関する施策について	教員12名		
		【法務専攻】第2回意見交換会	1月25日	授業参観について、自習支援・未修者チューター・自主ゼミについて	教員11名(専攻長含む)、弁護士9名		
		【法務専攻】第2回FD研修会	3月15日	共通到達度確認試験の結果の分析について、原級留置率について、学生の予習復習状況について	教員13名(専攻長含む)		
教職実践研究科	3	第1回FD研修会	9月24日	今年度の計画	教職実践研究科長、研究科員9名		
		第2回FD研修会	12月23日	第1回公開授業の省察	教職実践研究科長、研究科員9名		
		第3FD研修会	1月20日	第2回公開授業の省察及びM1の中間報告、M2の実践報告の振り返り	教職実践研究科長、研究科員9名		
国際基幹教育院 GS教育部門	2	GS教育系・第1回オンライン授業FD (スキルアップセンターとの共催実施)	9月29日	障がいをもつ学生が授業に参加している場合、どのような配慮が必要かについて障がい学生支援室の委員である濱田教員が講演した。	30名	GS教育系、外国語教育系から参加	
		GS教育系・第2回オンライン授業FD (スキルアップセンターとの共催実施)	3月2日	「アクティブ・ラーニングからカリキュラム改革へ—STEAM教育とモジュール化の観点から」と題して、授業やカリキュラム改善の視点として注目されているSTEAMやモジュール化授業の考え方について吉永教授が講演した。	25名	GS教育系、外国語教育系から参加	○
		TOEIC教科書作成検討会 (1) Towards a Customized TOEIC Textbook: Publisher Discussion Series	7月13日	TOEICカスタムテキストを依頼した研究機関と教科書出版社との連携について	9名 (ABAX Publishing, Alastair Graham-Marr (C. E. O.))		○
		スキルアップセンターFD研修会	7月13日	Jacob Runner助教によるアカデミック教育実践における日本、アメリカ、イギリスの相違に関する報告	15名		
		第1回FD研修会「EAPワークショップ1」	7月19日	EAP担当教員によるコロナ時代における効果的な教授法、アクティブラーニングのあり方に関する実践報告とディスカッション	14名		
		TOEIC教科書作成検討会 (2) Towards a Customized TOEIC Textbook: Publisher Discussion Series	7月19日	TOEICカスタムテキストを依頼した研究機関と教科書出版社との連携について	8名 (CENGAGE Japan, Tsuyoshi Yoshida, Director of Editorial Department)		

2 - 5 照会事項 5 FD研修会の実施状況

学類等	実施回数	名 称	開催日	概要	参加人数 (概数)	備考	SGU
国際基幹教育 院 外国語教育部 門	10	第2回FD研修会「日本女子大学における初習外国語教育の現状と課題」	8月3日	日本女子大学文学部史学科杉村安幾子教授によるオンライン授業を踏まえた日本女子大学における初習外国語教育の実践報告	10名		
		TOEIC教科書作成検討会 (3) Towards a Customized TOEIC Textbook: Publisher Discussion Series	8月25日	TOEICカスタムテキストを依頼した研究機関と教科書出版社との連携について	8名 (Kinseido, Michi Tsuhara, Head Editor CENGAGE Japan)		
		TOEIC指導検討会 “TOEIC指導とAbilities Measuredの基本ー学習者の個性を読み解く手がかりー”	10月28日	TOEIC担当教員西嶋愉一准教授によるTOEIC指導とAbilities Measuredの基本に関する報告	6名		
		FD/SD講演会 “The abilities of machine translation and resulting implications for English for Academic Purposes”	11月11日	Prof. Klaus Mundt (University of Nottingham) ・ Prof. Mike Groves (University of Surrey) による機械翻訳の現状に関する講演	18名		○
		第3回FD研修会「ドイツ国際文化交流機関ゲーテ・インスティテュートのドイツ語教授法オンラインコース「Learning to Teach German」(DLLスタンダード)を受講して」	2月16日	クラチャンスカ・ヤナ助教によるゲーテ・インスティテュートが提供するドイツ語教授法のオンラインコース受講報告	10名		
		第4回FD研修会「EAPワークショップII」	2月17日	EAP担当教員による成績評価に関する報告とディスカッション	12名		
学術メディア 創成センター	1	センター内部セミナー (データサイエンス基礎の説明会)	3月17日	令和4年度のデータサイエンス基礎の授業内容および実施方法の説明会	センター長、ほか全教員7名		
国際機構	1	FD研修会「国際情勢と大学の危機管理ー大学教員としての覚悟ー」講師：金沢大学名誉教授 楠根重和	2月17日	アフガニスタンでの動乱を例に取り、そのような場合に教員はどのように他の教員や学生、卒業者の安全に寄与すべきかについての講演を聞き、その後参加者で討論した。	教務委員長、教務委員、国際部職員など14名		○

2-6 照会事項6 その他・コース・専攻単位での教育改善活動

2-5以外にその他、コース・専攻単位での教育改善活動

部局名	該当するものに☑	左欄の具体的な内容
法学類	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☐ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	各部門ごとに、次年度のカリキュラム編成に向けて、教育効果について意見交換を行っている。
経済学類	☐ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☒ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	経済学類FD委員会は、教務委員会と合同で、オンライン授業に伴う学生側の問題点を知るために、学生と教員との懇談会をオンラインで実施した。
学校教育学類	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☒ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☒ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	学校教育学類でのFD研修会及び学類でのFD報告会に向けた、学類独自の取り組みを検証するため、石川県教育委員会との協力体制を構築し、学校教育学類教員や学校教育系、教職大学院教員が定期的に集まり、意見交換を行う場を当FD・カリキュラム委員会が提供した。特に令和3年度は授業の中から「教師論」を取り上げ、教員や学生相互の意識調査を行った。また、FD研修会では複数の教学マネジメントセンター委員の先生方から、意見や感想等をフィードバックしていただいた。
地域創造学類	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☐ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	福祉マネジメントコースにおいて、定期的に教育についての意見交換を行っている。とりわけ、本年度は、コース教員がオムニバス形式で実施している授業について、成績評価方法の妥当性と、より適切なレポート課題について検討した。
国際学類	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☒ 学生からの意見聴取 ☒ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	各コースのコース会議において教育手法改善の教員間での情報共有や啓発的議論は随時実施している。またコロナにより対面形式のそれが阻害されてしまった面もあるが、各コース独自の学生懇談会も状況に応じつつ実施され、学生の声を拾い集めるように努めている。こうした点において本学類は、他学類に比べても情報共有の風通しの良い学類であると考えている。授業評価についてはアンケートの経年分析の実施が、先般の学類会議でも取り上げられ、今後こうした情報蓄積を如何に学類教育改善に活用していくかの検討が期待される。
数物科学類 数物科学専攻	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☒ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☒ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	定期的に行っている教員会議において、アクティブ・ラーニング・アドバイザー(ALA)等の制度を周知して積極的な活用を促した。
物質化学類 物質化学専攻	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☒ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	物質化学類および専攻では独自に以下のFD活動を行っている。 1. 卒業研究の自己評価を学生および教員の立場から年1回実施し、卒業研究の充実に配慮している。 2. 定例開催の教員会議やFD研修会において、講義の進め方に関する定期的な意見交換を行っている。
電子情報通信学類 電子情報科学専攻	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☒ 学生からの意見聴取 ☒ 授業評価の経年変化分析 ☒ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	LMS上にサイトを立ち上げ、FDに関わる情報を共有し意見交換できる場として構築した。 また、授業評価アンケートなどの改訂を通して、学生の意見が授業等に反映できるように工夫をした。また、授業評価アンケートに対しては、各教員が各自の目標を設定し、その結果を翌年評価するシステムをLMS上に構築し、初年度の運用を行った。 シラバスの点検など、現状の把握に努めた。
地球社会基盤学類 環境デザイン学専攻	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☒ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☒ 自己点検の実施 ☒ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☒ その他	各コースでのコース会議において教育手法改善のための情報共有や改善方法について随時協議している。卒業生に対するアンケート結果をもとに、優秀教育教員賞3名を顕彰した。オンデマンド・遠隔授業増加を受けてZOOMやWebexなどのライブ配信ツールや遠隔授業に要する設備などについて学類教員を対象としたアンケートを実施し、関連部局と情報共有を諮った。データサイエンスに関する授業の抽出および確認を行った。

2-6 照会事項6 その他・コース・専攻単位での教育改善活動

部局名	該当するものに☑	左欄の具体的な内容
生命理工学類 自然システム学 専攻	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☐ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	今年度途中から、学類会議において、教育方法の改善について話し合う時間を設けた。成績評価法やオンライン授業の問題点等について話し合った。
医学類	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☒ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☒ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	教育委員会及びその下のカリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会において教員間での医学教育に関する定期的な意見交換が行われている。学生からの意見聴取としては、医学類1-6年次に対するフォーカス・グループ・インタビューを教学マネジメントセンターの指導の下で実施した。令和4年1月にはJACMEIによる医学教育分野別認証を受審し、自己点検を実施した。
薬学類 (創薬科学類) 創薬科学専攻 薬学専攻	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☒ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	薬学系の基幹委員会である教育委員会をはじめとする教育・教務系各委員会において、適宜意見交換を行った。なお、コロナ禍にあって、例年教員を派遣している学外の各種研修会等のほとんどは非開催となったため、翌年度以降に再び派遣を行うこととした。また、学年代表と教員の懇談会を開催し、コロナ禍における授業・研究の実施方法や研究室配属の方法に関する意見交換を行った。
医薬科学類	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☒ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	学類会議や教務・学生生活委員会において、成績不良者などについて話し合いの機会を設けている。また、コース選択という決断があるため、その際に学生から意見を聴取する機会を設けている。
保健学類 保健学専攻	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☐ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☒ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	昨年度と同様に今年度も、医学系FD研修会(毎月第1月曜日)の情報を保健学系内の全教員に配信し、研修会参加を促進した。また同様に、保健学類FD研修会の情報を医学系教員にも配信した。また教育業績の評価として本学類では、学生アンケートをもとに優秀教育教員を選出し、さらに研究実績・大型外部資金獲得等をもとに優秀研究教員を選出し表彰した。
医薬保健学総合研究科 (修士課程・医学博士課程)	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☒ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	令和2年4月に設置された修士課程「遺伝カウンセリングコース」について、設置されて間もないため、教員・学生からの意見交換を密に行なった。
先進予防医学研究科	☐ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☐ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☒ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	千葉大学・金沢大学・長崎大学先進予防医学共同専攻として、3大学の教職員からなる自己点検・評価報告書編集委員会を組織し、共同専攻の教育水準の維持向上を図り、今後の教育活動等の改善に活用するための自己点検・評価を実施し、自己点検・評価報告書を取りまとめた。加えて、自己点検・評価報告書に基づく外部評価委員会を開催し、その結果等をまとめた外部評価報告書を作成した。
新学術創成研究科	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☐ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	各専攻において、学位論文審査基準の検討・精査を行った。
法学研究科 (修士課程・専門職学位課程)	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☒ 学生からの意見聴取 ☒ 授業評価の経年変化分析 ☒ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	【法務専攻】 筑波大学法科大学院との合同FD(令和3年7月20日、オンライン) オンライン授業、模擬裁判について 一橋大学法科大学院との合同FD(令和4年2月18日、オンライン) 未修者教育について 千葉大学法科大学院との合同FD(令和4年3月8日開催予定、オンライン)
教職実践研究科	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☒ 学生からの意見聴取 ☒ 授業評価の経年変化分析 ☒ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	大学院学生への個別指導は非常に手厚く、授業に関しての意見聴取も常に各教員が行っている。それらをもとに、隔週開催の「教務・FD委員会」の中で、授業及び学生についての意見交流を行う時間を組み込んでいる。また、今年度は実務家教員の交替が5人中3人と多かったため、毎週実務家会議を開催し、実務家教員が情報を共有し、見通しを持った教育活動を行った。

2-6 照会事項6 その他・コース・専攻単位での教育改善活動

部局名	該当するものに☑	左欄の具体的な内容
国際基幹教育院 GS教育部門	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☐ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☒ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	GS教育系は医薬保健、理工、社会科学や芸術まで全学術領域にまたがる内容であり、学類と比較すると科目の個性・特殊性がより強いと言える。多くの科目では関連する学類の教員が協力教員として授業参加している。このような事情を鑑み、GS教育系では科目個別・独自のFDを実施するよう推奨してきた。その結果、32科目中、調査回答のあった16科目で計47回、平均3回の科目内FDが実施された。自発的FDとして、十分に評価できる結果であると考えている。
国際基幹教育院 外国語教育部門	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☒ 学生からの意見聴取 ☒ 授業評価の経年変化分析 ☒ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	EAP教育企画部・国際試験教育企画部・初習言語教育企画部において定期的な意見交換をした。 令和3年度において以下のような他学類の教員との検討会もした。 2021年10月27日 外国語系フランス語教員佐藤朋子准教授と人文学域人文学類の教員との検討会 内容:来年度以降のフランス語教育(共通教育・専門教育)のあり方 2022年3月6日 外国語系中国語教員趙菁准教授と人文学域人文学類教員との意見交換会 内容:2022年度海外語学研修のあり方
学術メディア 創成センター	☐ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☐ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☐ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☒ その他	事前に授業で配布する資料や使用する資料内容について、全員で確認して必要に応じて修正した。
国際機構	☒ 教員間で教育についての定期的な意見交換 ☐ 学生からの意見聴取 ☐ 授業評価の経年変化分析 ☒ 自己点検の実施 ☐ 教育賞等教育業績の積極的な評価 ☐ その他	学期の開始前および終了後に最低1回(計4回)、講師ミーティングを開催している。総合日本語プログラムの担当者(教務委員長を含む)が全員参加し、授業開始前にはその学期の授業をする際の注意点などを話し合う。授業終了後には問題点や反省点を話し合い、次学期に備えている。また令和3年度は国際機構の自己点検を実施し、報告書を公開した。

2-7 照会事項7 自己評価及び総評

令和3年度FD活動の自己評価及び総評

評価	4: 大いに評価できる,	3: 概ね評価できる,	2: あまり評価できない,	1: ほとんど評価できない
----	--------------	-------------	---------------	---------------

部局名	自己評価	総評
先導学類	3	教務・学生生活委員長のもと、シラバス点検及び改善指導を行い、融合学域全科目のルーブリック記載を必須とし、シラバス内容の充実・評価基準の明確化に取り組んだ。また、Web形式で意見交換会を開催し、融合学域の授業科目や教育方針等について教職員間で情報共有や意見交換を行った。令和3年度は設置初年度であり、今後の学年進行とともに授業内容をふり返り、改善を続けていく必要がある。授業評価アンケート結果の活用、FD研修会など、情報共有・問題検討の機会のさらなる充実を図ることとする。
人文学類	3	授業評価アンケート、卒業者アンケート、教員相互の授業参観・授業評価、成績評価基準等の作成・検証、FD研修会については、コロナ禍の影響があったために当初計画をやや縮小した部分もあるが、ほぼ着実に実施している。特に授業参観については、対面型と、遠隔型（双方向とオンデマンド）との両方で実施し、FD研修会では遠隔授業の方法について一層の習熟スキルアップができた。シラバスの点検については教務委員会の業務の一環として実施されているが、FD委員会との協働が必ずしもまだ十分とは言えない。成績評価に関しては評価基準をシラバスに明記するよう全教員に促しており、またその点検も教務委員会主導で行っているが、やはりFD委員会との協働体制がまだ十分とは言えないところがある。成績評価分布については調査結果を踏まえて学類教員で情報を共有する予定である。また、令和3年度授業評価アンケート結果も令和2年度分に引き続き学類HP上で公開した。
法学類	4	ハイブリッド授業における各種デバイスの活用方法について、先端的に取り組んでいる教員の実践報告をもとにFD研修会を行った他、初学者ゼミの担当者を中心に、コロナ禍での学生の学修環境や授業に臨む姿勢について意見交換し、自発的な予習・復習を推進する方法について検討した。英語での授業の効果的実施方法についても、ほぼ毎回の学類会議で意見交換した。
経済学類	4	2回のFD研修会のほかに、以下のFD活動を実施した。 ・経済学類ゼミナール大会 企画・運営 ・教員と学生懇談会 企画・運営 コロナ禍のなかで適切な授業運営ができるような体制を整え、さまざまな遠隔授業の方法について情報交換ができるようになった。また、教員と学生との懇談会を設けたことにより、学生側の問題点が明らかになり、教員側からの適切な指導が可能になった。以上、オンライン授業に伴う問題点を浮き彫りにし、その技術の習得と改善に積極的に取り組み「4: 大いに評価できる」と自己評価した。
学校教育学類	4	令和3年度も、年間を通しコロナウイルス感染拡大の影響を受け、当初の計画から若干の変更せざるを得ない状況となった。特にFD研修会は当初の計画3回を下回る1回の実施となったが、県教委協力の元、学類特有の

2-7 照会事項7 自己評価及び総評

部局名	自己評価	総評
		問題に焦点を絞ることができた。また、令和2年度はFD研究授業等の開催を見送ったが、令和2年度はコロナ禍でも、2回の公開授業を遂行し、実行できる範囲内で可能なことは全てできたことから、「4:大いに評価できる」と自己評価した。
地域創造学類	3	これまで学類においては十分行われていなかった授業参観について、システムを構築し、全教員参加のもと進めることとした、システムに改善の余地はあるが、授業参観による授業改善の道を切り開くことができた。また、学類必修科目「地域創造学」のテキストを作成するために研究会を開催し、各教員の研究・教育実践の紹介を進めている。シラバスの記載のチェックは昨年度及び今年度と行い、ほぼ必要項目は記載が徹底している。成績評価方法の検証が十分に行われていないため、次年度の課題となる。
国際学類	3	昨年多くの課題が析出されながら、本年度もコロナ対応を最優先に学類運営を行わなければならなかったことから、析出された課題に対して必要な取り組みはなされたものの、十分ではなかったと反省される。このため自己評価を「概ね評価できる」ととどめざるを得なかった。ここまですでに指摘してきたように、本年においても昨年析出された課題についてFD研修会等の実施を通じ、より深い考察が加えられたことは評価されるべき点であると考え。こうした成果を踏まえ、来年度に向けて学類改革のより広い視野を踏まえつつ、学類の教育内容のさらなる有機化を検討していきたい。
数物科学類 数物科学専攻	3	前年に比べ対面授業の率が増えたとはいえ、オンライン授業を行わざるを得ない状況が続く中、FDを通して、遠隔と対面に共用で共用できる教材開発がおこなわれ、講義の質の改善が見られた。ALAは申請がなかったが制度の活用を進めていきたい。
物質化学類 物質化学専攻	3	物質化学類ではFD研修会において、教員による自身の授業への取り組みの紹介を継続的に行っている。講義形態の変更についても各種意見交換の機会を積極的に作ることで、状況に応じた教育方法改善に向けて十分な努力を行うことができた。あわせて、月例会議における授業評価法や改善策に関する話し合いを継続することで、FD活動への意識の共有化や改善に取り組んできた。
機械工学類 機械科学専攻	3	昨年度に引き続きオンライン講義を実施することになったが、これまでに実施してきたオンライン講義対策が機能しており、組織的に各教員の教育能力や教育技術が向上できていると考えられる。また、これからの新しい教育展開を3学類FD研修会を通じて考える機会を提供でき、従来の延長上にはない教育方法の改善が期待できる。
フロンティア 工学類	4	今年度、フロンティア工学類の第一期生が卒業し、学類のカリキュラムが一巡した。準備期間が非常に短く、内容を十分に詰められないままの新学類のスタートであった上に、コロナ禍に見舞われたにも関わらず、現場の教員の奮闘により、なんとか卒業を送り出すことができた。これまでに明らかとなった問題点を踏まえて、カリキュラムの修正への検討も開始しており、新専攻の立ち上げと合わせて、よりよい学類を目指したFD活動が継続的に行われている。
電子情報通信学類 電子情報科学専攻	3	授業評価アンケート及び卒業・修了者に対するアンケートなどFDに関わる情報を共有し、意見交換できるよう、LMS上にサイトを立ち上げた。フレックス授業やAL授業に向けた研修会を2回行った。また、授業評価アンケートの結果を基に、各教員が各自の目標を設定し、その結果を翌年

2-7 照会事項7 自己評価及び総評

部局名	自己評価	総評
		評価するシステムを LMS 上に構築し、初年度の実施を行い、目標としたものは達成できた。
地球社会基盤学類 環境デザイン学 専攻	3	コロナ禍におけるオンライン授業（含むハイフレックス型）におけるライブ配信ツールの利用難点や必要な遠隔配信関連設備に関するアンケートを実施し、関連部局と情報共有を諮り、その一部はサポートページにおける FAQ の充実にも寄与したことは評価できる。学類 FD シンポジウムにおいては学類・専攻のカリキュラム全体および各段階における学習到達目標について構成員との意識共有が図れた。総じて、概ね評価できる FD 活動であった。
生命理工学類 自然システム学 専攻	3	授業評価アンケートの回答率の向上に努めた結果、かなり改善した。毎月開催の学類会議において、教育方法の改善について話し合う時間を設け、様々な問題点について話し合った。
医学類	4	・新型コロナウイルス感染症の拡大下においても、昨年度の経験をもとに、医学系 FD 研修会を定期的に実施することができた。 ・医学系 FD 研修会のオンデマンド配信を開始することで、より多くの教員が FD の内容をいつでも閲覧できる仕組みを構築した。 ・チュートリアル教育のチューター研修会を毎年開催することにより、教員のチュートリアル教育に対する理解が深まった。 ・OSCE ステーション責任者会議は、責任者に対する説明・打合せを行った後、各責任者がそれぞれのステーションの担当教員へ説明を行う方式を取っており、多人数の担当教員への説明が効果的に行われた。 ・カリキュラム評価委員会を3回開催し、科目別評価及び教員への評価のフィードバック、また評価に対する意見聴取等を行った。今年度よりカリキュラム評価委員会に学生が参画している。 ・昨年度に引き続き、1-6 年次に対してフォーカス・グループ・インタビューを実施し、その回答をまとめ、カリキュラム等の改善に結びつけていく。 ・JACME による医学教育分野別認証を受審し、今後の医学類教育の改善のための体制が構築されてきた。
薬学類 (創薬科学類) 創薬科学専攻 薬学専攻	3	金沢大学の方針に従った FD 活動を今年度も実施した。薬学系では毎年、全教員を対象とする薬学系 FD 研修会を開催するとともに、新任教員を対象とした研修会を独自に開催することで、教育研究の質の向上と教務内容全般の確認作業を行っている。本年度も 12 月に FD 研修会を開催し、公務欠席者を除けば、100%の出席率であった。本年度の FD 研修会においては、「ポストコロナ・ウィズコロナの学生のメンタルケア」をテーマに、講演と教員間での意見交換を行った。
医薬科学類	3	シラバスの作成や授業評価アンケートの分析など、概ね FD の主幹部については実施できていたが、シラバスの点検・確認・周知体制や、FD 活動といった組織的な取り組みについては、初年度ということもあり準備不足であり、今後の課題であると考ええる。
保健学類 保健学専攻	4	今年度の保健学類 FD 研修会では、「自死の予防を含めた学生のメンタルサポートケア」と「ハラスメント防止」に関わる研修会を実施し、全教職員にそれらの対応等を周知した。また講義等の取り組みの改善においては、昨年と同様に、アクティブ・ラーニングを含めたオンラインによる高大接続プログラム・講義を継続し、5 専攻横断型の講義として充実度がより深まったものと考ええる。

2-7 照会事項7 自己評価及び総評

部局名	自己評価	総評
		授業評価アンケートにおいては、COVID-19 感染症の影響で回答率は低かった。そのため担任、副担任、指導教員からのアンケート依頼を実施し、学士課程においては回答期間を1週間延長した。今後の授業評価アンケートにおいては、対面とオンラインの併用を見据えて対応を検討し、さらに学生の理解度の把握に努め、アンケート結果をもとに講義等への活用に努めたい。また来年度も医学系FD研修会参加の促進と、本学類の優秀教員の選出・表彰は継続する。
人間社会環境研究科	3	昨年度に教員に対して実施した遠隔授業と研究指導についてのアンケート、修了者アンケート、授業評価アンケートに基づき明確になった問題点に対応した施策・FD研修会を行うことができた。
医薬保健学総合研究科 (修士課程・医学博士課程)	3	国際基幹教育院との共催により、アクティブ・ラーニングを主としたFD講習会を定期的に実施することができた(医学類との合同開催) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、研修会は遠隔会議システムを用いた開催とした。 授業評価アンケートについては、Webによる効率的なアンケートを主体実施とすることを目指す。
先進予防医学研究科	3	引き続き、3大学共用のVOD教材の英語化を進め、すべての英語化を達成することができた。また、先進予防医学研究科3大学合同FD講演会において、医療情報データベースを用いた臨床疫学研究と授業への対応について教員間で情報を共有し、教育方法の改善へつなげることができた。また、3大学共同専攻の教育活動等の改善を図るための自己点検・評価ならびに外部評価を実施した。
新学術創成研究科	3	教育内容及び実施方法について、教員間で積極的に議論・検討を行う機会を設けることができた。
法学研究科 (修士課程・専門職学位課程)	4	関係科目担当教員によるシラバスチェック、授業参観やそれに基づく意見交換会、FD研修会、他大学との合同FDなどを通じ、組織的・継続的に、可能な限りの取組がなされ、毎年改善されている。
教職実践研究科	4	年度当初より、テーマに沿ったFD計画を立て、それに沿ったFD活動を実施してきた。教員・大学院学生への公開授業も実施するとともに、活発な意見交換も展開した。将来構想委員会を立ち上げ、探究学習や共生教育を多面的・多角的に展開することができ、さらに特別支援教育の専修免許取得が可能なカリキュラム開発に取り組んだ。
国際基幹教育院 GS教育部門	3	昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症問題によって授業実施方法が読めない不安的な状況であった。そのような中、オンライン形式のFD研修会を年度内に2回実施し、さらに各科目で自主的なFDを平均3回実施しており、オンラインでありながら効果的なアクティブ・ラーニングを実現する、あるいは英語授業の効果を向上させるなど、授業改善にむけた効果的なFDが実施できていたと考えている。照会事項6に記載した通り、GS教育系は各科目の独自性が強いが、全科目で共有できるテーマを見出し、これからも実施していきたい。その期待も含めて自己評価は最上位の「4」ではなく「3」とした。
国際基幹教育院 外国語教育部門	4	令和3年度は外国語教育部門のすべての教育企画部(EAP教育企画部・国際試験教育企画部・初習言語教育企画部)において、充実したFD活動を行った。対面イベントとオンラインイベントを通して、部門内の研究会を予定通りに開催し、また学内の他部局・学類、学外・海外の教員・企業や研究の交流・連携・事例共有も行った。

2-7 照会事項7 自己評価及び総評

部局名	自己評価	総評
		部門共通のテーマとして、本学における言語科目の授業改善や授業内容・方法の質的充実を図ることであった。言語ツールの進化に対応できる言語教育の在り方、標準テストの変化に対応できる標準教材の開発、対面とオンラインによるハイブリッド授業の問題点及び改善点、オンライン海外教育プログラム研修の内容を取り上げ、研究会及び日本国内外の研究者による講演会、企業との検討会を複数開催し、コロナ時代における言語教育のありようについて検討を重ねた。 その中で特筆すべきことは、まず EAP 教育企画部が前年度同様、金沢大学の英語教育と専門教育をつなぐ取り組みに力を入れ、SGU 英語教育に大いに貢献した。そして、国際試験教育企画部が TOEIC 標準テストの形式変化に適応できる標準教材の開発にむけて出版社と研究機関の連携のありようを複数の出版社と検討を重ねた。初習言語教育企画部では他大学の遠隔授業実践例とオンライン海外教育プログラム研修の内容を把握し、今後さらなる改善を図ることに努めた。外国語部門が対面による授業参観を実施できたことは令和 4 年度外国語系全体の授業改善に大いにつながることが期待される。
学術メディア 創成センター	3	データサイエンス基礎の本センターが担当している部分については、メール等を用いて授業改善に役立てることができたことと、令和 4 年度に向けてセンター教員全員で講習ができたので、概ね評価できる。
国際機構	3	国際機構の授業は主に留学生対象であるため、令和 2 年度に引き続き、授業の大半を遠隔で提供することとなった。それに伴い、FD 活動も、従来のような形で十分行われたとは考えないが、状況に応じて創意工夫し、講師間でより頻繁に情報共有するなど、出来る形での活動を行った。また令和 3 年度は自己点検評価を行い、報告書を公刊した。

3 各部局等の BSD 活動

3 - 1 照会事項 1 BSD 研修会の実施状況

部局	実施回数	名称	開催日	内容	参加人数 (概数)	備考
学務部 (学務課)	11	オンライン FD 研修会第 3 回 「データサイエンスにおける気づきの大切さ」	9 月 15 日	オンラインで開催した本学及び北陸地区高等教育機関の学生・教職員対象の「データサイエンス教育のカリキュラム」等に関する講演会に、教務業務の充実・発展を図るため出席した。	3 名	全体 76 名
		北陸地区国立大学連合協議会 学生教育系専門委員会	9 月 27 日	オンライン及び対面で開催した北陸地区国立大学 4 大学での遠隔授業導入・実施するための課題等の意見交換会に教務業務の充実・発展を図るため、職員も出席した。	4 名	全体 12 名
		令和 3 年度第 4 回全学 FD 研修会 「FD 活動報告書成果発表会」	10 月 29 日	学類等における組織的 FD の取組事例に関する FD 研修会に、教務系職員として資質の向上を図るため出席した。	10 名	全体 55 名
		オンライン FD 研修会第 4 回 「DX の正しい理解と事例」	12 月 2 日	オンラインで開催した本学及び北陸地区高等教育機関の学生・教職員対象の「データサイエンス教育のカリキュラム」等に関する講演会に、教務業務の充実・発展を図るため出席した。	7 名	全体 61 名
		オンライン FD 研修会第 5 回 「New Education Normal 時代の教育展開」	3 月 17 日	オンラインで開催した本学及び北陸地区高等教育機関の学生・教職員対象の「データサイエンス教育のカリキュラム」等に関する講演会に、教務業務の充実・発展を図るため出席した。	3 名	全体 77 名
(新学術創 成研究科 係)		融合科学共同専攻 FD 研修会	3 月 10 日	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、対面で実施していた各種イベントがオンライン化したことで教員同士の交流が希薄化していること、また、近年新たに専任教員が増えたことから、相互の研究内容について理解を深めるとともに、異分野融合を促進させる指導方法について検討する	23 名	

3-1 照会事項1 BSD 研修会の実施状況

部局	実施回数	名称	開催日	内容	参加人数 (概数)	備考
		ナノ生命科学専攻FD研修会	3月3日	国際機構 南コニー准教授を講師に、外国人研究者・外国人留学生を受け入れるに際しての心構えを講師自身の経験を基に講義する。	18名	
(学生支援課)		自死防止のための研修会	12月15日	大学の喫緊の課題である学生の自死防止に取り組むため、国立大学生に係る令和2年度死亡実態調査等から読み取れる現状と、他大学の取り組み等について学ぶ。	120名	講師：茨城大学保健管理センター所長 布施泰子 教授
(入試課)		特別選抜に係る説明会	11月12日	特別選抜の目的及び口述試験の注意事項等を各学域長及び各学類長に説明	25名	
		令和4年度入学者選抜試験判定資料の確認作業要領等に関する説明会	1月20日～26日	主体性評価実施に関する説明をオンデマンドで実施	117名	
(基幹教育支援課)		学生相談担当者研修会	3月28日 (掲載日)	なんでも相談室の基本方針、ハラスメント相談への対応、相談を受ける時の基本的な態度、共通教育カリキュラムや履修登録の方法等の説明をオンデマンドで実施した。	13名	
融合系事務部学生課	11	第3回全学FD研修会「STEAM教育の意義や価値について考える」	9月28日	STEAM教育の意義や価値について、各種取組事例を学びながら、具体的な授業設計や学修成果に資する。	6名	全学FD委員会共催
		融合FD研修会「ダイバーシティに関するFD研修会」	12月2日	育児休業取得推進、インクルージョン等、ダイバーシティに対する理解を深める。	8名	
		第1回融合学域先導学類教員意見交換会	4月9日	インターンシップについて、先導学類教員が幅広く議論し、教育内容・方法の理解・向上を図る。	6名	
		第2回融合学域先導学類教員意見交換会	4月15日	アントレプレナー、アントレプレナーシップについて、先導学類教員が幅広く議論し、教育内容・方法の理解・向上を図る。	3名	

3-1 照会事項1 BSD 研修会の実施状況

部局	実施回数	名称	開催日	内容	参加人数 (概数)	備考
		第3回融合学域 先導学類教員意見交換会	5月8日	「アントレプレナー基礎」への各教員の関わり方等について、先導学類教員が幅広く議論し、教育内容・方法の理解・向上を図る。	3名	
		第4回融合学域 先導学類教員意見交換会	5月10日	学生の実践の場、学びの支援方法等について、先導学類教員が幅広く議論し、教育内容・方法の理解・向上を図る。	3名	
		第6回融合学域 先導学類教員意見交換会	9月1日	学生の履修指導、「学びの計画書」等について、先導学類教員が幅広く議論し、教育内容・方法の理解・向上を図る。	2名	
		第8回融合学域 先導学類教員意見交換会	9月28日	広報、アドバイス教員等について、先導学類教員が幅広く議論し、広報、学生指導等の理解・向上を図る。	3名	
		第9回融合学域 先導学類教員意見交換会	9月30日	ボトムアップの研究グループ等について、先導学類教員が幅広く議論し、研究内容・方法の理解・向上を図る。	3名	
		第10回融合学域 先導学類教員意見交換会	10月29日	「先導プロジェクト演習」、「海外実践留学」等について、先導学類教員が幅広く議論し、教育内容・方法の理解・向上を図る。	4名	
		融合学域観光デザイン学類教学FD	7月28日	文理融合教育、インターンシップ等について、観光デザイン学類関係教員が幅広く議論し、教育内容・方法の理解・向上を図る。	3名	
人間社会系 事務部 学生課	1	教職業務勉強会	12月6日 ・7日	同じ内容の勉強会を2回実施。複雑化する教育職員免許取得制度や令和4年度の共同教員養成課程設置を見据え、勉強会では、学校教育学類だけでなく、教職課程を置く他の学類生の教員免許取得のための履修等の制度説明に資すること等も念頭に、教職免許制度の基本的な知識について研修を行った。	16名	

3-1 照会事項1 BSD 研修会の実施状況

部局	実施回数	名称	開催日	内容	参加人数 (概数)	備考
理工系事務部 学生課	1	理工学域・自然科学研究科 第13回FDシンポジウム	3月23日	これからの大学教育において、コロナ禍で必要性・重要性が高まったオンライン授業、AI学習の有効利用が望まれる。また、コロナウイルス感染拡大が学生にどのような影響を与えてきたかも理解しておく必要がある。さらに、今、学生の「学び」を質保証するために何を求められているかを明確にすることも大切である。このようなポストコロナの大学教育に関して講演者から話題提供を受けて、意見交換や情報共有を行う。	3名	全体103名
医薬保健系 事務部学生課	3	オンライン講義・臨床実習の実践例（医学系FD研修会）	5月10日	講義・臨床実習のオンライン化の実践例紹介	1名	
		自死の予防を含めた学生のメンタルサポートケア（保健学系FD研修会）	11月10日	自死の予防を含めた学生のメンタルサポートケア	3名	
		学生の自死防止のための研修会（学生自死防止専門委員会）	12月15日	死亡実態調査等から読み取れる現状と他大学の取り組み等	5名	オンデマンド視聴者含む
医薬保健系 事務部 保健学支援課	2	保健学系 令和3年度第1回FD研修会	11月10日	足立由美教授（保健管理センター）による、自死の予防を含めた学生のメンタルサポートケアに関する講演	4名	
		保健学系 令和3年度第2回FD研修会	3月2日	吉川一義教授（ハラスメント防止担当学長補佐）による、ハラスメント防止に関する講演	3名	
国際部 留学企画課	6	国立大学法人留学生センター留学生指導担当研究協議会	7月5日	オンライン時代の国際教育・留学生支援として、多様な状況を前提とした教育・支援の留意点等についての説明、情報交換	1名	東京大学主催
		大学国際教育交流・派遣留学管理者向け危機管	7月19日	コロナ禍における留学再開等についての解説と留学再開を決定した大学担当者による派	2名	日本アイラック株式会社主催

3-1 照会事項1 BSD 研修会の実施状況

部局	実施回数	名称	開催日	内容	参加人数 (概数)	備考
		理オンラインセミナー		遣留学の再開に向けた取組の紹介		
		教育機関関係者向け 海外安全対策セミナー	11月25日	政府の取組や海外における様々なリスクに対する安全対策、有事発生時の初動対応等について演習を交えた講演	1名	外務省主催
		新型コロナ対応国際交流緊急セミナー	12月6日	派遣学生や受入留学生への保険適用、危機発生時の対応等、海外危機管理の専門会社等から最新情報を得る。	1名	有限会社国大協サービス主催
		2022年度第2回国立大学法人留学生指導研究協議会	2月10日	コロナ禍2年目の留学生受け入れ体制と具体的取組についての説明、情報交換	1名	大阪大学主催
		国際機構FD研修会「国際情勢と大学の危機管理ー大学教員としての覚悟ー」	2月17日	アフガニスタンでの動乱を例に取り、そのような場合に教員はどのように他の教員や学生、卒業生の安全に寄与すべきかについての講演	3名	国際機構主催

3-1 照会事項1 BSD 研修会の実施状況

(参考)

	名称	内容	参加人数 (概数)	備考
事務局	令和3年度金沢大学初任者研修	事務・技術系の初任職員に対して、本学の基本的事項について講義、見学体験等の多様なプログラムを提供し、「金沢大学職員」としての基礎的な能力を身につけさせることにより、今後の大学事務執行の円滑化を図る。	12名	
	令和3年度トップマネジメント経験研修	事務系の職員に対して、大学の運営に係る重要事項が、実際にどのように決定されていくのか、また、大学のトップが、日々どのように思考し、どのような活動を行っているのか、身近に経験させることにより、大学経営への関心を深め、将来、大学経営に参画できる人材を育成する。	32名	
	金沢大学 ICT 研修 【ICT 活用研修】	金沢大学の事務職員及び技術職員が担う業務に ICT を活用することで、業務効率化と生産性向上を実現するため、現場においてこれを担うことができる人材を育成する。 ICT 研修（基礎→応用→活用）を通じて段階的に、実際の業務に導入するために必要な知識の習得と、思考力の養成を図る。	21名	
	令和3年度国公立大学病院課長補佐級研修	国公立大学病院において部下の育成及び指導・監督する立場にある者に対し、次期課長職級としての資質の向上を目指し、職場の問題を解決するための思考法及び上司・同僚・部下・後輩、その他の関係者を巻き込み成果を上げるために必要なリーダーシップを習得することを目的とする。	1名	全国公立大学病院事務部長会議総務委員会
	令和3年度金沢大学職員ビジネス英語研修	2014年度に採択された「スーパーグローバル大学創成支援事業」の一環として、本学における教育研究の国際化・グローバル化に対応するための事務職員等の英語力強化（英検2級（TOEIC600点）以上）を目指し、さらに、本学が海外展開していくために求められる国際対応力を備えた事務職員等の養成を図る。	12名	
	金沢大学 ICT 研修 【ICT 基礎研修（第三回）】	金沢大学の事務職員及び技術職員が担う業務に ICT を活用することで、業務効率化と生産性向上を実現するため、現場においてこれを担うことができる人材を育成する。 ICT 研修（基礎→応用→活用）を通じて段階的に、実際の業務に導入するために必要な知識の習得と、思考力の養成を図る。	129名	
	令和3年度国公立大学病院一般職員研修	国公立大学附属病院は、我が国の先端的医療や地域における中核的な医療機関として重要な役割を果たしておりながら、少子高齢化により伸び続ける社会保障費や求められる労働条件の緩和など、日本を取り巻く社会情勢の変化とともに、果たすべき役割は刻一刻と変異しており、大学病院職員に必要とされる専門的知識は、庶務、経営、会計、医事、患者サービス、医療情報など各担当によってさまざまであり。高い適応能力と多様性が求められています。 こうした中、主任急に求められる役割を理解し、一般職員に求める能力及び資質向上に係るスキル等を習得することを目的とする。	1名	全国公立大学病院事務部長会議総務委員会
	令和3年度東海・北陸地区国立大学法人等人事担当者（係長級以下）研修	東海・北陸地区の国立大学法人、大学共同利用機関法人、独立行政法人国立高等専門学校機構及び独立行政法人国立青少年教育振興機構の機関（以下「国立大学法人等機関」という。）の人事担当者（係長級以下）に	3名	名古屋大学

3-1 照会事項1 BSD 研修会の実施状況

	名称	内容	参加人数 (概数)	備考
		対し、役割認識と職務に必要な知識及び能力を付与することにより、法人職員の資質の向上と職務遂行能力の増進を図ることを目的とする。		
	令和3年度東海・北陸地区国立大学法人等会計事務職員研修会	東海・北陸地区国立大学法人等の事務職員に対して、国立大学法人会計基準等に関する知識を習得させ、かつ、国立大学法人等職員として必要となる見識を研修することにより、各職員の資質の向上を図ることを目的とする。	5名	
	令和3年度北陸地区国立大学法人等マネジメント研修	国立大学法人を取り巻く環境が大きく変化する中、大学の事務組織には、変化に即応し、課題を解決する能力が求められる。そのためには、管理職が組織の力を最大限に活用することが必要であることから、それらを実現するための、マネジメント能力の向上を図ることを目的とする。	13名	
	石川県「アンガーマネジメント研修」	怒りの感情と上手く付き合い、ストレスの軽減や円滑なコミュニケーションを図る。	9名	石川県自治研修センター
	令和3年度国立大学法人等施設担当職員研修会(初任クラス)	国立大学法人等の施設担当職員として自己の能力を十分に発揮できるよう、国立大学法人等の現況や動向などの概論について理解左折とともに、国立大学法人等の施設整備に係る多様な業務について、初任職員として必要な基礎的知識を習得させる。	2名	東京大学
	令和3年度北陸地区国立大学法人等中堅職員研修	北陸地区国立大学法人等の中堅職員に対し、役割認識と職務に必要な知識及び能力を付与することにより、職務遂行能力の増進を図ることを目的とする。	5名	福井大学
	石川県「ワンペーパー資料作成研修」	様々な情報を図解等で整理し、ワンペーパーにまとめるスキルを習得する。	2名	石川県自治研修センター
	令和3年度北陸地区国立大学法人等初任者研修	新たに採用された事務系・技術系職員に対し、国立大学法人等事務に関する基礎的知識を修得させ、事務能力の増進を図ることを目的とする	11名	
	石川県「文書作成力向上研修(基礎編)」	文書とは情報伝達のための重要な手段であることから、その作成についての基本原則やルールを学び、読み手にとって分かりやすく、かつ、適切な文書を作成する能力の向上を図る。	3名	石川県自治研修センター
	石川県研修「ファシリテーションスキル向上研修」	会議などの集団活動を円滑に進める方法を学び、個々の力を最大限に引き出しながら、組織として効率よく質の高い成果をあげるために必要なスキルについて学ぶ。	2名	石川県自治研修センター
	石川県「説明力向上研修」	県民や上司などに対して、正確で分かりやすく説明するために必要なスキルやコツなどを実践的な演習を通して習得する。	4名	石川県自治研修センター
	ネゴシエーションスキル(交渉力)向上研修	窓口などの渉外業務を遂行する上で必要となる実践的な交渉力の向上を図る。	1名	石川県自治研修センター
	石川県「コーチングスキル研修」	部下や後輩の育成にあたり、主体的に行動することができる職員を育成するためのコミュニケーション方法をはじめとしたコーチングのスキルについて習得する。	1名	石川県自治研修センター
	令和3年度北陸地区国立大学法人等リーダーシップ研修	北陸地区の国立大学法人、独立行政法人国立高等専門学校機構及び独立行政法人国立青少年教育振興機構の機関(以下「国立大学法人等機関」という。)の管理職員に対し、立場と役割を認識し、能力及び識見を確立させ、職員としての資質向上を図ることを目的とする。	12名	国立大学協会、東海・北陸地区国立大学法人等

3-1 照会事項1 BSD 研修会の実施状況

	名称	内容	参加人数 (概数)	備考
		る。		
	第10回国立六大学事務職員研修会	本研修会は、千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学及び熊本大学の国立六大学の事務職員が、国立六大学連携コンソーシアムの趣旨を踏まえ、その具体的な連携・協力の推進や、大学間の垣根を越えた職員同士のネットワークの構築などを目的として実施するものである。	5名	岡山大学
	石川県研修「行政クレーム対応研修」	行政クレームへの対処方法を学ぶとともに、円滑な県民応対に資するコミュニケーション能力の向上を図る。	1名	石川県自治研修センター
	令和3年度北陸地区国立大学法人等新任係長・専門職員研修	北陸地区国立大学法人等の係長・専門職員としての心構え及び職務遂行に必要な基本的、一般的知識を修得させるとともに、係長・専門職員としての能力及び識見を確立させ、国立大学法人等の管理運営の重要な担い手としての資質向上を図ることを目的とする。	14名	福井大学
	2021年度国立大学法人等若手職員勉強会	ステークホルダーとのより良い連携・協働の形を探る「つなぐ・つながる国立大学」という視点から、国立大学法人等及びその職員の10年後のあるべき姿についてグループワークを中心に考え、若手職員の資質の向上を図るとともに、これからの国立大学法人等の発展に必要な意識を養う。また、他機関の職員との交流により、コロナ禍で希薄となった「つながり」の重要性を再認識し、職員間のネットワーク構築を図る。	2名	一般社団法人国立大学協会
	2020年度「在米大学職員研究会」	米国滞在中の職員及び将来北米研修を考えている大学職員の意識向上や動機付け、今後の研修に向けたモチベーション向上等につなげていくことを目的として実施する。	1名	(独)日本学術振興会 サンフランシスコ研究連絡センター
	石川県「データの見方・活かし方研修」	ビッグデータをはじめとする統計データ等を理解・分析する力を養い、その活用方法を習得する。	2名	石川県自治研修センター

[学務部]

○学務部学生支援課

KUGS サポートネットワーク本部会議及び自死防止専門委員会を開催し、各部局における現状の共有や情報交換を行った。

また、保健管理センターをはじめとする KUGS サポートネットワークの各支援部門と連携し、自死の懸念及びその他個別に対応が必要な学生の支援を行っている。

○学務部入試課

これまで対面で開催していた「令和 4 年度金沢大学入学者選抜試験事務担当者打合せ会」をオンライン形式に変更し、繁忙期においても入試担当者がいつでも繰り返し内容を確認できるように見直しを行った。

令和3年度 BSD 活動の自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

評価 4: 大いに評価できる, 3: 概ね評価できる, 2: あまり評価できない, 1: ほとんど評価できない

部局名	自己評価	総評	来年度の改善取組予定
学務部 学務課	3	急速に進む教育 DX をはじめとする諸課題等に関する多様な知識や取組事例を学ぶことで、教務系職員としての資質向上を図ることができた。ただ、昨年同様、コロナ禍のため、参加者同士の対面でのネットワーク構築が困難であったことが残念である。	
学務部学務課 新学術創成 研究科係	3	カリキュラムの検討・改善の他、研究科の実状に沿った内容の研修会を開催することにより、より教育指導体制の改善に資する内容となった。	
学務部 学生支援課	3	アドバイス教員等による日頃の指導や、関係部署、関係教職員の協力に加え、自死防止のための研修会を遠隔対応でも行ったことにより、懸念のある学生への対応方法等に関する教職員の理解がさらに深まり、学生支援体制の強化につながった。	自死防止に関する研修会を継続して開催する。
学務部 入試課	3	コロナ禍のため外部機関が主催する研修会は実施されなかったが、入学者選抜試験の事務担当者向けに打合せ会をオンデマンド形式で開催し、令和4年度入学者選抜業務全般について理解を深めた。また、特別選抜に係る説明会及び主体性評価実施説明会を昨年度から内容及び実施方法を見直し実施した。	
学務部 基幹教育支援課	3	「学生相談担当者研修会」は、「なんでも相談室」で学生からの相談を受ける教員や学生を対象に開催しているが、相談員となるメンバーが毎年変わるため継続した開催が必要と思われる。	次年度も引き続き対象者に向けて実施する予定である。
融合系事務部 学生課	3	オンライン会議の普及により、BSD 研修会や FD 研修会に職員が参加しやすい環境が整ってきており、融合学域の教育方法について理解を深める等、職員の知識修得・資質向上を図った。	
人間社会系事務部 学生課	3	教員免許取得という学生の進路選択の幅を広げる意味でキャリア形成にもつながる教職課程制度についての勉強会を行い、学生課内の多くの職員の参加があったことは評価できる。今後は、教職課程に限らないが、SD	

3-3 照会事項3 自己評価及び総評並びに来年度の改善取組予定

部局名	自己評価	総評	来年度の改善取組予定
		活動における教員と共同の在り方が改善点と考えている。	
理工系事務部 学生課	3	FD シンポジウムへの参加を通じて、コロナ禍でのオンライン授業や学生の状況の変化に関して、理解を深めることができた。	
医薬保健系事務部 学生課	3	地区事務部や学生課主催でBSD 活動を実施することは、講師、予算、課題の問題もあり難しいと考える。職員の研修としては、大学全体の研修、他大学合同の学生系研修、外部機関主催の研修に参加している。	大学全体の研修、他大学合同の学生系研修、外部機関主催の研修を活用し、課内職員へ積極的に参加するよう促す。
医薬保健系事務部 保健学支援課	3	教員向けの2回のFD 研修会への参加を通じて、学生のメンタルサポートケアやハラスメント防止に関し、学内で実際に起きている事例を知り、理解を深めることができた。	
医薬保健系事務部 薬学・がん研支援課	3	「研修」という形式にまでは至らないものの、日常業務のOJTによる知識向上やスキルアップに努めている。また、専門部署や関係教員等にアドバイスを求め、その内容等の情報共有を課内で密に行っている。	
国際部留学企画課	3	留学生支援を図るため、担当者説明会、研修会等に積極的に参加した。特に外務省や国大協サービスが主催する危機発生時の対応にかかる研修に職員を参加させ、学生の危機対応に係る能力向上を図った。	

4 資料編

4-1 令和3年度授業評価アンケート

4-1-1 令和3年度授業評価アンケート回答率

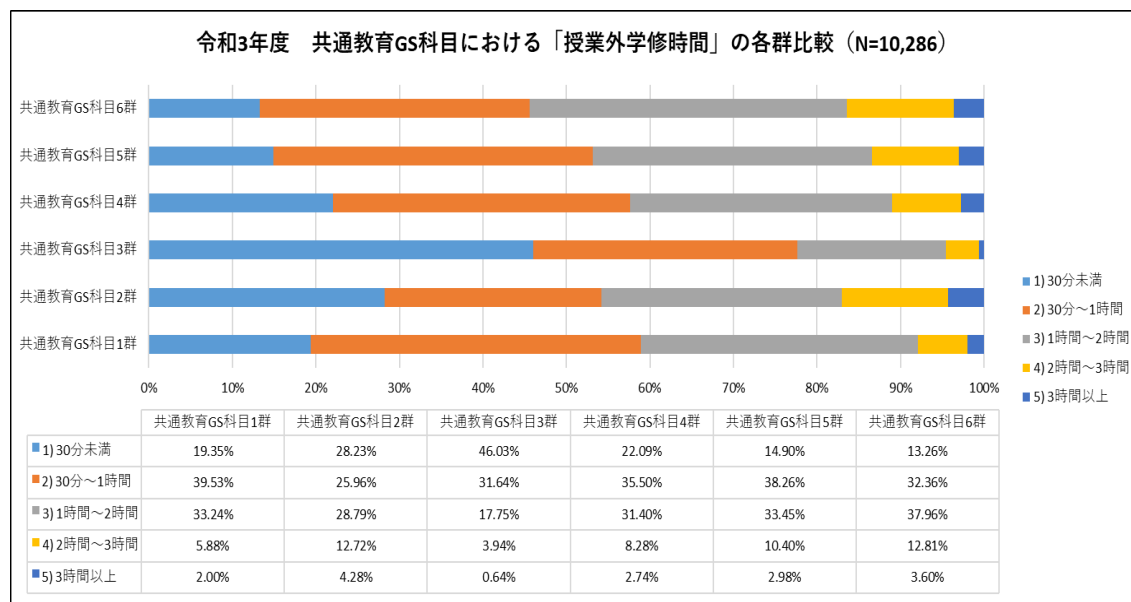
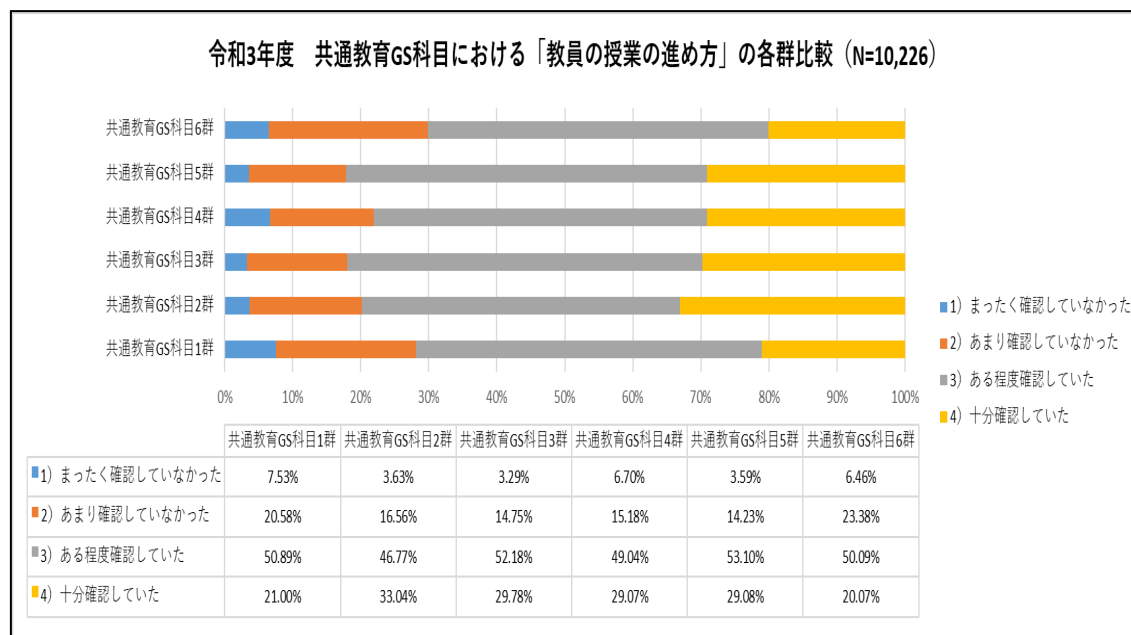
令和3年度授業評価アンケート回答率（学務情報システムでの実施分）について、前年度との比較は以下のとおりである。全般的に回答率の改善の必要性がある。特に、共通教育や医薬保健学域で減少している。

令和3年度授業評価アンケート回答率概要（学務情報システムでの実施分）

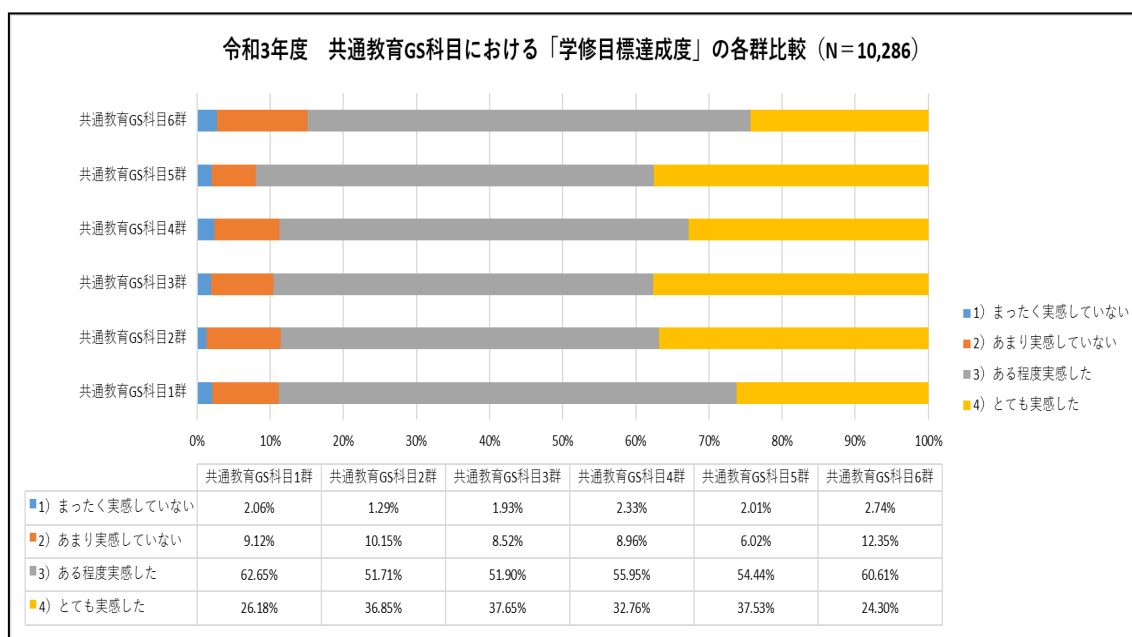
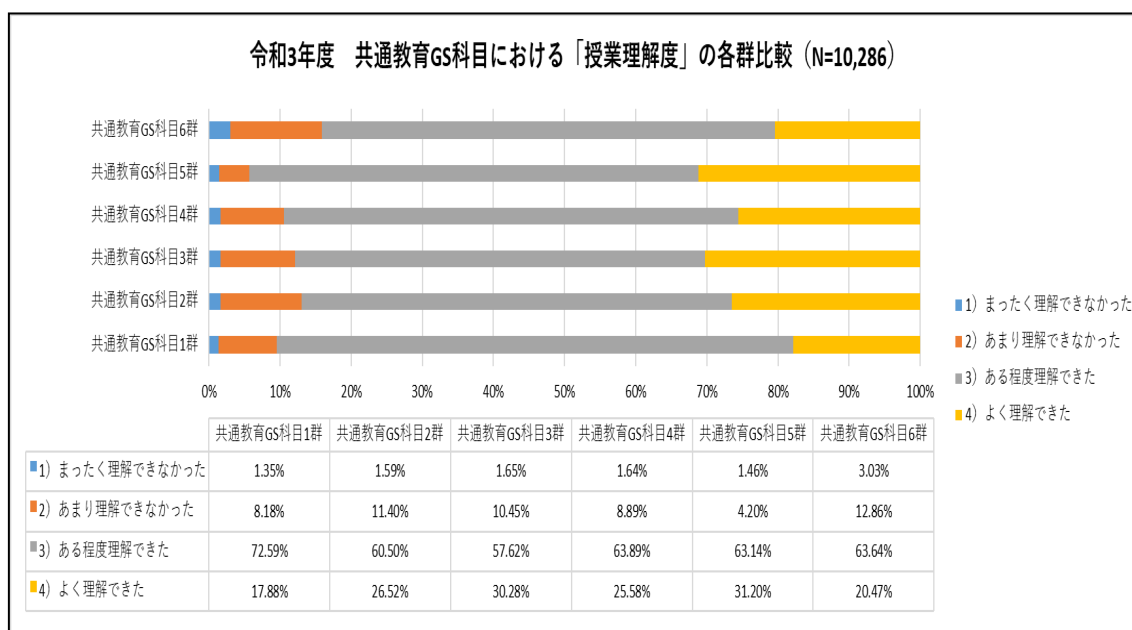
部局名	回答率	（参考）令和2年度回答率
【学士課程】		
共通教育	37.0%	44.9%
融合学域	61.1%	—
人間社会学域	16.3%	16.6%
理工学域	20.0%	13.8%
医薬保健学域	27.7%	33.0%
【博士前期課程・修士課程】		
人間社会環境研究科	25.8%	30.5%
自然科学研究科	7.3%	7.8%
医薬保健学総合研究科	48.7%	27.8%
新学術創成研究科	21.0%	30.0%
法学研究科	11.1%	—
【博士後期課程・博士課程】		
人間社会環境研究科	25.0%	30.8%
医薬保健学総合研究科	32.1%	30.0%
先進予防医学研究科	59.2%	—
【専門職学位課程】		
法学研究科	65.5%	64.9%
教職実践研究科	99.3%	81.8%

4-1-2 共通教育GS科目1～6群の回答結果比較

令和3年度から共通教育GS科目に新たに6群が加わり、1群から6群における「教員の授業の進め方」「授業外学修時間」「授業理解度」「学修目標達成度」の項目について比較を行った。新設された6群では、他群に比べ、「授業外学修時間」が多くなっていることが特徴的である。



4-1 令和3年度授業評価アンケート



4-2 令和3年度卒業・修了者アンケート

4-2-1 令和3年度卒業・修了者アンケート回答率

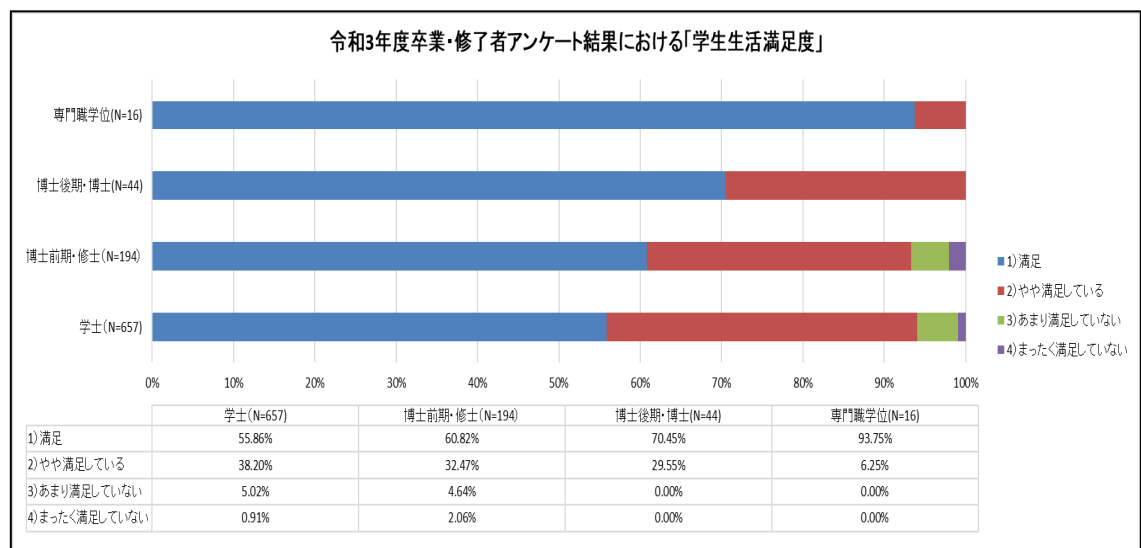
令和3年度卒業・修了者アンケート回答率について、前年度との比較は以下のとおりである。全般的に回答率の改善の必要性がある。特に、理工学域や自然科学研究科で減少している。

令和3年度卒業・修了者アンケート回答率概要

部局名	回答率	(参考) 令和2年度回答率
【学士課程】		
人間社会学域	47.5%	49.9%
理工学域	21.9%	23.7%
医薬保健学域	41.8%	40.5%
【博士前期課程・修士課程】		
人間社会環境研究科	79.4%	63.2%
自然科学研究科	25.3%	27.7%
医薬保健学総合研究科	55.8%	55.3%
新学術創成研究科	5.6%	6.7%
【博士後期課程・博士課程】		
人間社会環境研究科	71.4%	66.7%
自然科学研究科	8.9%	8.9%
医薬保健学総合研究科	61.4%	43.9%
先進予防医学研究科	66.7%	100.0%
【専門職学位課程】		
法学研究科	100.0%	100.0%
教職実践研究科	92.3%	100.0%

4-2-2 令和3年度卒業・修了者アンケート結果による「学生生活満足度」

令和3年度卒業・修了者アンケートから全学共通で「学生生活満足度」の設問を4件法で設定した。どの学位課程においても、概ね満足度が高い結果となっている。



4-3 令和3年度卒業・修了後アンケート

4-3 令和3年度卒業・修了後アンケート

4-3-1 令和3年度卒業・修了後アンケート回答者内訳

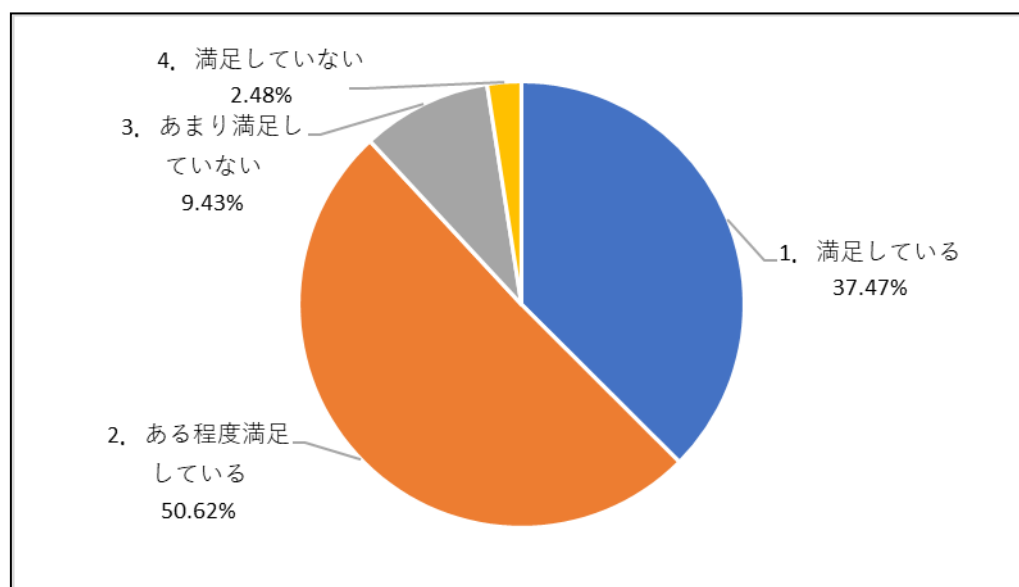
令和3年度卒業・修了後アンケートについて、金沢大学IDを活用して初めて実施した。令和4年3月30日～5月10日の回答期間において、644件の回答があり、そのうち、有効回答数は485件（対象者43,960名、回答率1.1%）であった。その回答者内訳は以下のとおりである。今後、継続的に実施することで、金沢大学IDを活用した当該アンケートを充実させることができると考えている。

	【卒業・修了年度】				総計
	2001～2005	2006～2010	2011～2015	2016～2020	
1.人間社会学域	—	0	6	111	117
2.理工学域	—	0	2	144	146
3.医薬保健学域	—	0	4	61	65
4.文学部	0	2	0	—	2
5.法学部	0	2	0	—	2
6.教育学部	1	1	0	—	2
7.医学部	1	5	0	0	6
8.人間社会環境研究科	—	3	6	7	16
9.自然科学研究科	8	5	8	22	43
10.医薬保健学総合研究科	—	—	4	39	43
11.先進予防医学研究科	—	—	—	1	1
12.法務研究科	0	0	0	4	4
13.文学研究科	1	0	—	—	1
14.教育学研究科	5	1	2	1	9
15.社会環境科学研究科	4	1	0	—	5
16.医学系研究科	5	8	9	1	23
総計	25	28	41	391	485

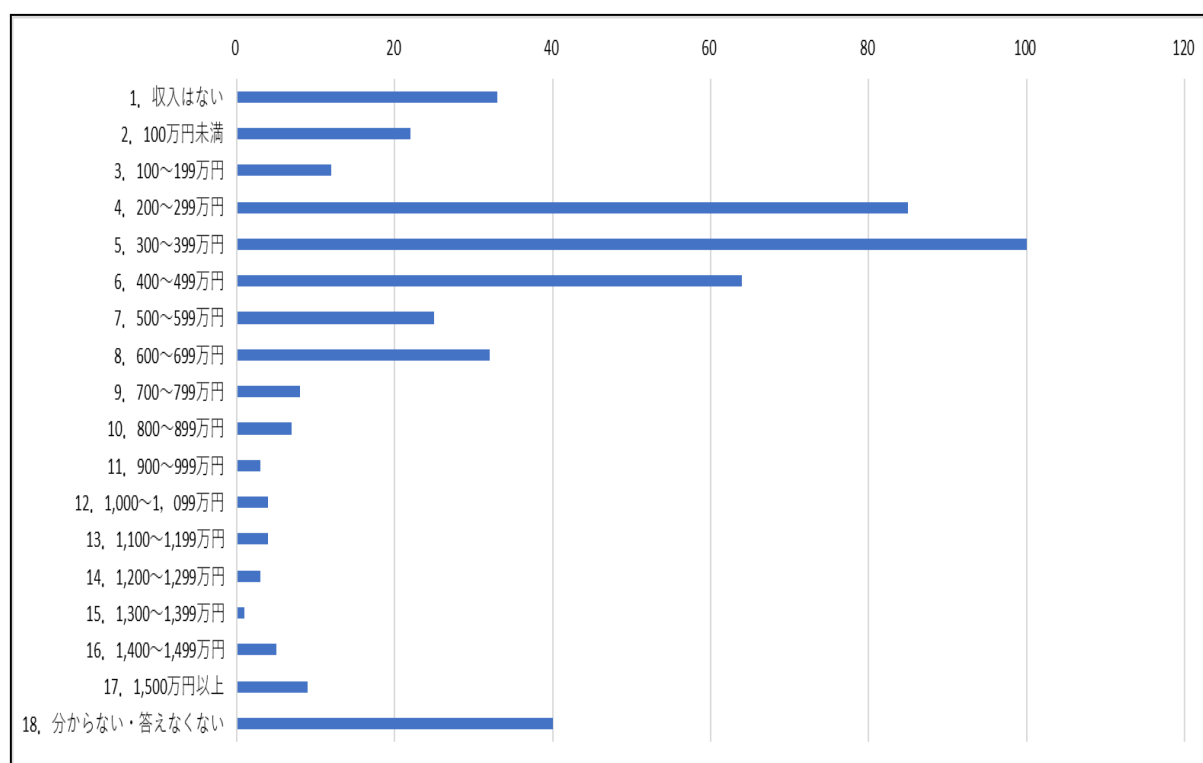
4-3-2 現在の職種（N=403）

	1. 事務職	2. 経営・管理職	3. 技術職	4. 技能職	5. 教育職	6. 研究職	7. 販売・サービス	8. 専門職・自由業	11. アルバイト・派遣社員	その他	総計
1.人間社会学域	52	1	9	2	14	1	16	2	1	4	102
2.理工学域	5		71	1	2	17	4			1	101
3.医薬保健学域	1	1	16	1	2	3	3	22	1	2	52
4.文学部	1				1						2
5.法学部	2										2
6.教育学部	1				1						2
7.医学部			4	1						1	6
8.人間社会環境研究科	1	2			2	5		3			13
9.自然科学研究科	1		15	1	7	15			1		40
10.医薬保健学総合研究科		1	5	3	9	9		11	1	1	40
11.先進予防医学研究科			1								1
12.法務研究科		1						1	2		4
13.文学研究科	1										1
14.教育学研究科	3				4	2					9
15.社会環境科学研究科					3	2					5
16.医学系研究科		1	3	1	5	3		10			23
総計	68	7	124	10	50	57	23	49	6	9	403

4－3－3 現在の職業満足度 (N=403)



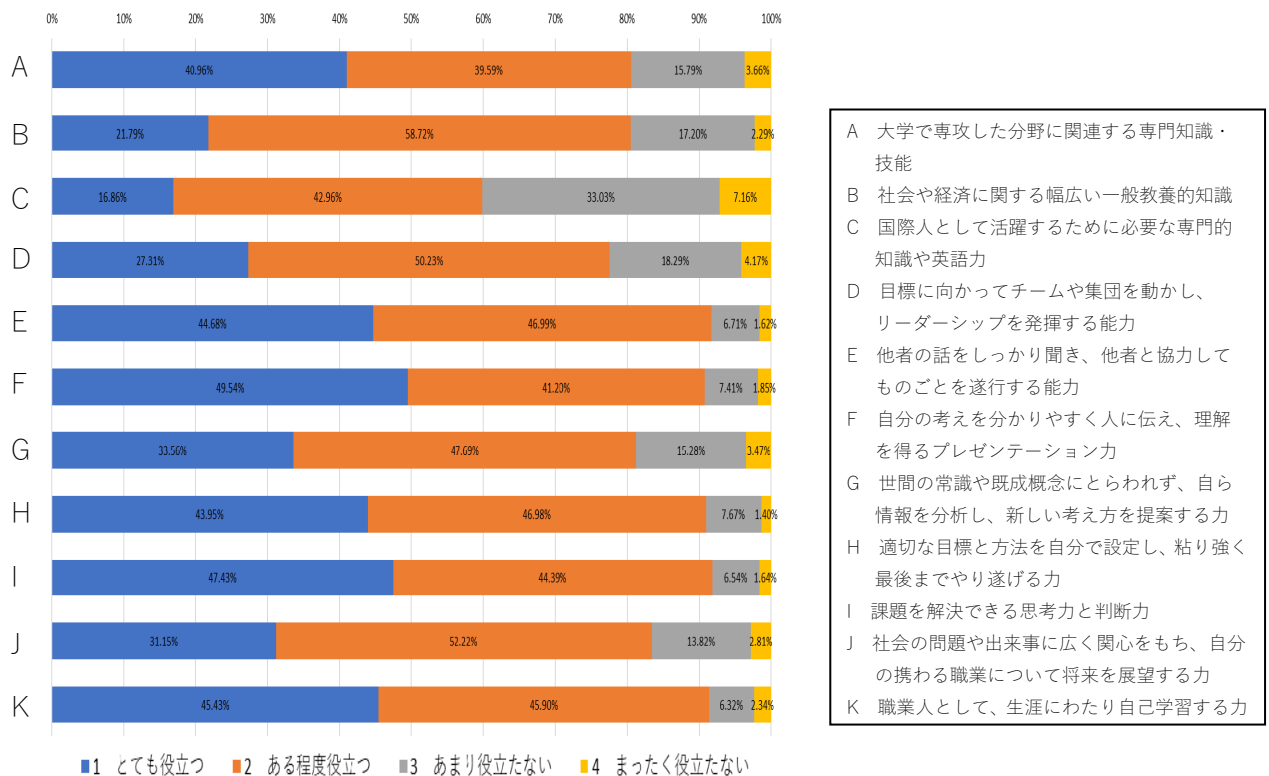
4－3－4 現在の個人年収 (N=457)



4-3 令和3年度卒業・修了後アンケート

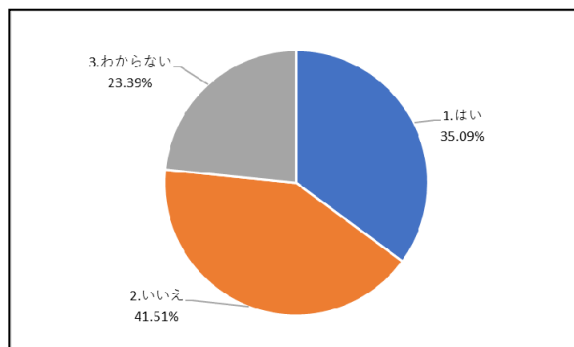
4-3-5 大学での経験や学修で得られた知識・技能の卒業・修了後のキャリアにおける役立ち度合い (N=427)

大学での経験や学修で得られた知識・技能の卒業・修了後のキャリアにおける役立ち度合いでは、「課題を解決できる思考力と判断力」「他者の話をしっかり聞き、他者と協力してものごとを遂行する能力」「職業人として、生涯にわたり自己学習する力」「適切な目標と方法を自分で設定し、粘り強く最後までやり遂げる力」「自分の考えを分かりやすく人に伝え、理解を得るプレゼンテーション力」が特に高い結果となっている。



4-3-6 大学・大学院における学び直しの希望の有無 (N=436)

大学・大学院における学び直しの希望が一定規模存在 (35.09%) することが分かり、学び直し向けの効果的な情報発信等を行っていく必要があると考える。



4－4

金沢大学 FD 委員会規程

(平成 20 年 4 月 1 日規程第 1031 号)

(設置)

第 1 条 金沢大学教育企画会議に、国立大学法人金沢大学基幹会議規程第 22 条第 1 項の規定に基づき、金沢大学 FD 委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(目的)

第 2 条 委員会は、本学及び本学の教員が、教育の質的向上を図るために組織的に取り組む活動を推進する事項について審議することを目的とする。

(審議事項)

第 3 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育方法等の調査・検討に関すること。
- (2) 研修会等の実施に関すること。
- (3) 各部局が実施する活動への支援に関すること。
- (4) その他全学的な連絡・調整に関すること。

(組織)

第 4 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育担当理事が指名する学長補佐 1 人
- (2) 融合学域を担当する教員から選出された者 1 人
- (3) 人間社会学域、理工学域及び医薬保健学域を担当する教員から選出された者 各 2 人
- (4) 各研究科を担当する教員から選出された者 各 1 人
- (5) 国際基幹教育院に所属する教員から選出された者 1 人
- (6) 教学マネジメントセンターに所属する教員から選出された者 1 人
- (7) 学務部長
- (8) その他委員長が必要と認めた者 若干人

(任期)

第 5 条 前条第 1 号から第 6 号及び第 8 号の委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 6 条 委員会に委員長を置き、第 4 条第 1 号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会の会議を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(会議)

第 7 条 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員長は、必要があると認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(ワーキンググループ等)

第9条 委員会に、専門的事項を審議するため、ワーキンググループ等必要な下部組織を置くことができる。

(事務)

第10条 委員会の事務は、学務部学務課において処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則 (抄)

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

4－5

金沢大学におけるFD活動指針

平成21年3月 9日 FD委員会承認

平成21年4月10日 教育企画会議承認

令和 3年6月 4日 FD委員会改正(抄)

令和 3年6月11日 教育企画会議改正(抄)

本学は、社会の信頼に応える学士課程並びに大学院課程教育を実現するために、社会的要請に的確に対応し、本学が掲げる教育研究上の目的に根ざした人間を育成することができるように、質の高い教育を実施する責務を負っている。

金沢大学学則第3条において、本学は、教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、自ら授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を行うことを定めている。もとより、授業の内容及び方法の改善は、各教員や部局等において地道に積み重ねられてきたものであるが、今後は、それらの改善に向けての取組みを、計画・実践・評価・改善のサイクルの中に位置づけ、より組織的かつ継続的に行うことにより、実質的な改善へと繋げていかなければならない。

本指針に基づき、本学のFD及びSD活動がますます活発となり、一層本学の教育の質の向上及び学生支援の推進に繋がることを期待する。

(目的)

第1 この指針は、金沢大学におけるFD及びSD活動についての基本的事項を定め、授業の内容及び方法の改善、教職員による様々な学生支援及びそのための研究・教育に関する研修についての取組みを明らかにすることにより、本学の教職員及び部局等のFD及びSD活動を推進し、もって教育の質の向上を図り、学生支援の円滑な遂行を図ることを目的とする。

(定義)

第2 この指針において、「FD」(ファカルティ・ディベロップメント)とは、授業の内容及び方法の改善等による教育の質の向上並びに学生の心身の保護とキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための教員及び部局等の研究、研修等の自発的取組みをいう。

2 この指針において、「SD」(スタッフ・ディベロップメント)とは、教育研究活動等の適切かつ効率的な運営を図るために必要な知識及び技能の習得並びに能力及び資質の向上を図るための教職員の研修等の自発的取組みをいう。

3 この指針において、「BSD(バックアップ・スタッフ・ディベロップメント)」とは、SD活動のうち、教員のFD活動を支援すること、学生の心身の健康を保護すること、及びキャリア形成を促進する等の学生支援を図るための職員の研修等の自発的取組みをいう。

- 4 この指針において、「教職員」とは、本学の常勤及び非常勤の教職員をいう。
- 5 この指針において、「部局等」とは、教職員個人を除き、学域・学類・研究科・センター等、FD活動に関して、組織的取組みを実施する主体をいう。

（教職員及び部局等の責務）

- 第3 本学の教員は、金沢大学学則第3条（自己点検評価及び研修等）及び金沢大学大学院学則第21条（授業の方法等）に基づき、個人として、積極的にFD活動に取り組むとともに、職務上必要に応じて、SD活動に取り組む。
- 2 本学の職員は、職務上必要に応じて、SD活動に取り組む。
- 3 部局等は、教員のFD活動を促進するために、組織的に授業の内容・方法の改善及び学生支援のための取組みや研修の計画を策定するとともに、その実施内容等を点検し、報告書を毎年度作成する。

（FD委員会の業務）

- 第4 FD委員会は、金沢大学FD委員会規程第3条に基づき、本学におけるFD及びBSD活動並びに本指針に関する事項を審議する。
- 2 FD委員会は、全学におけるFD活動に関する状況等を把握するとともに、それらの情報が全学的に共有されるよう努める。
- 3 FD委員会は、部局等の作成した報告書に基づき、当該年度の全学におけるFD活動に関する報告書（以下、「年度報告書」という。）を作成し、それを教育企画会議に報告する。

（FD委員会委員長による改善の措置等）

- 第5 FD委員会委員長は、部局等のFD活動の改善に必要と認めた場合、FD委員会の議に基づいて、改善のための適切な措置等を講ずるとともに、それを教育企画会議に報告する。

（年度報告書の公開）

- 第6 FD委員会委員長は、年度報告書を公表する。

（部局等の改善に向けての取組み）

- 第7 部局等は、自らFD活動の実施に努めるとともに、その活動内容等について、継続的に改善に努める。
- 2 部局等は、優れたFD活動を行っている教員への表彰や、研修会参加についての証明書発行等の、FD活動推進のための取組みを行うことができる。

（FD活動等への支援）

- 第8 教学マネジメントセンターは、FD、SD及びBSD活動に対して、必要な支援を行う。

4－6

金沢大学履修規程

(平成 20 年 4 月 1 日規程第 1079 号)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、金沢大学学則第 49 条第 3 項の規定に基づき、授業科目の履修について必要な事項を定めるものとする。

(授業科目と履修方法)

第 2 条 授業科目は、共通教育科目(「金沢大学<グローバル>スタンダード」を基軸とした、学士課程教育の基盤をなす授業科目をいう。)及び専門教育科目(学域に係る専門の学芸を教授することを目的とする授業科目をいう。)に区分する。

2 履修方法については、国際基幹教育院及び各学域において別に定める。

第 3 条 共通教育科目は、「導入科目」、「GS 科目」、「GS 言語科目」、「基礎科目」、「初習言語科目」及び「自由履修科目」に区分する。

2 専門教育科目は、「学域GS 科目」、「学域GS 言語科目」、「専門基礎科目」及び「専門科目」に区分する。

(基幹教育特設プログラム)

第 4 条 特定の分野の学修を目的として、共通教育科目及び各学類が提供する専門教育科目から編成する教育プログラム(以下「基幹教育特設プログラム」という。)を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

2 基幹教育特設プログラムにおいて、所定の単位を修得した者には、共通教育委員会の議を経て、国際基幹教育院長が修了を認定する。

3 前 2 項の教育課程等については、国際基幹教育院において別に定める。

(副専攻)

第 5 条 学生が所属する学域、学類並びにコース及び専攻に係る分野以外の分野又は課題に関する教育課程(以下「副専攻」という。)を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

2 副専攻において、所定の単位を修得した者には、当該学生が所属する学域の教育研究会議の議を経て、学域長が修了を認定する。

3 前 2 項の教育課程等については、各学域において別に定める。

(先導 STEAM 人材育成特別プログラム)

第 5 条の 2 幅広い教養と深い専門性を両立した人材を育成することを目的として、「先導 STEAM 人材育成特別プログラム」を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

2 先導 STEAM 人材育成特別プログラムを修了した者には、修了証を交付する。

3 先導 STEAM 人材育成特別プログラムに関する必要な事項は、別に定める。

(データサイエンス特別プログラム)

第5条の3 数理・データサイエンス・AI 活用のための基礎的知識を有する人材を育成するため「データサイエンス特別プログラム」を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

2 データサイエンス特別プログラムを修了した者には、修了証を交付する。

3 データサイエンス特別プログラムに関する必要な事項は、別に定める。

(教育職員免許状の取得に関する授業科目)

第6条 教育職員免許状を取得しようとする者は、別に定める「教科に関する専門的事項」，「教育の基礎的理解に関する科目」，「道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目」，「教育実践に関する科目」，「各教科の指導法」，「大学が独自に設定する科目」及び「特別支援教育に関する科目」の単位を修得しなければならない。

(受講者の抽選・選抜)

第7条 一部の授業科目については、選抜試験又は抽選等で受講者を選定することがある。

2 前項の授業科目及び受講者の適正人数は、国際基幹教育院及び各学域において指示するものとする。

(履修手続)

第8条 学生は、履修を希望する授業科目について、別に定める履修登録期間に履修登録手続により学域長又は国際基幹教育院長に願い出、許可を受けなければならない。

2 学生は、履修登録期間後に履修を希望する授業科目の確認を行い、変更する場合は確認・変更期間内に手続を行わなければならない。

3 履修登録手続をしていない授業科目については、履修することができない。履修登録手続に不備又は誤りがあった場合も同様とする。

4 やむを得ない理由により、所定の期間内に履修登録手続を行うことができない場合は、その理由を付して学域長又は国際基幹教育院長に届け出なければならない。

(履修登録の制限)

第9条 各学期又は各クォーターに履修登録できる単位数の上限は、各学域及び国際基幹教育院で別に定める。

(履修許可の取消し)

第10条 履修を許可された後においても、本規程に違反して履修登録したことが判明した場合には履修の許可を取り消すことがある。

(単位認定対象資格)

第11条 次に掲げる各号のいずれかに該当する学生は、単位認定を受ける資格がないものとする。

(1) 当該授業科目の履修登録をしていない者

(2) 授業出席回数が国際基幹教育院及び各学域で定める出席すべき授業回数に満たない者

(3) 休学期間が当該授業科目の開講期間と重なる者
(不正行為)

第12条 試験等における不正行為については、金沢大学学生懲戒規程の定めるところによる。

(単位確定時期)

第13条 各学期及び各クォーターにおける開講授業科目の単位確定時期は別に定める。ただし、卒業者については学位授与の日をもって単位確定の時期とする。

(成績の評価)

第14条 授業科目の成績は、次の各号に掲げる基準によるものとする。

評語	英訳(証明書)評語	判定	学修達成度
(1) S	AA	合格	90%以上
(2) A	A	合格	80%以上 90%未満
(3) B	B	合格	70%以上 80%未満
(4) C	C	合格	60%以上 70%未満
(5) 合	P: Pass	合格	60%以上
(6) 認定	CF: Certify	合格	60%以上
(7) 不可		不合格	60%未満
(8) 否		不合格	60%未満
(9) 放棄		不合格	

2 「合」及び「否」の評語は、一定水準の成績達成を目的とした授業科目において使用するものとする。

3 「認定」の評語は、本学の開講科目以外の授業科目及び外部試験等の結果により、評価する授業科目において使用するものとする。ただし、単位互換協定書その他により定めがある場合は、この限りでない。

4 単位認定を保留とする場合の基準及び保留後の成績評価方法については、国際基幹教育院及び各学域において別に定める。

5 成績通知には、第1項の評語を用いる。

6 成績証明書には、判定が合格となった授業科目のみ記載し、第1項の評語を用いる。ただし、認定は「認」と表示する。

(総合成績評価)

第15条 前条の成績の評価に対して次の各号に掲げるグレード・ポイント(以下「GP」という。)を設定し、不合格の授業科目を含めて、履修科目のグレード・ポイントの平均(グレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という。))を算出し、総合成績評価を行う。

評語	GP
(1) S	4 点
(2) A	3 点
(3) B	2 点
(4) C	1 点
(5) 合	対象外
(6) 認定	対象外
(7) 不可	0 点
(8) 否	対象外
(9) 放棄	0 点 (第 14 条第 2 項に規定する評語を用いる科目については対象外)

2 単位認定が保留となった授業科目の GP は、0 点とする。

3 GPA を算出する基準は、次のとおりとする。

$$\text{GPA} = (\text{授業科目で得た GP} \times \text{その授業科目の単位数}) \text{の総和} / (\text{履修登録した授業科目の単位数の総和})$$

4 成績証明書には、GPA は明記しない。

5 GPA における保留授業科目は、履修登録した授業科目の単位数の総和に含める。

6 再履修の取扱いについては、国際基幹教育院及び各学域において別に定める。

7 GPA 対象外授業科目は、次のとおりとする。

(1) 共通教育科目

「導入科目」，「いしかわシティカレッジの他大学提供科目」，「放送大学の授業科目」，「入学前の既修得単位を認定した授業科目」及び「外部試験によって「認定」の評語で単位認定した授業科目」

(2) 前号以外の共通教育科目については、各学域において別に定める。

(3) 専門教育科目については、各学域において別に定める。

(成績評価の疑義申し立て)

第 16 条 成績の評価に対する疑義申し立てについては、「成績評価への疑義申し出に対する対応についての申し合わせ」による。

附 則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行し、平成 20 年度入学者から適用する。

附 則 (抄)

この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

4-7

金沢大学シラバス様式

〇〇学域 〇〇学類

科目名[英文名] / Course Title			
担当教員名[ローマ字表記] / Instructor			
科目ナンバー / Numbering			
時間割番号 / Course Number		科目区分 / Subject distinguished	
講義形態 / Lecture Form		開講学域等 / Faculty	
適正人数 / Number of Proper		開講学期 / Semester	
曜日・時限 / Day・Period		単位数 / Number of Credits	
対象学生 / Target students			
キーワード / KeyWord			
講義室情報 / Lecture room information			
開放科目 / Open account			
備考 / Note			
授業の主題 / Topic			
授業目標 / Objective			
学生の学修目標 / Learning Goal			
学修成果 / Learning Outcomes			
授業概要 / Outline			
授業スケジュール / Lecture Schedule			
評価方法 / Grading Method			
※成績評価: 次項の項目及び割合で総合評価し、次のとおり判定する。 「S(達成度90%~100%)」、「A(同80%~90%未満)」、 「B(同70%~80%未満)」、「C(同60%~70%未満)」を合格とし、 「不可(同60%未満)」を不合格とする。(標準評価方法)			
評価の割合 / Grading Rate			
ルーブリック / Rubric			
ルーブリック備考 / Rubric note			
予習に関する指示 / Preparation			
復習に関する指示 / Homework			
教科書 / Text Books			
参考書 / Reference Books			
教科書・参考書補足 / Teaching Materials Note			
オフィスアワー等(学生からの質問への対応方法等) / Consultation Time			
履修条件 / Prerequisites			
適正人数 / Class Size			
受講者調整方法 / Method for adjusting class size			
その他履修上の注意事項や学習上の助言 / Others			
カリキュラムの中の位置づけ / Position of Curriculum			
特記事項 / Special Note			

4-8 令和3年度金沢大学FD委員会名簿

4-8

令和3年度 FD委員会

事務担当:学務部学務課教育推進係

任期2021.4.1～2022.3.31

部 局 等	職 名	氏 名
〔委員長〕	学長補佐	片岡 邦重
融合学域	准教授	河内 幾帆
人間社会学域	教授	大村 雅章
人間社会学域	教授	石黒 盛久
理工学域	教授	水野 元博
理工学域	教授	下川 智嗣
医薬保健学域	教授	吉田 栄人
医薬保健学域	教授	西村 誠次
人間社会環境研究科	准教授	小林 大祐
法学研究科	教授	宮本 誠子
自然科学研究科	准教授	ジェンキンズ ロバート
医薬保健学総合研究科	教授	藤永 由佳子
先進予防医学研究科	准教授	山下 竜也
新学術創成研究科	准教授	辛川 誠
教職実践研究科	准教授	鈴木 瞬
国際基幹教育院	教授	吉永 契一郎
教学マネジメントセンター	教授	堀井 祐介
教学マネジメントセンター	教授	林 透
事務局学務部	学務部長	西出 良一



令和3年度
金沢大学FD活動報告書
令和4年8月発行

編集・発行 金沢大学FD委員会
〒920-1192 金沢市角間町
E-mail : kyomu@adm.kanazawa-u.ac.jp (学務部学務課)